

1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明なところもあるが、消費税増税後の反動減がみられた前年と比べると、若干、景気は良くなってきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・11都府県を対象とした緊急事態宣言が続くなか、区域内の来街者数は昼間、夜間を問わず最低の水準が継続している。特に夜間においては、午後6時頃の来街者が例月の1～2割程度まで落ち込んでいる。荒天の影響もあり、1人の客もみられなかった日があるという店舗も僅かではあるが増えている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・11都府県を対象とした緊急事態宣言の影響で人の動きが抑制されており、来客数が減少したままの状態が続いている。緊急事態宣言が解除されるまでは今の状況が続くことになる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・食品の売上が好調であり、1月も前年を3%程度上回っている。一方、衣料品は前年の8割程度の水準から脱却できずにいる。新型コロナウイルスの感染防止対策が始まった頃から不要不急ではない商材の購入を控える傾向が続いており、新型コロナウイルス禍前の状態にはなかなか戻ってこない。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・3密を避ける意味合いもあり、客の来店頻度が低下する傾向が続いている。一方、まとめ買いによる買上点数の上昇がみられる。また、巣籠り消費のなかで多少値が張ってもおいしいものを食べたいという気持ちがあるのか、本マグロや国産牛肉のような高単価商材も新型コロナウイルス禍前と比べてよく売れている。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、営業指標などの数値に大きな変化はみられない。来客数は減少しているものの、客単価が上昇していることで、売上は前年を3～5%前後上回って推移している。元々、レストランや居酒屋などの事業者による買上が多くみられていたが、それにもかかわらず来客数の減少が5%程度にとどまり、客単価が大きく伸びていることから、家庭内需要が相当増えていることがうかがえる。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・節分商材やバレンタイン商材の販売が好調である。外食、旅行などの費用がこうした家庭内イベントの費用に回っているとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は減少したままである。ただ、客単価が上がっていることから、売上が若干の減少にとどまる状況が続いている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年の初売りは来客数が前年の60%にとどまった。また、必要なものしか売れなかったことで客単価も落ち込んでおり、良いところが全くなく苦戦した。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・12月は客の動きが悪かったが、1月に入り客の動きが良くなっており、販売量が増えている。当社の決算が近づいていることもあり、売れている営業マンも多くなっている。ただ、例年、当地では春先に向けての需要がみられ始める時期であるため、景気が良くなっているのか判断に難しい面もある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・1月の販売量は前年並みに推移している。客の動きもそれほど悪くない。ただ、法人客の一部では、在宅勤務などの影響で商談に時間が掛かるケースが増えている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・自粛傾向が全体的に強まっていることで、販売量が減少している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・悪い状況のまま変化がみられない。ネガティブな報道の影響もあり、景気が良くなる気配も感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（企画担当）	来客数の動き	・当地の警戒ステージが下がらないなか、外出自粛の影響もあり、来客数が増えてこない状況にある。そのため、店頭での通信サービス販売もなかなか増えてこない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の予約状況、売上をみても3か月前とほぼ変わらない状況にある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・感染拡大地域からの客の利用について、独自条件を設定しており、それをクリアできない場合はほかの席との間隔を空けるようにするか、利用自体を遠慮していただくようにしている。また、店内における受入許容人数を設定していることもあり、来客数が以前の水準に戻っていない状況にある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみる限り、景気は悪い。仕事量が段々と減ってきているようである。
		百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・来客数が回復してこない。特に1月は感染者が全国的に増えたことで、来客数が極端に落ち込んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・感染者の増加に伴い、商材の動きが一層落ち込んでいる。店内での販売は、来客数が減少しているものの、客単価の上昇により落ち込み分をカバーできているが、外販の減少幅が拡大しており、全体売上も減少している。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・時間帯にもよるが、3か月前と比べて客の動きが落ち込んでいる。繁華街でオープンしている店の数、タクシー運転手の話などからも景気の悪さがうかがえる。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・正月の初売りの客足が鈍かった。後半になっても来客数の伸びがみられなかった。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・例年であれば増販期を迎える時期であり、客の来店も活発になってくるが、今年は様々な業種での低迷が報道されていることもあり、客の動きがとても悪い。新型コロナウイルスの感染拡大も影響している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・いまだに新型コロナウイルスによる影響が続いており、なかなか上向きになってこない。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・懸念していたとおり、来客数の減少がみられ始めている。前年は新型コロナウイルスの影響で衛生関連商材の動きが良かったが、今年はその分がマイナスとなっている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・当地においては、まず街中の飲食店などで新型コロナウイルスのクラスターが出たことで、人通りがほぼなくなった。その後も、隣町で複数のクラスターが生じ、累計で何百人という単位の感染者が発生したため、住民が飲食などに出掛ける機会もほぼなくなった。このため、限られた客しか来店せず、このままで営業を続けていけるのかと思うほどの客入りで困っている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・年明けからの緊急事態宣言の影響により、客の動向がますます悪化してしまっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・この3か月間、来客数が徐々に減ってきている。繁華街は客の流れもなく、深夜は一瞬ゴーストタウンにみえるほどの壊滅的な状況にある。店も商売をやめてしまったのか、シャッターが降りているところも多い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出自粛が長期化しており、営業収入が低迷している。また、貸切りバスの稼働率も低迷しており、このまま続けば事業継続も危ぶまれる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新年会や成人式などのイベントが中止となるなど、人の動きが減少している影響で来客数が減少している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、分譲マンションのモデルルームに来訪する客の多くが、気軽に再訪できなくなっている。そのため、契約に至るまでの時間が長くなってきている。
	x	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の来街者が減少している。特に土日の人出は、新型コロナウイルス禍前の半分以下の水準に落ち込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地は他地域に先駆けて緊急事態宣言相当の自粛が要請されたが、その成果もあり、感染者数が減少傾向に転じている。ただ、それと裏腹に中心部の通行量は、日中で通常時の半分程度、夜間で2割程度まで落ち込んでおり、商売にならない状況となっている。休業要請の対象業種ではない店舗も休業に追い込まれており、事態は一層悪化している。Go To 商店街キャンペーンも延期を繰り返していることで、いまだに実施に至っておらず、実施予定者側も疲労困ぱいしている。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当地でも新型コロナウイルスのクラスターが幾つも発生していることで、ゴーストタウンのようになっている。1月の売上は前年比16.4%にとどまっており、35人の社員を守れなくなってきた。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止、11都府県を対象とした緊急事態宣言の発令があったことで、観光客、ビジネス客が減っている。体感では前年から8～9割近い減少とみられ、前年4月に緊急事態宣言が全国に拡大されたときと同じような状況にある。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・当地では、1月に入り、地域の様々なところで新型コロナウイルスの感染者が発生しており、その影響で客足がほぼ途絶えている。特に顧客である飲食店への影響が顕著であることから、景気は悪い。
	×	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・今年度はインバウンドによる売上がほとんどないため、インバウンドの売上比率が余り高くない3か月前と比べると景気は悪くなっている。また、国内客による売上についても、東京都などに緊急事態宣言が発令されたことが影響して、当地の消費マインドも低下しており、厳しい状況にある。
	×	百貨店（役員）	販売量の動き	・景気は悪い。新型コロナウイルスの影響が原因のほぼ100%を占めている。
	×	スーパー（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまでは客の来店頻度が低下する一方で、まとめ買いによる単価上昇がみられたことで、結果的に売上が増加傾向にあったが、1月に入ってからは来客数の減少はそのまま、客単価が落ち込む傾向がみられる。
	×	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・一時期営業を自粛していたこともあり、1月の売上は前年の30%台まで減少し、景気が悪かった。ここ最近、夜はもちろん、昼の売上も伸びてこないことから、やる気が出ない状況にある。自粛要請に伴う協力支援金などについては、個人店にとっては良いかもしれないが、多くの従業員を抱える店にはとても足りない。持続化給付金を受給した個人レストランでは確定申告で所得が増えたため、来年度の税金が増えることを心配していた。また、他地域に出張する際に、直前になって新型コロナウイルスの感染者が出たため、つてを頼って感染に関する情報を調べたが、ある観光協会のように店名などを出してくれると、多少、安心して出張や食事ができる。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・国や北海道による自粛要請とGo To Travelキャンペーンとのギャップに振り回されている。来客数も激減している。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴うGo To Travelキャンペーンの一時停止、東京都などを対象とした緊急事態宣言の発令により、観光客が激減している。1月からは一部店舗の休業、ランチのみの営業時間短縮を余儀なくされており、売上確保が困難な状況となっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・現在、当店は休業している。他店も苦労がとても多く、休んでいる店もかなり多くみられる。1日も早くこのような状況から脱却できることを期待している。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・東京都などを対象とした緊急事態宣言、北海道における不要不急の外出自粛要請、Go To Travelキャンペーンの全国一斉停止などの影響で、集客できる状況にはなく、一切の事業が停止している。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーン事業の一時停止、11都府県を対象とした緊急事態宣言の発令により、宿泊稼働が前年比で約マイナス88%となるなど、停滞している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、11都府県を対象に緊急事態宣言が発令されたことで、流水観光を目的に計画されていたチャーター便や団体旅行などがキャンセルとなった。今年の当地の冬季観光は外国人観光客の消失に加えて、国内旅行者も減少することになった。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・年末年始のGo To Travelキャンペーンの全国一斉での一時停止に加えて、国内の一部を対象とした緊急事態宣言の発令により、客は旅行どころか外出すら自粛している状況にある。申込みは皆無であり、旅行を予定していた客もほぼ全て予約を取消している。
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが一時停止となり、11都府県に緊急事態宣言が発令されたことで、来店の動きが途絶え、道内宿泊の予約すらない状況にある。航空会社の減便の影響で、払戻しも多く、売上がマイナスの日々が続いている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが一時停止となり、1月には東京都などに緊急事態宣言が発令されたことで、人の動きがますますなくなってきている。特に繁華街などの夜の人は全くみられない。例年、雪が降る冬季はタクシーの利用が多く、電話での注文も多くみられるが、今年は電話注文も激減している。1月のタクシーの売上は12月と同じく前年比マイナス50%であった。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・12月の壊滅的な売上に続き、1月も全く期待できない状況となっている。当地では、夜間の飲食を自粛するだけでなく、昼間の外出も感染を警戒して控える動きが強まっており、人出が減少している。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・当業界は人が動かないと仕事にならないため、前年の秋以降、急激に売上が落ち込んでいる。既に前年の春のような落ち込みとなっており、自粛期間が長引くことになれば、今以上の落ち込みとなる。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・11都府県に緊急事態宣言が発令されたこと、当地においてもクラスターが発生していることで、人の外出がますます減ってきている。こうした状態がいつまで続くのか心配である。いち早いワクチンの接種開始を期待している。
	×	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前の10月は、例年の60%ほどの利用客がみられたが、1月の利用客は25日現在で例年の6%にとどまっており、開店休業状態に近いほどの惨状である。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・当地は緊急事態宣言が出されている地域ではないが、客が外出を自粛している。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・北海道における新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、輸送量が著しく減少している。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・前年の10～11月は、年内に新型コロナウイルスの感染拡大が収束するという見通しがあり、甘い期待を持っていたが、年明けから全国的な感染拡大傾向が生じていることから、大変な危機感を抱いている。
企業 動向 関連 (北海道)		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下における外出や旅行の自粛により、ステイホームが助長されていることで、家具需要は底固いものがある。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当社においても営業活動を制約しているが、テレワークやIoTの一層の利活用に向けた環境整備、強化に対するニーズが好調であり、当社の業績は堅調に推移している。周囲の企業も同様である。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍にあっても、北海道の公共事業は継続して行われている。大都市圏における民需の落ち込みと比べれば、マイナスの影響は軽微なものとなっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量について、前年比で1割前後落ち込んでいる状態が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・次年度着工の民間建築工事がいまだに受注できていない。新型コロナウイルス禍における業績悪化に伴う設備投資計画の延期、見送りが相次ぐなか、大手ゼネコンが受注価格帯を切下げて見積りに参加してきており、競争環境が厳しくなっている。
		司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響により、景気が落ち込んでいる。特に観光業に関連した取引先は致命的なダメージを受けており、倒産した会社もみられる。一方、不動産業界や建築業界は前年半ばには落ちるところまで落ちており、現在まで横ばいでの推移となっている。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・景気は一度盛り返しの動きをみせたが、新型コロナウイルスの感染動向に波があることから、慎重な姿勢はしばらく続くことになる。顧客の業績も全盛期と比べればかなり落ち込んでいる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は引き続き横ばいの状況にある。こうした状態はまだしばらく続くと思われる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、顧客の設備投資意欲が戻ってこない。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年から10～15%落ちている。今後も厳しい状況が続くとみられる。
		建設業（従業員）	取引先の様子	・例年であれば、年度末しゅん工の公共工事と民間工事で飽和状態となるところであるが、今年は新型コロナウイルスの影響で民間工事が激減しているため、年度末を待たずに仕事量に空きが生じている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・家畜用飼料原料の取扱は引き続き順調に推移している。一方、例年であれば農産物関連商材の荷動きが活発になる時期であるが、今年は消費が鈍化していることで、本州送りの商材が伸び悩んでいる。紙パルプ、飲料関連も同様に動きが悪い。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う外出や往來の自粛要請が、消費行動の制約やマインド悪化につながっている。巣籠り消費の盛り上がりなどにより、業態によっては特需もみられるが、総じてみれば消費、投資のいずれも弱含みである。このため、道内景気は3か月前と比べてやや悪くなっている。
		司法書士	取引先の様子	・前年と比較して不動産の売買、建物の新增改築工事の受注減少が続いている。
		司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での営業ができず、営業活動が縮小されているため、不動産取引自体が減少している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・全体的な仕事量の減少により、消耗品の動きが悪くなっており、売上のベースとなる商材の落ち込み幅が大きくなってきている。
	x	*	*	*
雇用関連		-	-	-
(北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・観光関連業界や外食産業以外での求人がやや増加している。アルバイトやパートの求人よりも正社員の求人が特に堅調な動きをみせている。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・12月の有効求人倍率は1.27倍となり、前年を0.02ポイント下回ったものの、新規求人数、就職件数が前年を上回っていることから景気はやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における12月の有効求人倍率は0.87倍であり、前月との比較では0.01ポイント下回ったが、3か月前との比較では0.07ポイント上回っており、上昇傾向がみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地は道内有数の観光地であるが、冬のイベントが軒並み中止、縮小しており、観光客の入込が全く期待できない状況にある。ただ、今年は雪が多いことで除雪、排雪作業が活発なほか、寒さが厳しいことで水道管の凍結が多発しており、建設業や管工事業が多忙である。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・当地では11月に新型コロナウイルスの大規模クラスターが生じたことから、非常に入出の悪い状況が続いている。タクシー業者や飲食店からは11月以降、客足がぱったりと止まっているとの話を聞いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、一部の業界を除けば不景気感が強くなっている。新卒の採用活動はリーマンショック時よりも悪い状況にある。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は3か月前と比べて増加傾向にある。職種としては営業系の求人が増えており、次にシステム系の求人が多くなっている。業績の低迷をばん回するため、営業系の求人が増えているようにみえるが、採用基準は厳しく、即戦力にならない人材の採用は見送られている。求職者にとっては、今、勤務している会社の業績に不安を感じて退職しても、次の就職まで厳しい関門が待ち受けている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・当地において緊急事態宣言は発令されていないものの、人々の消費マインドが低下しており、特に飲食店は軒並み厳しさを増している。求人広告件数にも大きく反映されており、飲食については前年比50%を下回っている状況にある。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・Go To Travelキャンペーンの一時停止に加えて、11都府県を対象に緊急事態宣言が発令された影響により、道内企業においても受注業務の計画見直しなどの動きがみられ始めている。また、各種イベントの中止や規模縮小などもあって、先々の見通しも立てづらくなっている。何よりもマインド的にマイナスイメージが強くなっている。
	x	-	-	-

2. 東北(地域別調査機関:公益財団法人東北活性化研究センター)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		-	-	-
		一般小売店 〔酒〕(経営 者)	販売量の動き	・人気のある商品を取り扱えるようになった。
		一般小売店〔医 薬品〕(経営 者)	販売量の動き	・相変わらず消毒剤などはよく出ている。暴風雪の日及び月の後半は新型コロナウイルスの影響で少し落ち込んだが、平日の売上は前年比110%を超えている。
		百貨店(買付担 当)	お客様の様子	・初売りや店舗セールでは来客数が増加し、買物を楽しむ家族連れ等にぎわった。新型コロナウイルス感染に十分気を付けながらもコロナ疲れによるストレス解消にきている感じが伝わった。
		コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・コロナ禍で1人当たりの買上金額も上がり、客単価の伸びが著しくなっている。
		その他住宅〔住 宅展示場運営会 社〕(従業員)	来客数の動き	・緊急事態宣言が発表されたことから、1月の客の動きは鈍化することを予想していたが、前年比8割での推移となっている。例年よりも積雪などで天候不良が多かったことを考慮すると良い状況である。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・年末年始の休みがそのまま売上の減少につながっている。
		スーパー(経営 者)	単価の動き	・平均1品単価の前年比の伸びが落ちてきている。買上点数の推移は変わらないが、来客数の前年割れがやや拡大している。反面、緊急事態宣言を受け、外出を控える傾向が強くなっていることから、まとめ買いとなってきて客単価が前年比1割以上伸びてきている。ただ、全体的な消費の推移、傾向は変わらない。
		スーパー(店 長)	単価の動き	・新型コロナウイルス感染者増加に伴い来客数は減少しつつあるが、買上点数の増加による客単価増加の傾向が出てきている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・年末年始の客の流れが悪く心配したが、年始明けから売上は回復し、前月程度の売上推移に戻っている。
		スーパー(営業 担当)	単価の動き	・来客数96%、客単価110%、買上点数108%、1日単価が101%となっている。来店頻度が下がっているが、まとめ買い傾向は更に高まっている。天候気温に左右されている要因もあるが、夜間の来客数の減少が著しい。外出自粛傾向は内食需要には好影響だが、経済的には不安材料となっている。
		コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・相変わらず売上は低調である。客足も増えず、横ばい状態が続いている。夕方から深夜帯の客足も落ち込んだままである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・クリスマス関連やおせちなど年末年始の催事関連商品の販売が好調で客単価が上がった一方、来客数は前年比で10%以上マイナスの状態が続いている。日販全体も前年比マイナス5%と厳しい状態が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・大雪の影響で来客数が著しく減少している。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言や病院のクラスター発生等もあり、店舗の売上が3割減少している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・寒さのお陰で暖房商品の売行きが好調である。白物家電を中心に単価が高くなっていて、黒物家電も前年並みである。よって、前年よりも少し好調である。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス対策で加湿器や空気清浄機が売れた。次は一人暮らしなど春の新生活需要が新型コロナウイルスの絡みでどうなってくるのかという部分でうまく見通せないところもあるが、物量の動きを見ると、極端には変動していないという印象を受ける。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の投入があったにもかかわらず、販売量が余り伸びていない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・積雪量で客足は減少した。販売量は初売りの分を翌週以降でカバーし、例年と変わらない実績となっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスを警戒しながらの初売りで集客を心配していたが、例年並みの集客となっている。しかし、集客と受注は別物であり、3か月前に比べると受注量は若干落ちている。
		乗用車販売店（本部）	お客様の様子	・新車販売はおおむね前年並みである。しかし、例年明けに活発になるはずの中古車商談が少なく、2～3月にかなり不安を残す状況である。ディーラーに余り在庫のない、現状渡し、保証なし、訳アリ等のごく低価格帯の車を要望する客からの声がいつも以上に強い。家庭によって車に掛ける金額の差がかなり拡大していることがうかがえる。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・オーダーメイド生産なので、受注量が多ければ売上も多くなる。
		その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（営業担当）	販売量の動き	・例年、年明けは動きが良くないが、今年はやはり新型コロナウイルスの影響なのかいつもより動きが良くない。特に観光業、飲食店からの注文は皆無でかなり響いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍の影響で乗客が激減している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化はみられない。
		その他住宅 [リフォーム]（従業員）	販売量の動き	・寒波による気温低下により、住宅設備機器は給湯機の交換が増えている。リフォームは屋外工事が減っている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響は依然大きい。時短営業などの状況が響いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者増加及び積雪や寒波の影響で、商店街への客足が減少している。
		一般小売店 [書籍]（経営者）	来客数の動き	・正月過ぎからの大寒波と大雪で来店客が低迷したことが売上の悪化に結び付いている。必要なものに関してはそこそこ動いているので余り心配はしていないが、全般的に消費マインドが冷え込んでいる。
		一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・首都圏に緊急事態宣言が発令されて以降、飲食店、旅館、観光施設などへの販売量が更に減少している。それぞれ生き残っていくために定休日を設けたり、当面休業に踏み切るなどの対策を講じている。今月中旬以降、販売量の減少に拍車がかかっている。
		一般小売店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・中旬までは平年並みだったが、下旬になるにつれ来客数が明らかに少なくなってきた。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月は新型コロナウイルスの感染拡大に加え、天候面でも低温や降雪の影響があり、来客数が平年より非常に少なくなっている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染拡大により、来客数は3か月前と比べても落ち込んでおり、客単価も減少傾向にある。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・豪雪のため道路状況が悪く、買物の頻度が減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・コロナ禍で外出や買物頻度が下がり、来客数が前年比90%と苦戦している。一方、巣籠りで買上点数、客単価は上昇している。また、料理を家で作ることが多くなり、野菜や食肉の売上も伸長している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で客の動きが鈍くなっている。緊急事態宣言が発表されてからは特に鈍くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価は前年比100%を維持できたものの、来客数が前年を大きく下回っている。特に夜中の客が減っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大と積雪により、来客数及び販売量の減少に歯止めが掛からない状況にある。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で週末の外出を控える人が多くなっており、来客数が減少している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・飲食店の時短要請が始まって人が夜散歩がなくなっており、来客数が減っている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・年明け1週間の売上高は安定していたが、その後は来客数、購買数共に減少した。セール商品の売上減少はある程度予測していたがそれ以上であった。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・何かの行事に合わせて必要なものや、子供服のように成長に合わせて必要なものへのニーズはある。しかし、一般消費者のおしゃれを楽しむためといった理由のニーズは目に見えて減少してきている。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響で営業時間の短縮ばかりではなく、客の買上点数が減少している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者発生や天候不順も原因としてあると思うが、来客数が前年よりも明らかに少ない。
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・12月中旬からのまとまった降雪や真冬日の連続などで、除雪業者やスタンド、水道修理業者などが忙しく動いている。一方で、新年会や総会などは軒並み中止になっており、二次会に流れる人もいないため、スナック等は相当厳しいと聞いている。また、新型コロナウイルスの影響による大手製造会社の生産調整の影響を受けている製造業者も多くみられる。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・客の話を聞くと、新型コロナウイルスの関連で食料品や一部家電を買い求めている人は多いようだが、その他の商品は低迷しているようである。当店が扱う商品も関連商品でないために低迷している。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・雪で天候が悪かったこともあって来客数が減少しており、悪戦苦闘が続いている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・以前から落ち込んでいた販売量が更に前年比3～5%落ち込んだ。年末年始の移動需要減と外出自粛が影響しているとみている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・初売り、冬のバーゲンセールが今一つのスタートで、その後、首都圏の緊急事態宣言もあり、客足がかなり減ってきている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・Go Toキャンペーンの停止により休業を余儀なくされている。新型コロナウイルス感染が収束するまで宿泊業は先の見通しが立たない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行業界においては緊急事態宣言発令によるGo To Travelキャンペーンの全国一時停止や飲食店時短営業などが影響し、大打撃に直面している。Go To Travelキャンペーンによって緩やかではあったが需要回復がみられていた矢先に急転直下してしまった状況である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、前月よりも経費削減の声が多くなってきている。医療従事者の給料減額、飲食店の雇止め、倒産があり、生産者への影響も大きくなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・コロナ禍による首都圏を中心とした再度の緊急事態宣言の影響で、特に飲食業、宿泊施設の客足が激減しており、景気は悪い方向へ向かっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言発令に伴い、主に運転代行業のサービス解約が開始している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・サービスエリアの拡大に伴い増加していた新規の加入者は一休みの状態である。特に、飲食店など感染拡大の影響を受けている業種においては、映像サービスへの加入をストップしたり、解約している。このため、通信サービスも含め加入総数が半減している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言後、ますます客対応ができなくなった。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・例年よりも積雪が多く低温のため客足が鈍いことに加え、新型コロナウイルス感染者増による自粛傾向がみられる。路面状況も悪いので遠出をする人たちはほとんど見られない。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・例年以上の寒さと雪と新型コロナウイルスの影響で低調に推移している。特に単価が下がっている。
		その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、当県においてもクラスターの発生など深刻な状況になっている。ほとんどの会合や商談が自粛や中止になっており、客の来店も極めて少ない状況である。
		住宅販売会社（経営者）	それ以外	・展示場が古いため集客に乏しく、受注が減っている。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・年末より始まった時短要請の終了が2度延期され、街は真っ暗になっている。時々来店するタクシー運転手も6時間に1人くらいしか乗客がいないと話していた。店も同様で、営業はしているが最悪の状態である。
	×	百貨店（経営者）	販売量の動き	・初売りは安全第一に客の分散化を図り、想定内の売上結果となったが、新型コロナウイルス感染症の第3波による他県での緊急事態宣言発令の影響が、来客数も減少し、販売量も大きく減少している。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第3波により、11都府県で緊急事態宣言が発せられてから、地方においても、当地域においても、マインドが急速にしぼんできている。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・大雪と新型コロナウイルスの影響で、売上は大幅に減少し、除雪代、光熱費は高騰している。そして、相変わらずの人手不足である。国の補助の対象になっていないので厳しいというレベルではない。冬を越えられないオーナーも出てくるのではないだろうか。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・首都圏及び大阪圏の緊急事態宣言により、最低限の外出となっているため、少量買いの客は減少している。また、夜間の売上、来客数も大幅に減少しており、今後も改善傾向が見込めない状態である。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で近隣に出掛けることも控えているため、洋服を新調する気分ではない。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・年末からの新型コロナウイルス感染者の増加により、初売り前後に帰省して買物を楽しむ家族連れが激減した。例年当地では初売りが盛り上がるのだが今年は非常に苦戦した。その後も成人式などでも景気が低迷しており、新型コロナウイルスのまん延でなかなか来客数が伸びない。スーツやフォーマルの販売に大きく影響している。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言後、フレッシュズの来店が減少している。さらに、ビジネスマンの夕方の来店がほとんどなくなっている。
	×	その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍、そして緊急事態宣言の影響が大きく、都市部の飲食店は壊滅状態となっており、売上が前年比10%というところも出ている。
	×	その他専門店 〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の地域でもなく、また地域内の新型コロナウイルス感染者数は1けた台で落ち着いているにもかかわらず、報道等で騒がれると、この時期に外出するのは悪者という扱いになるのだろう。特に地方は一旦感染者となると村八分である。こういった状況では買物に外出するのも控えるし、ましてや観光客など皆無に近い状態である。
	×	その他専門店 〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で初売りが前年比60%と大きく落ち込んでいる。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で客が全く来ない。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ディナーの来客数が激減している。新年会のグループ客がほとんどない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・全くとって1月はひどい状態である。予約もほとんど入らず、今まではある程度入っていたランチタイムの客も極端に減っており、経営がかなり困難な状態になってきている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当地区は時間短縮営業の要請があり営業時間は22時までだが、実際は21時頃に営業を終えているので、来客数は通常よりも激減している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・全く客が来ない状況である。今回、当地で時短要請が出たことにより、客が出てこなくなっているのではないかとみている。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言により休館を余儀なくされている。
	×	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・Go Toキャンペーンの停止と感染者数の増加による自粛呼び掛けにより、行動が停止している。
	×	観光型旅館（スタッフ）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者の増加に伴いGo To Travelキャンペーンが停止したため、キャンセルが多くなっており、運営ができない状況が続いている。2月末までは休業する予定である。
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が増加している。さらに、Go To Travelキャンペーンの適用除外期間が延長されたため旅行需要が激減し、この1か月間、新規の申込者数よりも取消し者数が上回り続けている。極めて厳しい状況が続いている。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・Go Toキャンペーンの停止に続き、緊急事態宣言の発令により、法人団体旅行のキャンセルのみならず、延期、再延期だった3月までの修学旅行も全面的にキャンセルとなっている。個人旅行も動きが止まったままで、最悪の状況に陥っている。
	×	タクシー運転手	競争相手の様子	・同業他社の3社が廃業した。買い取る会社もなかったことから景気が悪くなっていることが分かる。
	×	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・商品の購入場所が店舗からネットに流れており、来客数が前年の8割程度になっている。
	×	テーマパーク（職員）	販売量の動き	・緊急事態宣言以降、来客数、販売数共に激減している。賞味期限の関係で処分などの経費もかさむ。購入率も悪くなっている。
	×	観光名所（職員）	それ以外	・会社自体が休業している。景気うんぬんの数字を語る前に、どのように会社を存続させていくかという話になっている。客が来る来ないにかかわらず、出るものを抑えるための休業ということで、客を呼び込むこともできない非常に厳しい状況である。
	×	競艇場（職員）	来客数の動き	・何が原因なのかはまだ分かっていないが、最近リピーターが少なくなっている。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・新規客は前年比70%くらい、既存客の再来店率はこのところずっと90%であったのが80%くらいに落ちてきている。新型コロナウイルスを警戒する客がまた増えてきているのではないかとみている。
	×	設計事務所（経営者）	単価の動き	・契約の先延ばしや単価率の低下が出始めてきた。復興期を過ぎ、ただでさえ業務量が縮小しているなかで、大きな痛手となりかねない状況である。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大型公共工事の受注により、3か月前と比べて向上している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体部品の需要が徐々に上がってきたことに伴い、受注価格、販売価格も徐々に上がっており、景気は上向き傾向である。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注量や販売量の動き	・巣籠りというのは景気が良いとか悪いとかではなく、外食できないという理由で内需型に変わっている。そういうことで売上がまあまあいっているのではないかとみている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量は前年比約5%減の状態が続いている。構成比は少ないが、業務用商品の落ち込みが激しい。
		出版・印刷・同 関連産業（経理 担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前も今月も売上は前年比で約10%落ち込んでおり、景気は悪いままの状態である。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響はいまだに継続しており、客の反応は厳しいものがある。
	金融業（広報担当）	取引先の様子	・年末年始商戦が終わり小売業を中心に一服感はあるものの、観光、ホテル業界においては他地域での緊急事態宣言の発令などにより、引き続き新型コロナウイルスのマイナスの影響を受けている。消費マインドの面でも同様にネガティブな影響を受けている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・住宅内覧会への来客が相変わらず少ない。常設展示場と異なり1日だけの開催なので、密を用心していると考えられる。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・前年秋のりんご販売単価が前年比で2割ほど安かった。
		農林水産業（従業者）	それ以外	・大雪により果樹の枝折れやパイプハウスの破損が発生しており、減収や新たな出費の発生につながる。
		窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・令和2年度の出荷は、4月以降前年比で毎月10%程度減少し続けている。回復の兆しが見えない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・カメラの業界は季節的にこの時期に大きく落ち込むが、その季節変動分を除いても若干悪い。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で発注に影響が出ている。
		建設業（企画担当）	競争相手の様子	・競争が増しており、各社が目標を達成するために受注を確保しにきている状況から、全体の案件量が減少傾向にあると推察している。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第3波が拡大し、年が明けてから緊急事態宣言が発令された県が11都府県に及んだ。この影響を主要製造業取引先も受けており、売上は前年比で15%の減少見込みである。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が増加しており、飲食、ホテル、観光業は依然厳しい状況が続いている。
		広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・Go Toキャンペーンの一時停止の影響で、旅行会社、ホテル、旅館、飲食業等の広告出稿が完全にストップしている状態である。イベントの復活もままならず、主要都市に発出された緊急事態宣言が広告市場を更に落ち込ませている。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第3波の影響を受け、パンフレットやDMなどが地味に影響を受けている。全てにおいて量が減っている。
		経営コンサルタント	それ以外	・緊急事態宣言は業種を問わず、経済活動、消費行動を委縮させている。
		司法書士	それ以外	・当地登記所における不動産登記申請件数が前年比1割減になっている。
		公認会計士	取引先の様子	・客の月次決算状況から判断している。飲食業は時短要請の影響で収益悪化が続いており、小売業も同様に売上が前年より落ち込んでいる状況が続いている。またここに来て建設業の客も業績が落ちつつある。全体としての景気はやや悪化傾向にある。
		コピーサービス業（従業者）	受注量や販売量の動き	・テレワーク及びオンライン授業の影響で、オフィスや学校で印刷出力する機会が減り、メンテナンス関係の収益の前年割れが続いている。それを補う販売活動はここに来て小休止している。
	x	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大により12月29日頃から急激に売上がダウンしている。初売りの売上も大幅ダウンし、その傾向は初売り以降も続いている。
	x	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言、Go Toキャンペーンの一時停止により、年明けから人の動きが停滞している。取引先である観光関連施設は休業する店舗も出てきており、受注もほとんどないため、工場の稼働も縮小している。
	x	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月はまだ、Go To Travelキャンペーンによって人の移動に伴う経済効果が上がっていた。
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣のオーダー数は北東北3県が前年比約70%、南東北3県が約90%と回復傾向である。年末調整専門のアウトソーサー会社の派遣は前年比を上回る実績で今月末終了する。3か月前と比べて好転の兆しが見える。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・飲食店業界は非常に厳しい状況が続いているが、一方で、電子商取引のシステムや提案をしている企業は非常に堅調である。あるいは、スーパーの企業も求人活動を開始したり、大卒の採用の準備を始めたりしている。そういう意味では、業界、業種によって差はあるが、やや持ち直してきているという印象を受ける。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数の伸びが一段落してきた印象を受けるが、依然事業運営に必要な人材の確保のニーズがあるので、余り変わらないと考える。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼数に変化が見られない。3月に向けて増えてくる時期であるが増えてくる様子がない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・首都圏や大手企業では採用のチャンスと捉えた行動があるようだが、地方ではまだそのような傾向がみられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数だけみれば前年を上回り110%近くになっている。ただ、テイクアウトスタッフや介護関係、在宅バイト等、コロナ禍での需要がある業種に限られており、通常募集の主流である飲食、流通、サービス等は少なく、景気は上向きとはいえない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染拡大の影響がある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・大型建設工事により宿泊や飲食は堅調だが、新型コロナウイルス感染症の影響で製造業において雇用調整の動きが出ている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近3か月の有効求人倍率は、0.96倍、0.99倍、0.99倍で、足踏み状態となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・コロナ禍における求人手控え感が根強く、なかなか回復が見込めない状況となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に3か月前と比較して大きな増減はない。
		学校〔専門学校〕	周辺企業の様子	・コロナ禍において、景況感は悪いままである。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・首都圏の緊急事態宣言のため当地での会議も減っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・一部都府県の緊急事態宣言の影響からか、地方でも職場等での新年会は皆無に近く、飲食店を中心に街中の景気がすっかり冷え込んでいる。企業広告も鈍化しており、上向ききっかけを見いだせない状況である。どこまで下がり続けるのか予想がつかない。
		職業安定所（職員）	それ以外	・雇用調整助成金の申請数が増加している。
	x	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・新型コロナウイルスの影響は一向に改善されず、失業者が増大している。

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		-	-	-
(北関東)		家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数は少ないものの、販売額は上がっている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車販売と修理をしているが、1月に入ってかなりの量が販売できている。前年と比べてもかなり良く、修理の客も多く来店している。新型コロナウイルス禍でどこにも出かけられないので、こういうところでお金を使っているのかもしれない。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発令され、再び巣籠り傾向が強くなっており、DIYホームメンテナンス、インテリア等の商材を求める客が増えている。家食の傾向も高まり、食材だけでなく、各種鍋、食器、調理器具等の動きも活発になっている。家で過ごす時間が長くなるため、暖房機器の使用が増え、灯油の販売も順調である。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言による巣籠り需要でテレビ、インターネット回線共に、やや好調である。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・来客数は前年比80%のままだが、窓口販売が前年実績に戻ってきている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が続いているなか、消費者が感染に気を付けながら動き出している。Withコロナの生活に慣れてきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、幼稚園や学校行事の中止、延期が出ている。当店の主力商材の売上が激減し、さらに、感染拡大第3波で自粛ムードが高まり、来客数が数名だけになってきている。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・年が変わったが、新年のイベントも全部中止になっている。人の大勢集まる行事はなく、外出を控えるので街は静かである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比91%、来客数は同88%で、1日当たり、各4万3000円、78人の減となっている。店の前面道路工事終了に伴い、12月からマイナス幅は縮小傾向にある。しかし、緊急事態宣言再発令で、夜の減少が大きく、売上や来客数減の要因となっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・1都3県、隣接する栃木県の緊急事態宣言発令から、来客数が極端に減っている。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・年末は、年始に向けた年賀用商材が動いて、やや回復したと思ったが、その後は再び悪化状態となっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・白物家電や映像家電は、新型コロナウイルス禍の巣籠り需要で今月も好調に推移している。前年は新型コロナウイルス禍ではなかったが、その前年実績の約2けたの伸びである。
		家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・この状況下で、いかに来客数を増やせるかを課題にして取組んでいる。チラシ、メール等の販促を実施し、来客数は前年比110%を確保できている。2月からこの取組を継続していく。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検等の整備売上や新車、中古車等の販売はこの数か月間、低位安定の感が強い。しかし、年間を通して赤字にならなければ良しと思うかと思っている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・3か月ほど前には、一時景気が盛り返し始めたが、新型コロナウイルスの感染拡大のせい、ここ1～2か月、低迷し始めている。今はプラスマイナスゼロで、これから良くなるのか悪くなるのか、微妙なところである。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客足は戻りつつあるが、客単価が下がっているので余り変化を感じられない。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・高齢の客の来店が、4月と比べて落ちていない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響がかなり出ている。外出を控えている方が多いので、販売自体は訪問の形が多くなっている。
		スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・年末年始から人の動き方が大きく変化している。特に、Go To Travelキャンペーンの一時停止頃から影響が出ている。新型コロナウイルスの感染状況により、来店頻度が減少する傾向にある。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・当店は観光立地なのだが、観光客並びにスキー客がかなり減っている。また、朝の通勤客の来店も減少している。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言再発出となり、急激に来客数が減少傾向になっている。年末年始の小売店としては、イベント等の初売りがなくなり、来店客も通常の必要な物を求めている感じである。天候も関東圏は雪が少なく、消費に結び付かない。また、Go Toキャンペーンも尻すぼみになったことが、人の動きが少なくなった原因かもしれない。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で、業務用の使用量が減少し、受注も減少している。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	販売量の動き	・事業所給食提供先で、現時点では事業所自体を休業したところはないものの、研修施設の利用見合せやリモートワーク実施に伴う出勤者、出張者の減少等により、施設ごとの提供食数が減少している。スタッフのシフトや食材管理が対応しきれていないこともあり、収支悪化の要因になっている。当面こうした状況が続くものとみられる。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・年末商材のおせちは需要も多く、目標より良い結果で終わることができた。しかし、1月に入ってからは緊急事態宣言再発出もあり、新年会や賀詞交換会、成人式を含む同窓会等の中止が相次ぎ、今月の売上は低迷している。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・携帯ショップ等は、新型コロナウイルスの影響で来店客数を制限しているため、契約数が減少している。
		ゴルフ場（総務担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響は収まってきたが、客単価は下がっている。なお、年始に首都圏を中心に、再び緊急事態宣言が発出されたため、今後は影響が出る可能性がある。
		競輪場（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言を受けて、入場者数が徐々に減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言下での時短営業は飲食業のみにとどまらない。午後5時を過ぎると、商店街から人が消え、閑散としている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出による外出自粛や飲食店の時短営業で人の動きが悪いため、お金の動きも悪い。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言で人の動きがないため、インターネットによる反響でしか判断できないが、反響も少なくなっている。来客は全くない。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・例年1～2月の売上は、1年の内で最も厳しくなるため、3か月前の売上達成度をみると、10月は前年同月比75%まで回復していたが、今月は同25%となっている。10月はGo To地域共通クーポンの利用が始まり、我々飲食物産販売業にもGo Toキャンペーンの恩恵が強く感じられる時期だった。しかし、1月に再び緊急事態宣言が発出され様々な自粛が求められると、観光客の動きは日を追うごとに鈍くなり、結局、1回目の緊急事態宣言が解除された6月よりも、厳しい売上となってしまっている。
	×	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・飲食店、ホテル、結婚式場等、全ての取引先が前年比90%くらいで推移している。
	×	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・当県は緊急事態宣言の対象地域ではないものの、宣言再発出に伴い、来客数の減少が著しい。初商も極めて厳しい結果に終わり、しばらく厳しい状況が継続するものと予想される。
	×	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、来客数が激減している。来店しても買う物を買ったらすぐに帰ってしまうという傾向が顕著である。衝動買いや下見の来店等はかなり少なく、売上に影響を及ぼしている。
	×	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・前月からずっと悪かったが、年明けに緊急事態宣言が再発出されてからは、全くと言ってよいほど、客が出てこない。当店の顧客は高齢者が多く、その人たちが行動制限をきちんと守っている。私ども衣料品も飲食店も全てだが、国の対策のタイミングの悪さや遅れも含めて、内容的に国民レベルに立った政策が全く出されていないと感じる。
	×	乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・当店は裏に観光地を控えていて、ホテル、ドライブイン等いろいろある店があるが、Go Toキャンペーンが中断し、さらに当県でも緊急事態宣言が再発出されたので、全くと言ってよいほど平日は客が来ない。土日は辛うじて多少は客が来ているが、人の往来が全くない状態なので、客が皆、口をそろえて「とにかくひどい」と言っている。ホテルでは週3回休み、ドライブインは土日しか営業できない等、売上が全くないような状態で推移している。先行きが全くみえない。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・長引く新型コロナウイルス禍で、飲食店や有名なアパレルメーカー等、今まででは考えられないような倒産や撤退が続いている。新型コロナウイルスのワクチン接種が始まらない限り、見通しが立たない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・県独自の緊急事態宣言による時短営業に加えて、感染リスクは飲食店にある等の報道で、来客が激減している。テイクアウトも思ったほどではなく、新年会等もキャンセルとなり、どうしようもない状態である。
	×	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・県独自の緊急事態宣言発令で、飲食店への時短要請により、店内飲食は皆無である。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当県に緊急事態宣言が再発出され、一気に客足が遠のいている。当店を信頼してくれている常連客の来店があるのは有り難い。ただ、外食することが悪いのかのような政府の発言には、同業者もへきえきしている。
	×	スナック（経営者）	お客様の様子	・客から、「自粛要請のなか、会社から外での会食は止めるように言われている」という話が出ている。皆、外に出ていないということである。
	×	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・飲食業への時短営業協力や自粛要請により、売上が正常時と比較して3%にまで落ち込んでいる。3%減ではなく3%しかない。
	×	都市型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染者が増えて、当県や全国的な緊急事態宣言が出たため、少しずつ戻ってきていたホテルの稼働率は、再び悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	都市型ホテル (副支配人)	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発出され、首都圏からの予約が大幅に減少している。また、県独自の緊急事態宣言により、料飲部門はディナータイムをクローズしたため、ホテルとしては大打撃を受けている。
	×	旅行代理店(経営者)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが停止中で、新規申込がほとんどなくなっている。
	×	旅行代理店(所長)	来客数の動き	・当県も緊急事態宣言を発出するほど新型コロナウイルスの感染が拡大しており、感染拡大第1波の頃や東日本大震災時を思い起こすほど、観光客の姿を見なくなっている。旅館を始め、休業対応するところが日々増えている。
	×	旅行代理店(従業員)	それ以外	・Go Toキャンペーンは関連も含めて、動きがない。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で客が少ないところに、緊急事態宣言の再発出があり、以降ますます客は少なくなっている。雇用調整でタクシー台数を減らしていたが、さらに出勤日数を20日から10日に減らしても売上は伸びず、ひどい状況である。県独自の緊急事態宣言で、夜8時には飲食店も閉じて真っ暗で、歩いている人もいない。
	×	タクシー(経営者)	お客様の様子	・夜の外出自粛の影響で夜の客の動きが悪く、前年同月比48%の減少である。
	×	タクシー(役員)	それ以外	・国の支援策が完全に偏っていて、公共交通事業者に対して何も支援がされていない。外出を制限すれば、タクシー事業は業務を維持する必要がない。
	×	通信会社(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で、日に日に状況は悪化し、売上は下がる一方である。
	×	テーマパーク(職員)	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発令され、ホテル、旅館の大半が臨時休業している。観光客の動きがなくなり、入園者数が大幅に減少している
	×	ゴルフ練習場(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出自粛要請があり、楽天的な客がいない。
	×	その他サービス [自動車整備業](経営者)	お客様の様子	・以前にも増して、客の財布のひもが固くなっている。「倒産の覚悟をしている」と話す事業関係者が増えている。
	×	住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・やはり緊急事態宣言が浸透しているせいか、飲食店関係が非常に悪くなっている。撤収、閉店の数が増えて、貸店舗の空室が目立ってきている。不動産も今は動きがほとんどなく、停滞状態である。この春から新規に貸店舗を借りる方もいたが、全て一時中断となっている。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-	-
		建設業(開発担当)	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。現与党政権誕生後、公共工事は順調に推移しており、前年比26%増と近年にない大きな伸びである。特に、県関係が前年比50%増と突出しているが、県南地域の災害復旧工事なので、心から喜べる状況ではない。災害に遭われた方が1日も早く元の生活に戻ることを切に願っている。当社受注も前期比10%増で、新型コロナウイルス禍のなかでは有り難い。
		化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスで大騒ぎだが、特段、変化はない。
		窯業・土石製品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・年度末を控えて、生産に追われている。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・引き続き、自動車関連の仕事は好調を維持し、24時間稼働して対応している部署もある。また、小型建設機械関連部品に関しては、中国向けのスポット応援依頼があり、納期対応に苦慮している。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルスによる巣籠り需要や新生活用品などの荷動きが良く、特に、白物家電のエアコン、冷蔵庫、洗濯機等や空気清浄機、加湿器などの物量が前年の10%増となっている。
		その他サービス業[情報サービス](経営者)	受注量や販売量の動き	・特段の変化は見られない。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・年末までは順調に回復してきていたが、年始になってから新型コロナウイルスの影響が、少し様子がおかしくなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・既に3か月連続で前年同月比3～4割減が続いている。これが上向く兆候は全くなく、あと何か月か続けば会社の経営も厳しくなる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子や受注、販売量等が、やや落ち込んだまま、数か月同じ状況である。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・前月予定していた延期になった定期管理業務を今月行なったり、新規取引先の保守管理が始まったりしている。ただし、新型コロナウイルスの感染状況が高止まりしているため、病院や介護施設の取引先で、予定していた保守管理業務が延期又は中止となっているところもあるため、トータルでは横ばいである。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言によって、取引先の結婚式場からの入金が増えている。新型コロナウイルス感染拡大第3波の影響をもちに受けて、予定していた結婚式がほぼ延期となり、2月一杯まで式場に入金予定がないため、3月以降に支払を延ばしてほしいとのことである。宣言解除イコール結婚式開催とはならないため、見通しが立たない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・緊急事態宣言下で、商店、飲食業のような個人向けの業種や接客頻度の高い業種は、相対的に厳しい。それでもランチ営業やテイクアウト等にシフトしているところは、それなりに営業を維持している。他の業種は、それほど極端な落ち込みはないようである。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、1月は余り仕事がない時期なので、どうしても落ち込む。新型コロナウイルスの影響も少しはあるが、前年同期と比べて多少落ちている。やや悪くなっていると回答したが、あと少し良ければ、変わらないという回答にできたのに、というくらいにはある。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9～10月と比べて、売上は1～2割減っている。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が依然として続いているのか、取引先の受注、生産量が停滞している。そのため、当社の受注も落ちている。
	×	社会保険労務士	取引先の様子	・半導体工場は好調で、消毒関連の事業所も一段と忙しくなっている。サービス関連で新型コロナウイルスの悪影響を受けているところは、相変わらず厳しい。
雇用関連	-	-	-	-
(北関東)		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・製造業でも機械関係、電機、自動車関連、IT等を含めた精密機械関係の工場生産の動きは変わらない。ただ、駐車場等の車の台数からみて、事業稼働日数はやや少なく、極端なところだと半減しているものの、自力で頑張っているようである。一般衣料等の小売、生鮮食品等は、販売意欲があり、活発な販売戦略を行っている。ただし、売れているかどうか、購買状況は分からず、微妙なところである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・長期派遣依頼数が増えていない。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、求人数は低迷したまま推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前月の有効求人倍率は1.27倍と前々月と比べ0.22ポイント上回ったが、前年同月比はマイナス0.50ポイントと11か月連続で下回っている。有効求人数は前年同月比マイナス17.1%で18か月連続減少、新規求人数も前年同月比がマイナス11.2%で14か月連続減少となっている。
		人材派遣会社（経営者）	それ以外	・5日前に、現場で新型コロナウイルスり患者が出て、今、会社がてんてこ舞いで困っている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・12月までは休業実施事業所は減少傾向になっていたが、1月になり、飲食店、卸業、宿泊業から、新規に休業申請が増加している。また、製造業からも1月以降、休業実施の見込みという情報がある。
	×	学校〔専門学校〕（副校長）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響により、学校行事等が中止になっている。関連する旅行業並びに飲食産業の取引先に大きな影響を及ぼしており、大変申し訳なく感じている。

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)				
分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・例年、1月は良くないのだが、今月は例年に比べて販売量が増えている。
		スーパー(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出以降、徐々に客足が増えている。
		スーパー(経営者)	販売量の動き	・相変わらずそれほど良くないが、やはり今月に入り緊急事態宣言が再発出されてから、客のまとめ買い需要が多少増えている。ただし、これは今月限りだと思っている。前年2月から新型コロナウイルスの影響で客の巣籠り需要が発生しているが、今年はそのままで増えないと思うので、良いのは今月が最後である。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・今月は、緊急事態宣言再発出以降、来客数が増えているが、1人当たりの買上単価が上がったことで、数字が良くなっている。緊急事態宣言解除後については、まだ不透明である(東京都)。
		スーパー(ネット宅配担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加で、1月3日頃から売上が伸びてきている。また、緊急事態宣言再発出後、更に良い数字になっている。
		乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・新型車が好調であり、また需要月を迎えて販売量が増えてきている。
		乗用車販売店(店長代行)	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出後、来客数が減少するかと思っていたが、宣言前と変わらず来店してくれている(東京都)。
		その他飲食[給食・レストラン](役員)	お客様の様子	・外食部門を除き、数字的には改善に向かいつつある。理由としては、上期中に行った新型コロナウイルス対応策が大きい(東京都)。
		通信会社(管理担当)	販売量の動き	・今までのソリューションシステムの買い控えも解け、徐々に大型のソリューション案件が増えてきている。ただし、緊急事態宣言が再発出されたこともあり、個人向けモバイル端末の販売は苦戦している(東京都)。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・3か月前と比べると土地の仕入れが徐々にできるようになり、まだまだ足りないものの、在庫を確保できるようになってきている。販売の方は若干動きが鈍いように感じる。今後も販売量を増やすよう動いていきたい。
		一般小売店[家電](経理担当)	販売量の動き	・来客数が非常に少ない。しかし、新型コロナウイルス禍の巣籠り需要なのか、プチリフォームのように、トイレや台所のコンロの入替え工事が増えている。
		一般小売店[家電](経理担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍なので、問合せに対して活動しているが、器具や機械の故障の問合せより、買換えの相談が多い。車の充電設備工事も増えている。
		一般小売店[文具](販売企画担当)	単価の動き	・店頭の来客数に関しては、前回の緊急事態宣言発出時は結構増えたが、今回はそれほど増えていない。競合や大きな文房具店が営業していることもあり、さほど変わりはない。逆に、支店の来客数が若干減っている。外商に関しては、前年よりは若干良いが、今のところ大型案件が取れていないため、今月はそれほど変わらない。
		百貨店(売場主任)	来客数の動き	・緊急事態宣言再発出の影響で来客数が減り、食料品もその影響を大きく受けている。バレンタイン商戦はオンライン販売等により好調に推移しているが、食料品全体の数字をカバーできるまでにはなかなか至っていない(東京都)。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・1月に入り、緊急事態宣言が再発出された後、来客数が前年比60%ほどに落ち込んだが、先週から始まったバレンタイン催事に対する客の反応が良く、食品部門の売上は連日前年をクリアしている。また、バレンタイン関連アイテムでも、EC受注の伸長がみられ、完売アイテムもある(東京都)。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・例年と異なり、初商の3密回避のため、福袋やクリアランスセールを大幅に縮小したことにより、店頭売上は大きく減少している。一方、インターネット販売は増加している。緊急事態宣言の再発出後は来客数が更に減少しているものの、内食需要の増加により、食料品のみ伸長している(東京都)。
	百貨店(店長)	来客数の動き	・12月以降継続して来客数が前年比65%と下げ止まっている(東京都)。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画宣伝担当）	来客数の動き	・来客数、販売高共に前年比マイナス30%弱となっている。緊急事態宣言の再発出により、食料品、日用品への消費比重が高まる一方、婦人服、紳士服の販売高シェアは大きく減少している。
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・競合との価格競争で、平均単価が下がる傾向にある。客は前年を上回る点数を買ってくれているが、平均単価が下がっているため、客1人当たりのトータルの買上額がなかなか前年を上回らない状況が続いている（東京都）。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出後、一部食品の動きが変わってきている。前年春の緊急事態宣言発出時の売行きに比べるとそれほど伸びはないが、1回に購入する量や金額が増えている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・1月は、衣料品が前年比2割以上の落ち込みとなっている。ふだん着、部屋着、肌着等についてはそれほど落ち込みはないものの、やはり、新型コロナウイルス禍のなかで外出がなくなったことから、アウター関係が非常に良くない。また、前年まであった化粧品を中心としたインバウンド需要がなくなった影響もある。ステイホームで食品全体としては1割強の伸びを示しているが、なかなか衣料品の落ち込みのカバーまではできていない。全体としてはほぼ前年並みである。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・現在は、客の来店回数は減っているものの、1回当たりの販売量並びに買上点数、買上額が、来客数減を上回る状況になっている（東京都）。
		スーパー（販売促進担当）	競争相手の様子	・競合店で新型コロナウイルス感染者が増加したため、当店の来客数が増加している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出により、近隣のイベントが軒並み中止となっており、その影響が来客数に現れている。
		コンビニ（商品開発担当）	お客様の様子	・大きな増減はないものの、来客数そのものは確実に減っており、逆に客単価は微増している。現状の新型コロナウイルスの感染状況を見ると、今後もこの状況が続く（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前月同様に、自粛で外出着の売上が非常に悪い。しかしながら、実用衣料品と衛生商材が良いので、前年比はクリアできている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染第3波の影響により、1月8日～2月7日まで緊急事態宣言が再発出されている。第1波よりは影響が小さいものの、業績には大きく反映されており、3か月前と比べて2割以上低迷している（東京都）。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・今年は新型コロナウイルスの影響で、密集を避けるために年始セールで福袋を販売しなかったが、前年のセールより来客数や売上は伸びた。帰省しない人が多くなり、それが消費につながったと考えられる（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っている。前月は販売が良く、このままいくのかと思ったが、今月は前月の半分しか販売できていない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響がいまだに続いている。先がみえないため、まとまったお金は出たくないという客が多い。
		乗用車販売店（渉外担当）	お客様の様子	・客の購買意欲に変化がみられない。
		住関連専門店（営業担当）	お客様の様子	・現在、当地域は緊急事態宣言下にはあるが、来客数や売上は宣言再発出前とほぼ変わらない（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・各商材の動きが余りない。もう少し売れてもいいかと思っていたのだが、売れない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・東京では1月8日から緊急事態宣言が再発出され、営業時間が夜8時までなので、7時半頃になると周りの店が看板の電気を消し始め、街も閑散としている。本当に街から人がさっさとなくなっていくのを切実に感じている（東京都）。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加により緊急事態宣言が再発出されたため、受注は前月並みで増えていない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響と、MNOの新料金プラン発表の影響からくるモバイル及び光回線の契約伸び率が低下している（東京都）。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・自粛期間に入っても、対面接客や営業については従来どおりで相応の実績がある。ただし、新型コロナウイルスを理由に約20%は対面での接客を断る現状があり、その点は無理しないように活動をしている。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・テレワークの増加に伴い自宅でのインターネット利用が増えることで契約数が伸びる一方で、トラフィックのひっ迫による速度低下を理由とする苦情解約も並行して増えるので、良しあしである。結果的に、状況は余り変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・加入時はもちろんのこと、加入後のコース見直しなどで、必要最低限の内容を選択する傾向は変わらない。
		通信会社（経理担当）	単価の動き	・客単価が毎月10円未満の単位で下がり続けている。世間一般ではテレビ番組の視聴方法にインターネット配信も選択肢にあり、CS放送をパッケージ売りしているケーブルテレビサービスが選ばれる機会が減ってきている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、訪問営業機会の減少等から、新規契約獲得件数が伸び悩んでいる（東京都）。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	来客数の動き	・低迷したままで変化はない。固定客の減少は余りなく、辛うじて一定数を保っている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・以前より関わっている案件は、減りも増えもせずそのまま続行している。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・民間案件の依頼はない。官庁案件が3月末まで継続するので、仕事量の変化はないと考えている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・1月ということもあり、新型コロナウイルスの影響で客との打合せ等もできず、全くと言っていいほど話が進まない（東京都）。
		設計事務所（職員）	それ以外	・例年、2月までは受注量が少ないが、新型コロナウイルスの影響もあり、動きが停滞しているように感じる（東京都）。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、展示場への来客数は前年比60%程度の状態が継続しており、新規顧客の情報減少により、受注量が減少している。
		その他住宅 [住宅管理・リフォーム] (経営者)	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客と会うことができずにいる。営業的な業務ができないということは、今後非常に大変になる。
		その他住宅 [住宅資材] (営業)	販売量の動き	・建築資材の需要期であるが、大型案件が少なく、例年以下の動きが続いている（東京都）。
		一般小売店 [家電] (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、取引先の飲食店が次々に辞めていっている。そうしたことから、ますます悪くなっていくような気がする（東京都）。
		一般小売店 [和菓子] (経営者)	お客様の様子	・来客数はさほど変わらない。自宅で食べる菓子は売れているものの、ご進物、箱詰めギフトの売行きが悪く、客単価が下がり、売上につなげていない。
		一般小売店 [文房具] (経営者)	販売量の動き	・来客数が大きく減少してきている。飲食店の営業時間短縮要請や休業により、伝票類などの近隣飲食店向け商材が全く動かない（東京都）。
		一般小売店 [傘] (店長)	来客数の動き	・再び緊急事態宣言が発出され、客の年齢層が高いこともあり、商店街への人出が少なく、来客数が少ない。
		一般小売店 [生花] (店員)	来客数の動き	・1月7日の緊急事態宣言再発出後から全然客が来なくなりました。新型コロナウイルスに感染するのは嫌なのでそれでいいのだろうが、本当に厳しい。どうやって生活したらよいのかと思うほど厳しくなっている（東京都）。
		一般小売店 [茶] (営業担当)	販売量の動き	・前月同様、売上が前年比で22%減少している。来客数も減少している。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言で不要不急の外出自粛のなか、来客数の減少から食料品、衣料品の苦戦が大きく響き、当店特殊要因によるプラス分が相殺されている。来店する客は、目的をもって来店しているため、買上率、買上単価は前年を上回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出を受けて、外出自粛の意識が高まり、来客数が減少している。また、これまで比較的堅調であった高付加価値商品に対する購買にも買い控え傾向が高まっている（東京都）。
		百貨店（広報担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発出されたため、来客数が減っている。ただし、臨時休業ではなく時短営業で対応できているため、やや悪くなっている程度である（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数減ではあるが、購買客単価は伸びている。バレンタイン商戦では、店頭は前年を大幅に割っているものの、オンライン売上は好調である（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・12月まで売上は回復傾向にあったが、1月の緊急事態宣言再発出後は苦戦が続いている。また、店舗によって好不調の差が激しい（東京都）。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・売上そのものは順調に推移しているものの、新型コロナウイルスの影響によるものが大きく、本来の状態ではない。価格に対してシビアになってきている部分が見受けられる（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発出され、来店頻度が減少し、来客数が5%ほど落ちている。ただし、巣籠り需要で客単価が10%ほど上がっており、売上自体は前年をクリアしている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・販売量が減っている（東京都）。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・夜間、特に午前0～6時の深夜から早朝に掛けての来客数、売上はほぼゼロに等しく、完全に赤字である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・年末年始に期待をしたが全然駄目である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・季節的な要因もあるかもしれないが、平日の夕方、遅い時間と土日の来店が全くなっている。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・緊急事態宣言後の初売り、その後の就職活動需要の客の来店が非常に減少している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・白物家電が好調に推移している一方で、理美容品の買換えが減少している。テレワークの常態化により、商品動向の変化に注視する必要がある（東京都）。
		家電量販店（経営企画担当）	来客数の動き	・1月に入り、2度目の緊急事態宣言発出となったことで、店舗の営業時間の見直しを実施したため、実店舗の売上数字は厳しい。一方、インターネット通販は好調ではあるが、店舗の減収分をカバーするには至っていない。自宅にいる時間が長いことに対応するための家電は好調であるが、ここでも二極化しており、全体としては厳しい（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の初売りセールを実施したが、例年よりも来客数が減少し、販売量も減少している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・ディーラーでは新車の販売台数が相当落ち込んでいる。新型コロナウイルスの影響により、新車の展示会や様々なイベントができず、まして営業マンが自宅を訪問して販売するという事は全くできない状況のためである。ただし、車検関係の整備についてはほぼ横ばいである（東京都）。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言再発出の影響もあると思うが、来客数や販売数が減少傾向にある。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・前年と比較して明らかに来客数が減っている（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による自粛が長期化し、確実に財布のひもが固くなっている。余計な物は買わないし、購買ランクを落としている傾向が見受けられる。
		その他専門店 [貴金属]（統括）	販売量の動き	・一気にというよりも、徐々に悪くなるという状況が続いている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響でレストラン、宴会共にほとんど予約がなくなり、非常に厳しい（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言再発出後は、夜の営業に関しては、はっきりと客足が遠のいた感がある。ランチ営業は現状で1割減となっている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年3月からほとんど宴会はないが、それでもフリー客で売上は何とか4割近く、多い時は5～6割を維持していた。それが、今回の緊急事態宣言再発出により、昼も自粛だということで、今月は1割強くらいに落ち込んでいる。今後も、宴会需要も含めて厳しい（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、不要不急の外出を避けたり、Go To Travelキャンペーンも一時停止になってしまった。電話で客の様子をうかがったところ、どこにも出られない状況なので、とても旅行気分ではないということである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出でタクシーの仕事は大変厳しくなっている。夜営業のタクシーが昼間の営業に回ってきて、減った客の奪い合いが起きている（東京都）。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・1月の客からの問合せ状況では、前年比で戸建ては減少しているものの、集合住宅は増加となっており、前月比でも同様の傾向が出てきている。緊急事態宣言の再発出もあり、こちらからの訪問営業について、在宅ワーク等により必要性を感じる客との接触率は上がっているが、必要性を余り感じていない客については、新型コロナウイルス感染への懸念から、断られる件数が増えてきている（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・大手鉄道会社減収の余波と思われる影響が具体的に出てきており、関連企業との来年度の契約が打切りとなっている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・訪問営業を自粛し、オンライン営業への移行を図っているが、販売実績は前年の数字を大幅に割り込んでいる。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の再発出により、巣籠りに伴うインターネットの需要は堅調に推移しているものの、携帯各社の新料金プラン発表により様子見となり、モバイル軸の動きは鈍っている。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・案件が縮小傾向にあり、減ってきている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・今年に入り、緊急事態宣言が再発出されて以降、人の動きが鈍くなった。対面営業が更にできなくなり、営業活動がしにくくなっている（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・前年のGo To Eat、Go To Travelキャンペーンの中断により、回復傾向にあった来客数、売上も影響を受け、さらに年明けの緊急事態宣言再発出後の外出自粛要請により、再び客足が遠のいている。
		競輪場（職員）	来客数の動き	・年末年始の記念開催レースやグランプリレースでも地元選手が優勝し、新型コロナウイルス禍のなかでも話題が多く、客も来場していたが、緊急事態宣言再発出後、来場者数が5割ほど減り、その後もずっと減っている。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	お客様の様子	・明らかにファミリー層が減ってきている（東京都）。
		設計事務所（所長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市役所等からも仕事の発注が全然出てきていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約55%と景気は悪く、3か月前と比べるとやや悪くなっている。新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言再発出により、長期休暇があった月にもかかわらず、来場者数、商談数が減少してしまっている。
	x	商店街（代表者）	来客数の動き	・最近、商店街の通行量もやや減っているように思われる。また、来客数が前年12月と比べるとかなり減っており、売上を確保するのが大変難しくなっている。
	x	商店街（代表者）	それ以外	・マスコミの報道では、緊急事態宣言の影響は前回ほどではないとのことだが、確実に小売には響いてきている。クレジットカード売上は、前年比7～8割で推移していたのが今は6～7割と、約1割落ちている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・今月に入ってから非常に悪く、客がほとんど来ない。やはり2回目の緊急事態宣言が出てから、少し変わってきているような気がする。1回目のときは特別定額給付金が出たので客が来店したが、今回は全く反応がない（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス禍のなかで、客が外出を自粛している。
	×	一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・街中に入出がない。ショッピングセンターへ行くと、レジに並ぶ客が以前より多くなったように感じる。必要な物を、必要な人が、必要な時に買物に行くということで、無駄な動きが世の中からなくなってしまったようである。非常に厳しい。
	×	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言下、飲食店からの発注がなくなり、新年会等の会合もないため、最低の集客である。
	×	一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出たことにより、また品物がさっぱり動かなくなっている。とにかく、この状態が終わらないことには商売どころではない（東京都）。
	×	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出を受け、客の外出への動きが鈍くなっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、そもそも客の消費行動はかなり慎重であったが、それが更に増している。来店を前提とした都心型の小売業にとっては、非常に厳しい状況である（東京都）。
	×	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発出され、来客数が前年の半分程度まで落ち込んでいる。それに伴い売上も減少している（東京都）。
	×	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・年末からの新型コロナウイルスの感染再拡大、緊急事態宣言再発出を受け、売上が減少している。初商においても、外出自粛の影響を受け、前年から大幅な減少となっている（東京都）。
	×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出以降、減少していた来客数が更に減少し、大幅なマイナスで推移している（東京都）。
	×	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・11月以降の新型コロナウイルス感染者数の増加に加え、1月8日の緊急事態宣言再発出により、営業時間短縮の実施や客の外出自粛等で、売上の落ち込みが顕著になっている。
	×	百貨店（副店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数が急増し、特に、緊急事態宣言が再発出されてからの売上の落ち込みは顕著である。そのようななかでも食品、家庭雑貨は比較的堅調であるが、アパレルの不振は深刻である（東京都）。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・当店はコンビニだが、緊急事態宣言再発出のなか、特にショッピングセンターなどの大型商業施設に入っている店舗は、かなり厳しくなっている。
	×	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の再発出を受けて、人の動きが減り、販売量も減少している（東京都）。
	×	衣料品専門店（営業担当）	販売量の動き	・前年12月半ばからの新型コロナウイルス感染者の急増及び1都3県に緊急事態宣言が再発出された影響により、年配者をターゲットとしている当店では、1日の来客数が1けたとなり、前年比では40%となっている。このままでは廃業しか道がなく、路頭に迷ってしまう。飲食店ばかりの給付金は理不尽でならない。
	×	衣料品専門店（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出以降、客足が極端に減っている。中高年対象の衣料品店なので、特に厳しい。
	×	住関連専門店（統括）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出自粛で、来客数が半分以下になっている。したがって、販売客数、販売量も減少しているのが現状である。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大、Go To Travelキャンペーンの一時停止、年末年始の外出自粛の影響もあり、大幅な減販となっている。全国的な寒波でも、東京、特に区部では灯油も大きくは増販していない（東京都）。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・客も、新型コロナウイルス感染者数の報道に日々振り回され、どのように立ち振る舞ったらいいのか、迷走している様子である（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されてから、本当に売れなくなっている。今後の見通しが全く立たない（東京都）。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・同じ質問を継続することは推移を見るのに有効だと思うが、この新型コロナウイルス禍、緊急事態宣言下では独特の要因が大きく作用すると考える。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今の景気は最悪である。夜8時までの時短営業をしているが、売上はほとんどない。前年比でもかなり悪くなっている。このままでは店が潰れる。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べて、今は緊急事態宣言中なので、客が全然来ない。周りでは、閉めている店舗もあるので、これ以上悪いことはない。客は新型コロナウイルス感染防止を意識しているということである。
	×	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・3か月前の10月1～27日までの前年比は、売上68.5%、来客数63.7%である。今月1月1～27日までの前年比は、売上46.3%、来客数44.3%となっている（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・アルコール提供は19時まで、20時で閉店といわれており、夜の客が全く来ていない。ランチも、今まで6人、8人で来ていた客が、ほぼ1人ずつでしか来ていない。
	×	一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・当社の場合、専門料理レストランの売上は、営業時間短縮要請に伴いイートインからテイクアウトにシフトした分の売上が比較的多かったため、ダメージも比例している。しかし、食品輸入業務については、客である飲食店、ホテル、菓子店などが低調のため、大きく売上が減少している。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・当社は飲食店を40店舗経営している。新型コロナウイルス感染拡大防止策としての緊急事態宣言再発出に伴う営業時間短縮と外出自粛の影響により、その被害額は膨大である。まだ収束する気配もないので、この状態が続くと、外食だけでなく経済全体に影響が及ぶ（東京都）。
	×	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス対策で当店も休業しており、近隣の同業者も休業にしている店が多いため、経済状況は悪い（東京都）。
	×	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・Go To キャンペーンにより一時上向きになりかけたところ、今回の緊急事態宣言によって新年会が全くなり、部屋の稼働率も10%台と低迷している。近隣の大型コンベンション施設でのイベントも全てキャンセルになり、レストランは現在休業状態に陥っている。先行きも全く見通せないなか、非常に厳しく、また不安な日々を過ごしている。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言の再発出前後から、宿泊のキャンセルが相次ぎ、稼働率は3か月前の80%減となり、割安料金でも予約が入らず、危機的な状況が続いている。宴会も、本来ならば新年会シーズンで満室が続くのだが、ほとんどキャンセルとなり、飲食を伴う会合は皆無である。このまま緊急事態宣言が延長になれば、経営的にも大きな打撃となる。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・Go To Travel キャンペーンの一時的停止及び緊急事態宣言の再発出に伴い、年末年始から非常に厳しい状況が続いている。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の再発出、Go To Travel キャンペーンの一時的停止等の影響により、12月に比べて稼働率が大幅に落ちている（東京都）。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・Go To Travel キャンペーンの一時的停止により、急ブレーキが掛かっている（東京都）。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・Go To Travel キャンペーンが一時的停止され、緊急事態宣言が再発出されたことで、残っていた数少ない案件も取消しとなっている。ますます先が見通せず、希望を見いだすことができない。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出により、申込みが一切ない（東京都）。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3か月前はGo To Travel キャンペーン期間中で国内旅行の需要があったが、現在は新規申込みよりキャンセル数が増えている状態で、苦戦している（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されたため、申込みがない（東京都）。
	×	旅行代理店（販売促進担当）	販売量の動き	・国内の個人旅行は、Go To Travelキャンペーンの一時停止により、予約をもらっていた客の旅行がほぼ全て取消しになっている。また、期待していた教育旅行については、今月は300件くらい受け付けていたが、2月に延期又は中止となり、1月の数字がなくなったので、大変厳しい状況である。海外旅行はもととない（東京都）。
	×	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大し、Go To Travelキャンペーンが一時停止されたため、来客数が減少し、開店休業状態である。
	×	旅行代理店（総務担当）	お客様の様子	・Go To Travelキャンペーンの一時停止及び緊急事態宣言の影響により、客の旅行需要が止まっており、予約済みの案件も取消しとなっている（東京都）。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・2度目の緊急事態宣言が発出され、タクシーの利用が激減している。特に、夜間の需要の落ち込みは極めて厳しく、歓楽街は夜8時を過ぎると人がいなくなる。仕方なく客を求めて周辺の駅に付けるしかないが、駅に向かうと構内のプールは入りきれない状況で、やっと列に加わっても先頭に行くのに小一時間掛かる。駅からの利用客はほとんどワンメータープラスアルファの料金で、3～4回乗せると終電がなくなるので、必然的に帰庫するしかない。これが毎日のパターンである。ただただ我慢の日々が続いている。景気は極めて悪い（東京都）。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・年明け早々、緊急事態宣言が再発出され、新年会などの飲み会はない。仕事はいつものシフトだが、客がいないので、売上、乗車回数共に半分以下である。それでも多少利用してくれる客がいるだけ有り難い。それと同時に、新型コロナウイルスも心配である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、人の動きがなくなっている。特に、緊急事態宣言下においては、夜になると人が全くいなくなる状況が続いている（東京都）。
	×	タクシー（団体役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出により、飲食店等が営業していないため、夜間の人出がない。日中においても、緊急事態宣言やテレワーク等により人流がなく、タクシー利用客が激減している。
	×	観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前の繁忙期と比べると、この新型コロナウイルス禍のなかで、今月は悪さが増している（東京都）。
	×	ゴルフ場（従業員）	それ以外	・久しぶりに街を歩くと、閉店してシャッターが閉まっていたり、入れ替わっていたりする店が目立つ。老舗の閉店も次々と報道されている。社会全体の景気が悪化しているとしか言いようがない。
	×	ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出後、高齢層を中心に来場を控える動きがみられる。来場客の中には、新型コロナウイルス感染を警戒し、食事を摂らずに帰途に着くケースも散見される。緊急事態宣言を受けて、レストラン滞在時間の短縮のために閉場時間の前倒しを行っており、客単価下落の影響が出ている。緊急事態宣言までの政策は、観光、飲食関係者にとっても消費者にとっても経済効果が現れなかったのみならず、緊急事態宣言に伴う経済活動の制約で巨額の経済的損失を発生させ、かえって景気の回復を遅らせる結果に終わったと考えられる。
	×	その他レジャー施設〔総合〕（広報担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言を受けて、来場者数が再度減少している（東京都）。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・早く新型コロナウイルスが収束してほしい。
	×	その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	お客様の様子	・今年に入ってから、そして緊急事態宣言の再発出後、特に低所得者層において新車への乗換えの動きが急激に弱まっているように感じる。やはり、店などの雰囲気が非常に悪くなっていることが影響しているのではないかと（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他サービス [フィットネス クラブ] (マ ネージャー)	それ以外	・新型コロナウイルスの影響である(東京都)。
	×	住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・当社は不動産ディベロッパー業と総合建設業である。当社が都内数か所に保有している賃貸用のホテルでは、観光客及びビジネス客が極端に減っているため、ホテル運営業者より約定の賃料がほとんど入っていない。また、建設業でも、公共工事以外は新規のプロジェクトが少なく、住宅の売行きも良くない。
企業 動向 関連 (南関東)		*	*	*
		出版・印刷・同 関連産業(営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷などの実店舗での販売及びインターネット販売がある。今月は、会社設立に関する二重丸の印鑑注文が7本あった。3件のうち1件は、2本の注文であり、業種は薬局と社会保険労務士とビル内装清掃である。このような業種で会社設立があったのは珍しいと感じている(東京都)。
		出版・印刷・同 関連産業(営業 担当)	受注価格や販売 価格の動き	・受注件数、受注額共に前年同期の売上目標に対し10%ほど伸びており、利益も10%ほど増加している(東京都)。
		一般機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・年度末であり、例年受注量が増加することを加味する必要がある。
		精密機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・今月、来月と月商平均に対してマイナス20%程度を予測していたが、来月は平均並みに受注できている。
		プラスチック製 品製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・物の動きが職種によって変わってきている。医療関係は良いものの、鉄道、その他交通関係は余り良くないようである。当社の場合はプラスマイナスゼロである。
		プラスチック製 品製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの影響で、化粧品容器の受注に回復傾向がみられない。医療品容器に関しては、取引先の海外工場が人員が集まらないため、生産が進まず、発注依頼をかけられないとのことである。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で得意先の仕事量は少ないが、少しずつ出てきているようである。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・得意先の仕事量はピーク時と同じくらいだが、新型コロナウイルス禍で本当に続くのだろうかと思っている。そのため、良くなるとは思えず、変わらないという判断である。
		輸送業(総務担 当)	取引先の様子	・繁忙期になったが、計画していた物量が思った以上に増えず、収益が伸び悩んでいる。
		不動産業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルス禍ではあるが、前回の緊急事態宣言発出時ほどのパニックはなく、落ち着いて活動の回復を待っている状況である(東京都)。
		不動産業(総務 担当)	取引先の様子	・ビル賃貸業を営んでいるが、新型コロナウイルスの影響により、テナントの出勤率が平均で50%を切る状況となっており、事務室の一部解約申入れも出ている。新型コロナウイルスが収束に向かわないなか、不透明感が増すばかりで、不安感が拭えない(東京都)。
		税理士	それ以外	・近隣駅周辺の商店街を夜に通るが、新型コロナウイルスの影響で8時に閉店する前は、店が2極化していた。2~3割の店は客がマスクも着けずに大声で盛り上がっていたが、8割くらいの店には全然客が入っていなかった(東京都)。
		その他サービス 業[廃棄物処 理](経営者)	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの影響から、工業系製造業工場等の取引先の稼働率が下がっており、受注、売上共に前年同期比で減少している。
		その他サービス 業[ビルメンテ ナンス](経営 者)	受注量や販売量 の動き	・新規物件に対しては人手不足を反映して募集金額を高く設定するので、それに伴う金額で受注できるが、既存契約は値上げができないのでコスト増になっている(東京都)。
		食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・3か月前よりも新型コロナウイルス感染者数が増えてきている。これまで客はさほど減っていなかったが、年末から1月に掛けて来客数が減っており、売上も減っている。
		化学工業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・3か月前と同様に厳しい状況が続いている。当社の製品は消費材向けであるが、個人消費の低迷が続く、押しなべて不調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的に前年同期比20%ダウンで推移している。新型コロナウイルスの影響下でこれをどう評価するかである。売上が減ると利益も減るが、今の人員を維持しつつ経営を続けていくのは経営者の責務と思っている。他の業界に比べればまだ幸せな方がもしれない（東京都）。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は前年度の3割ほどで、設備投資の話が全くと言っていいほどなくなっている。公共案件もここにきて公告が出たが、競争が厳しい。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の再発出により、今月、新築計画予定の見込み客が軒並み延期となる事態が発生しており、やや悪くなっている。
		輸送業（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言が再び出た影響もあるかと思うが、街が静まり返っており、夜は無論のこと、昼食時間帯も飲食店ににぎわいが全く感じられない（東京都）。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、思うように物量が伸びない。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・緊急事態宣言の最中であり、飲食業を中心に一段と厳しくなっている。
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の様子だが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の再発出後、飲食業を始め、小売業、サービス業の売上が減少している。不動産賃貸業も大きな物件から小さい物件への移動があり、収益が減っている。唯一、自宅で使用する家電や娯楽素材が売れている。全体的には景気は悪くなる傾向である（東京都）。
		金融業（役員）	取引先の様子	・前年10～12月は全業種で業況が改善していたが、足元及び今後の景況感には低下する。建設業では、前年10～12月は業況が大幅に改善していたが、新型コロナウイルス禍による税収不足から、来年度以降の公共事業予算を大幅に削減することと、公共工事受注減への懸念が強い。新型コロナウイルス感染第3波収束の見通しが立たないことに対する不安感が大きい。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・閉店した食品スーパーの後に、今年早々に隣県を主体にしている食品スーパーがオープンする。新年早々に緊急事態宣言が再発出され、新年会等、あらゆる行事が中止となり、良い状況を迎えていないなか、明るい材料である。近所の飲食店は軒並み時短営業で、休んでいる店も多くみられる（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・予定をしていた広告宣伝費の削減などが発生する企業が多くなってきている（東京都）。
		社会保険労務士	取引先の様子	・雇用調整助成金の給付申請を継続したり、新規に申請を希望する会社が増えている（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・緊急事態宣言の再発出による客数減が響いている。
		税理士	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染防止対策に伴う緊急事態宣言が当県にも再発出され、時短営業をしている飲食店には国と県から一律に給付金が出る。もともと20時以降の売上が6万円未満の事業者には恩恵となるが、それ以上の利益を上げていた事業者や、給付金関連事業以外の事業者には大きな痛手である。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・緊急事態宣言が再発出され、公営競技が無観客になり、警備の仕事もなくなってしまっている。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されたことで、新年の会合や研修会の撮影も全て中止となっている。また、新規事業の営業もままならない状況である（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量の減少が大きい（東京都）。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス禍のなかで緊急事態宣言が再発出され、案件の減少がみられる。
	×	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・清酒製造業だが、緊急事態宣言の再発出の影響が非常に大きい（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年明け以降、受注量が明らかに減っている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	それ以外	・売上の減少が止まらない。先行きが不安である。
	×	出版・印刷・同 関連産業（所 長）	受注価格や販売 価格の動き	・年始早々からの緊急事態宣言再発出により、計画していた案件がほぼ全て解除明けにスライドとなり、数字が大幅に減少している。
	×	建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・商品が売れない。退去したテナントの再入居もなかなかない。
	×	建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・緊急事態宣言が経済を足止めしている。
	×	輸送業（経営 者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で最悪である（東京都）。
	×	通信業（広報担 当）	受注量や販売量 の動き	・1月は緊急事態宣言の再発出もあり、明らかに悪化している（東京都）。
	×	金融業（従業 員）	取引先の様子	・飲食業はまとまった予約等は全く入っていない。建設業についても、一般住民に関わるような、例えばマンションの改修工事等は住民が嫌がるので、新型コロナウイルスが収束するまで大規模修繕は延期するなどの事案が散見される。
	×	広告代理店（従 業員）	受注価格や販売 価格の動き	・イベント事業が一向にない。
	×	経営コンサルタ ント	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、中小金属加工業では受注が激減してきている。営業に行くにも直接の訪問はままならない。特に、地方の取引先については、東京から来ることを拒まれており、電話やメール等のみとなっているため、なかなか追加受注の話まで行かない。ましてや新規開拓は無理である（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・年度末以降の募集についても継続して受注できている（東京都）。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・派遣求人数が前年同月比、3か月前比共に10%強の伸びを示しており、長期派遣契約の開始も前年同月比では100%強、3か月前比では70%の水準となっている（東京都）。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン関連業務で、コールセンター等のオーダーが増加している。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は3か月前と比較して変わらない。
		人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・1月だけを見ると前年の受注比率に戻りつつあるが、それでもまだマイナスで推移している（東京都）。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・ここ数か月の求人数は、さほど変わらず推移している。求職者数は微増傾向となっているものの、求人数が余り変わらないため、マッチングに大きく影響していない。そのため、景気が変動するほどではない（東京都）。
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・製造業におけるエンジニアの需要はまだ平常時よりは低く、新たな製品開発に対する投資には様子見の状況がうかがえる（東京都）。
		民間職業紹介機 関（経営者）	採用者数の動き	・インターンシップイベントは多く開催されているが、参加企業は増えない。大手企業は独自に展開しているようだが、中小企業の動きは静かである（東京都）。
		民間職業紹介機 関（経営者）	求職者数の動き	・求職者の求人環境は、企業に対してもいろいろな政府支援、配慮もあり、不安な要素は余りない。ただし、東京オリンピック需要に対する不安はあり、設備や人などの投資には慎重である（東京都）。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・2度目の緊急事態宣言ということもあり、現場の混乱はないものの、取引先からは来年度以降の契約見直しに関する問合せが増加している。一時期は人材派遣の依頼をある程度もらっていたが、今月に入り、ほとんど新規受注がない状況となっている（東京都）。
		人材派遣会社 (社員)	それ以外	・会社の業績や採用動向は悪くないが、自身を含め、周囲の消費動向は、新型コロナウイルスの影響が続いて悪くなっている（東京都）。
		人材派遣会社 (支店長)	それ以外	・新型コロナウイルス感染防止対策としての緊急事態宣言再発出もあり、求人ニーズは一旦延期となったり、ニーズそのものが減ったりという傾向が強まってきている（東京都）。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・緊急事態宣言が再発出され、求人数が減少傾向になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌制作会社（営業）	求人数の動き	・緊急事態宣言貰った中ということで、将来を気にする客や、仕事が減った客がいる。人材採用は将来を見越して行うものなので、当然、今の状況は良いとは言えない。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	採用者数の動き	・東京を含め、首都圏は緊急事態宣言下にあり、イベント開催などには新型コロナウイルス感染防止対策が必須で、大型イベントなどは開催しにくい状況にある。それに伴い、当社のような採用関連のイベント運営を生業としている企業にとっては売上減が必至となり、見通しも立ちにくい。中途採用の実施、人材確保がなかなか難しい（東京都）。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・緊急事態宣言の再発出により、企業の採用活動がやや鈍化している（東京都）。
	x	求人情報誌制作会社（所長）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が増えると、求人どころではなくなるため、難しい。
	x	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・例年の1月と様変わりしており、年明けの新規案件が全くない。製造業の募集は全然なく、相変わらず運送、警備、介護、医療関係ばかりである。事業所では、例えば10か所あったところを半分や3分の1に減らすという話ばかりである。
	x	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・有効求職者数の増加と新規求人数の減少、就職件数の減少に改善の兆しはみられず、雇用情勢の悪化傾向は続いている。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (甲信越)		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は1人暮らしの高齢者からの依頼が多い。また、市の福祉課からの依頼も増えている。親族が遠方からやってきて、最期のお別れも少人数でしている。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数、客単価共に、前年超えの状況であり、景気は回復してきていると感じている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は若干減っているものの、客単価が若干上向いている。ただし、トータルでの売上はやや厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・街に活気がなく、客も消費意欲がない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・今月は大雪の影響もあり、売上、来客数共に減少している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検及び一般整備は、前年同月期とほぼ同じ推移で、良くも悪くもない状況である。車両販売は、例年なら年度末に向けて上向く傾向だが、新型コロナウイルスの影響で客の買い控えを感じる。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・国内の新型コロナウイルス感染者発生から1年たったにもかかわらず、終息の兆しが見えない。2度目の緊急事態宣言も発令され、宿泊業ではせっかく入った予約がキャンセルされ、新規予約も入らず、大打撃が続いている。Go To Eatのチケット販売も停止され、館内の飲食部門も休業したままで、再開の見通しが立たない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が一層広がっており、この先に対する不透明感が増大し、加入や解約も止まっている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・異動のシーズンを控えており、人の動き自体は活発になる。ただ、特別に上向く要素も少ないため、現時点では横ばい状態である。
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・降雪や寒波もなく、順調に予約は入っている。また、新型コロナウイルス感染予防対策をした上で、高齢の客も元気にプレーをしている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・仕事の依頼数は多く、相変わらず人手が足りていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍では商店に行くことも不要不急で自粛するムードになっており、来客数がますます少なくなっている。しばらくの間は静かにしているよりほかに方策がない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客が買物に出なくなったことや学校のクラブ活動等がなくなったため、来店客がいらないに等しいほど悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・地域発行のプレミアム付商品券等もほぼ動きが止まり、商材の動きも緩やかになってきている。これと言って消費者の購買意欲を誘うものもなく、厳しい状況は続きそうである。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が、客の動きが少ない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・外出自粛要請で、来客数が減っている。
		スーパー（経営者）	それ以外	・業績は緊急事態宣言による巣籠り需要で堅調だが、パートやアルバイトの希望者が多くなってきている。
		スーパー（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの発症率が上がり、地域独自の緊急事態宣言が出て、客の危機感を感じている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・買上点数は増えているものの、来客数は減っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・当県での新型コロナウイルス感染者が増えてきており、客は敏感に反応して外出をしなくなっている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・特に、1月に入ってからだが、週末の土曜日は何とか売上はあるものの、日曜日は巣籠り傾向が強くなって、なかなか今までのようには売上が増えていかない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・年初からの大雪、再度の緊急事態宣言等の影響もあり、来客数が激減し、新車販売も需要期らしい伸びがない。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大で、県独自の警戒レベルが6段階の5に上がったため、市内でも不要不急の外出自粛のアナウンスがされている。客足は遠のくばかりで、2～3名の会食予約も入らない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発令があり、人の動きが大幅に減少している。Go Toキャンペーンの一時停止による影響もあり、回復傾向から一転し、悪い方向となっている。
		ゴルフ場（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染再拡大によって、宿泊、飲食業等は、いよいよ持ちこたえられない状況になってきている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の影響で、やや悪くなっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・Go Toキャンペーンの中止や緊急事態宣言再発令で、人の流れが止まってしまっている。店舗売上は前年の3分の1に届かない。
	×	百貨店（店長）	販売量の動き	・元々苦戦しているところに緊急事態宣言が出て、主要な顧客である高齢者の来店が極端に少なくなり、売上の減少が大きくなっている。
	×	スーパー（経営者）	来客数の動き	・1月は前年比で売上が12%減、来客数は15%減となっている。新型コロナウイルスの影響で、地域のイベント中止で仕事の依頼がないことが、売上減の一因である。病院への野菜の納品が1日約2万円あっても12%減なので、純粋な店頭販売だけなら更に売上は減少しているのではないかと。早く収束してもらいたい。
	×	スーパー（副店長）	それ以外	・他の方々と同じ回答になってしまうと思うが、緊急事態宣言の再発令や、飲食業への時短要請、外出自粛等を行っても、一向に回復の兆しが見えない。新型コロナウイルス感染への恐怖で、日々心配しながら暮らしているので、景気が良いはずがない。そもそも他のことに興味を持たない。
	×	その他専門店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・非常に悪くなっている。飲食店が全て夜9時以降の営業をしていないため、酒が全く動いていない。さらに、客の動きや販売量も落ちてきて、非常に深刻な状態である。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・「飲食店に行ってはいけない」と言われれば、当然来客数は減る。テイクアウトも、報道されている都会の様子と地方とは違う。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・報道で、「会食がよくない」と言い始めてから、宴会が完全になくなってきている。個人客もめっきり減って、1月の売上は落ち込んだ12月の半分程度である。恐らく、営業しない方が赤字が少なく済むレベルである。何とかランチで売上を作ってる感じなので、ランチにだけはけちをつけないでほしい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言による宿泊業への影響が甚大である。休業要請が出されているわけでもないのに、宿泊予約が全てキャンセルになっている。緊急事態宣言発出が年明けだったので、大みそかから1月2日まではやや宿泊があり、今月の売上は緊急事態宣言が出されるまでの間の売上である。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・法人需要が一番活発に動く1月の新年会等、飲食を伴う宴会が全てキャンセルとなり、前年比10%ほどになっている。
	×	旅行代理店（副支店長）	それ以外	・旅行業では客の動きが止まっている。個人、団体にかかわらず、緊急事態宣言とGo To事業の停止により、来店客の激減や旅行自粛が要因となり、年末年始の旅行も受注が止まってしまった。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・前月までは比較的順調に、前年比70～80%で推移してきたが、今月は新型コロナウイルスに対する報道などの影響があり、同70%に届かない。
	×	観光名所（職員）	来客数の動き	・都市部の緊急事態宣言の再発令と地方の新型コロナウイルス感染拡大により、スキーシーズンだが来客数は激減している。
	×	遊園地（職員）	来客数の動き	・1都3県への緊急事態宣言の再発出や宣言エリアの拡大等により、出控えが加速し、大幅な集客減となっている。
	×	その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	来客数の動き	・年始は1年の中で一番忙しい時期だが、例年の約半分で、今まで経験したことのないほど客が来ない。年始以降も低調に進んでいる。緊急事態宣言が再発令され、客の動きが一層鈍くなっている。非常に厳しい年の始まりである。
	×	その他サービス [貸切バス]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で、需要はほとんどない。
企業 動向 関連 (甲信越)		*	*	*
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前は良くなかったが、その頃と比べれば、受注は増えてきている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・当社の業況アンケート調査によれば、企業の景況感前期に比べ大幅に改善している。業種別でも製造、非製造業共に、改善している。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況がみえないなかで、現状維持がしばらく続きそうである。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・最繁忙期を過ぎて反動が予想される。現状、新型コロナウイルスが沈静化する兆しもなく、消費には陰りが見えること等もあり、やや悪化している。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の再発出があり、当県では1月25日から飲食店の時短営業要請が出る等、新型コロナウイルス関連の自粛要請が多い。観光、飲食業等は大きな打撃を受けると考える。
		新聞販売店 [広告]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・外出自粛や時短営業など様々な取組をしているなかで、経済活動としての受注量は減っている。新型コロナウイルス感染拡大防止と経済とのバランスは非常に難しく、取引先も憂慮している。
	×	食料品製造業（製造担当）	競争相手の様子	・観光客が来ないので、飲食店、ホテル等からの発注が上がってこない。スーパーも落ち着いている状態が続いている。
	×	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の影響により、業務用の出荷が大幅に落ち込んでいる。一部個人消費は伸びたものの、大変厳しい状況に置かれている。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当地区は本当に新型コロナウイルスの影響で冷え切っている。受注量は前年の半分である。
×	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・店頭販売品は元より、特注品の受注も全くなっている。	
×	その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月13日から開催された展示会は、直前の緊急事態宣言再発出の影響で、全国からの来場者が70%減となった。開催直前で出展を取りやめた業者や売上が見込めずに会期中で閉店した業者もいた。その後は緊急事態宣言の対象地域拡大で、出張も難しくなり、売上は前年比40%減となっている。	
雇用 関連		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(甲信越)		職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・Go To Travelキャンペーンの一時停止や緊急事態宣言再発出も、状況が悪化したのは宿泊業や飲食業と限定的である。特に、緊急事態宣言は、対象都道府県ではなかったこともあり、影響は余り聞こえてこない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・小規模事業所を中心に雇用調整助成金の利用は多く、全体として求人数に大きな変動はない。
		民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・業務量に企業間格差が目立っている。新規採用に消極的な姿勢が続いている。
		人材派遣会社(営業担当)	それ以外	・金曜日等の会社帰りに駅前で買物をする客が異常なほどいない。到底、経済が動いているとはいえない。
		求人情報誌製作会社(経営者)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、周辺企業の求人は大きく減少している。介護、福祉業界では、現在でも募集広告を掲載している企業はある。
		職業安定所(職員)	採用者数の動き	・採用活動が慎重になっており、マッチングは難しくなっている。
	x	*	*	*

6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)		商店街(代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が徐々に収まり、結構良い方向になっている。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出に伴って、午前から午後8時くらいまでの来客数が急激に伸びた。ただし、午後8時以降閉店までの来客数が激減している。保存が利く商品の売上点数が増え、客単価も110%ほどに伸び、売上は上がっている。
		スーパー(販売担当)	販売量の動き	・化粧品品の対面販売の不振は余り変わっていないが、巣籠り需要は堅調に推移している。
		スーパー(営業企画)	お客様の様子	・今月に入ってから緊急事態宣言により、Go Toキャンペーン以降少し落ち着きかけていた内食需要の高まりがあり、客単価を中心に売上は好調である。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍のなかで新規の来店は少ないが、既存客を中心に販売台数は初売りのメーカーCM効果もあり増えてきた。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍でも営業活動をしている。個人宅の新規申込みは微増しているように感じる。
		一般小売店[生花](経営者)	販売量の動き	・新年会、成人式等の会場装飾の仕事もなく、花の使用量が減っている。結婚式もほとんどない状態が続く、厳しい状況であるが、一般の消費は何とか売上をキープしている。
		一般小売店[書店](営業担当)	販売量の動き	・引き続き新型コロナウイルス禍で営業活動の短縮が行われているが、例年並みの年度末用の受注量が見込まれる。
		スーパー(ブロック長)	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出以降、来客数は減少しているが、客単価は上昇している。外出、外食を控えて1回の買物で量を買われている。価格にも敏感に反応している状況であるので、業種によって良い悪いはあるが景気は変わらない。
		スーパー(販売担当)	販売量の動き	・やや良い状況は変わらない。年末のクリスマスケーキやおせちの予約が前年超えだったのと同じく、恵方巻きの予約も前年超えである。
		スーパー(商品開発担当)	販売量の動き	・売上は前年比約108%と好調に推移、来客数も3か月ぶりに前年比100%を達成した。
		スーパー(総務)	販売量の動き	・家庭内需要が今も変わらない。
		コンビニ(店員)	来客数の動き	・前半は会社や学校が休みのため来客数が少なかったが、後半は戻ってきた。客単価があるので1か月を通して落ち込みは少なく済んでいる。
		衣料品専門店(売場担当)	お客様の様子	・現在、緊急事態宣言下ではあるものの、前年春の宣言下とは状況が異なっているため、客からの訪問拒否もなく、購買意欲にも大きな変化はみられない。
	家電量販店(店員)	販売量の動き	・来客数が増えた状態が続いている。予算に限られた客もいるが、良い商品なら特に予算はないという客も多い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されたことで、Go To Travelキャンペーンなどの一時停止の延長及び感染対策などにおける店舗営業時間の制限などがあり、景気は変化ないと感じる。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・当地域は緊急事態宣言下のため、前年の春ほどではないが外出が減っている感じがする。しかし、車の整備には来てくれているので変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・前月末から初売りセールを行い、期間を長く設けることで、来店客が密にならないように対策を講じたりしている。中旬頃までは新車の販売台数、来客数共に目標どおりに進んでいたが、緊急事態宣言が出てからは来客数が前年の半分くらいになり、売上も落ち込んでしまった。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出されているが、前年春の厳戒態勢のような雰囲気ではなく、来店客も悲壮感はない様子である。例年であれば繁忙期に入るが、客の購買意欲は少し低く、加えて商品の玉不足により、販売量は増えていかない。
		その他専門店 [雑貨]（店長）	販売量の動き	・前年まであったインバウンド消失の影響も一巡し、爆買いアイテムだった化粧品も前年比での落ち込みは落ち着いた。
		その他専門店 [書籍]（店員）	単価の動き	・緊急事態宣言により巣籠り需要が増えていると思われる。書店は引き続き売上がアップしている状態が続いている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（経理担当）	販売量の動き	・毎月のことだが新型コロナウイルスの影響が大きい。
		その他飲食 [仕出し]（経営者）	販売量の動き	・業界によって良い悪いが二極化している。考え方を考えていくしかない。
		その他飲食 [ワイン輸入]（経営企画担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出により消費者の行動が大きく変わるかと思ったが、ほとんど変わらなかった。消費は底堅い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・景気が悪い状況が半年～1年ほどと長引いており、過去を振り返ってみても悪いとしかいえない。繁華街の人も少なく、まだまだ続くと考えている。
		美顔美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、職場から不要不急の外出を控えるように言われたり、体の不自由な客は家族にしばらく休むように言われる等で来店を控える客が数名いる。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・悪い状態が変わらない。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・客と話をしているとき、景気の良い状況の話は聞かない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・横ばい状態が続いている。
		その他住宅 [不動産賃貸及び売買]（営業）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発出されてからは、法人客の入退去が例年よりも少ない。賃貸業界の繁忙期でもあり、減少はしているがそれなりに動きはある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出に伴い来客数が格段に減り、土日祝日が底になり、平日の方が客足はあるように感じる。
		一般小売店 [高級精肉]（常勤監査役）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの動向が影響している。
		一般小売店 [土産]（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染がとめどなく広がってからの緊急事態宣言の再発出は、観光地である当地方の経済に大きくダメージを与え続けている。観光バス利用の観光客はほとんどゼロ、鉄道での客の移動も5分の1程度、辛うじてマイカー客が少々と、ひどい状態である。
		一般小売店 [贈答品]（経営者）	お客様の様子	・1月は新型コロナウイルスの感染状況がひしひしと厳しくなっているのが店の状況でも分かる。人と人の接点を結ぶギフトでは、客の付き合の幅がまた極端に狭くなった。法事も親戚で集まる数を兄弟だけにし、いとこは呼ばない。結婚式も遠い友達は呼ばず、近場の親戚や兄弟だけで済ませる人も多い。極端に人との付き合いを狭めている傾向があり、売上は3か月前と比べてやや減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は減っており、土日になると少し増えるが買わない客が多い。1人でうろろしている男性客が多くなった。女性客は購買力がまだあるのか買物袋を持っているが、男性客は、行くところがないから散歩がてらデパートに寄ってただ見ているだけのよう客が多く、売上は厳しい。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・前回の緊急事態宣言と比べ、客の入店や買上は増加しており、少し安どしているものの、バレンタインなどの集客催しは、通路の確保や事前予約などにより出店ブランド数や来客数も減少しており、売上に大きく影響が出ている。また、セールの年末への前倒しにより、数字はとても厳しい。新型コロナウイルスの感染拡大は、早く収束方向となしてほしい。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出に伴う出控えが、消費を大きく冷え込ませている。
		スーパー（店員）	単価の動き	・緊急事態宣言の発出で飲食店の買い出しの量が明らかに減った。この時期のメインとなるみかんも低価格で推移しているため、余り売上が伸びない月になった。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言もあると思うが、以前より来客数が少なくなっていると感じる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言発出などが全体に影響している。来客数は2%減少、客単価は前年比10%上昇しているが何とか全体の売上は5%減少で維持している。特に、たばこ、酒類、日用品の売上が減少傾向である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年比87%と悪化している。
		コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言のなか、売上の前年比は95%である。前回の緊急事態宣言のときほどのインパクトはないが、客足は確実に遠のいている。株価の動向や世界情勢も気になるところだが、小売の観点で勘案すると、まずは緊急事態宣言が解除されない限り、回復の兆しは見えない。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	来客数の動き	・2度目の緊急事態宣言で来客数が減っている。新型コロナウイルスの感染者数が爆発的に増えるなか、身近で感染の話題を聞くようになった。地方も半年遅れで東京の後を追っている感じである。今まで楽天的だった人も外出を控えている気がする。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新春フェアや新型車のプラス要因があつてこの販売台数である。新型コロナウイルス感染者数の増加によって、また消費が落ち込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・仕事のキャンセルや減少に頭を悩ませる事業主の客、残業が禁止になり収入減少の会社員の客等、新型コロナウイルスによる悪循環の影響が以前より目立つ。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の販売台数は12月から前年割れしており、1月も前年と比較して販売台数を落としている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・全体的に動きがやや良くなり、他社のように値段を下げるべきかどうか考えている。ただだと新型コロナウイルスの影響を引きずっているのが響いてきているようで、横ばいというよりは今一つである。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・今年に入って緊急事態宣言が発出されてから、明らかに客の購買意欲が落ちていることを実感している。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・再び緊急事態宣言が出たため、客とは、緊急事態宣言解除後という話になっている。
		住関連専門店（営業担当）	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響で、商業施設、住宅などについても新築現場が減少している。併せて改修物件などについても様子見という形で延期の物件が多くなっている。
		一般レストラン（従業員）	それ以外	・緊急事態宣言により皆外食を自粛している。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・予約が入ってもすぐキャンセルになる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規契約数は伸び悩み計画数を下回り、解約件数は増加傾向にある。特に有料放送系サービスの解約が増加しており、節約傾向が感じられる。
		通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が、安い回線への乗換えやメタル回線の解約の申込みが増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・機器等の資材不足等により、工事の遅れが生じている。
		テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・当県も緊急事態宣言に追加され、本市だけでなく周辺の自治体も感染者数が増えている。そのため、外出も控える人が増えている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・今月は年頭より雪に見舞われ、各ゴルフ場で数日のクローズとなった。その後も週末の天候に恵まれず、入場者は落ち込んだ。今月は大きく入場者が減少したものの天候の影響が大きく、景気としてはやや悪くなったと判断する。
		その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後の観光列車運用停止とアテンダント等の自宅待機によって社内の活気がなくなった。一般列車乗客数も密を避けての利用を促していることが影響してか、通常混み合う便も若干少なく推移している。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスのため、来客数が減っている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で来場者数が減少している。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	販売量の動き	・年が明けて、年末の繁忙はどこへ消えたのか。年末で一区切り付いたので今から始動する感じである。見積り依頼や工事受注状況は堅調である。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・Go To キャンペーンが停止になったため、飲食店、アパレル小売店、百貨店などいろいろな店が相当なダメージを受けている。
	×	商店街（代表者）	競争相手の様子	・所々の商店街を見ても空き店舗が増加しているように感じる。特に中心部にある商店街は、シャッターが閉まっている店が目立つようになってきた。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・隣県に緊急事態宣言が発出されて以降、当地でも目に見えて来客数が減っている状況である。
	×	商店街（代表者）	販売量の動き	・Go To Travel キャンペーン停止後、ステーション系売店は前年比70%ダウン、商店街売店は50%ダウンである。急発進・急ブレーキの政策なので在庫管理が難しく、売上ダウンなのに仕入れ経費が思うようには下らない。
	×	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う営業時間短縮要請、緊急事態宣言による更なる時間短縮等のため、飲食店のアルコール販売はほとんどなしの状態となった。酒類問屋の配車自体が、休業となったり、時間短縮、配送車両の減車となっている。アルコール販売はもともと1～2月は低いなかで、売上ゼロの店が半数になり、その他の店も前年の1割程度となった。当社も厳しくなっている。
	×	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍の最中で12月は来客数が落ち込んだままだったが、下旬から年末年始の需要がけん引して11月までの売上の伸びを上回った。しかし、1月は自粛生活により来客数も少なく、売上も2割減少の状況である。
	×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出以降、来客数が減少し、景況感がかなり悪化している。
	×	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が出て、懸念していたとおり来客数は減少した。テナントビルのイベントや自店の新作の投入もあり、多少の集客はあった。しかし、前年比60%で状況は厳しい。
	×	百貨店（計画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出前後から、回復に向かってきた来客数が明らかに落ちてきており深刻な事態になっている。特に土日の落ち込みが著しい。
	×	百貨店（業績管理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発出されたことで、来客数、売上共に大きく減少傾向にある。初売りについても密になることを避けるためか、従来のような開店待ちの列もなく、前年から大きく売上が減少した。
	×	スーパー（経営者）	販売量の動き	・前回の緊急事態宣言以降で最も悪くなっている。売上は前年同日比50%減少である。
	×	スーパー（支店長）	それ以外	・景気の悪い理由は、新型コロナウイルス以外にない。とにかく仕事は大変な状況であり、今後は不安しかない。
	×	コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出されて、急激に売上、来客数共に減少している。前月と比べ、前年比で10%程度低下し、特に空港やターミナル駅近隣の店舗は下げ幅が大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出に伴い、足元の来客数自体が大幅に下落している。来客数は、前年4月の緊急事態宣言時以来の減少である。
	×	コンビニ（店長）	販売量の動き	・売上、来客数共に前年比5割に届かない状況が続いている。特に緊急事態宣言が発出されてから顕著である。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・当地にも緊急事態宣言が出ているが、前年の緊急事態宣言時よりも割と近くで感染者数が増えてきており、外出を控える人が増え、来客数が減少し売上もかなり減ってしまった。
	×	コンビニ（商品企画担当）	それ以外	・緊急事態宣言の再発出により、売上が前年の3割程度まで減少した。前月まではGo Toキャンペーン効果などによるトラベル需要により売上が伸長傾向にあったが、直近ではトラベル需要の減少に加えてテレワーク推進による通勤客の減少で、売上減少が顕著である。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・バーゲンセールになっても、外出そのものを控えているため来客数は激減している。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されたが、前回と比べ、人との接触をより気にする人とそれほど気にしない人との差が大きく、接客が難しい。そのため営業活動を積極的に行うことができず、なかなか客の購買意欲を的確につかむことが難しい。よほど必要な用件がなければ来店してもらえない。
	×	その他専門店 [貴金属]（経営者）	来客数の動き	・マスコミ報道による新型コロナウイルスの感染拡大の影響で外出自粛が増え、来客数が激減している。セール企画を打ち出しても十分な集客が困難で、経費倒れしてしまう。
	×	高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・前月～年末年始の繁忙期に新型コロナウイルスによる時短要請、今月に入り緊急事態宣言による更なる時短及び外出自粛が客足に大きく影響している。特に夜の営業は閑散としている。想定より影響は大きく、テイクアウト等の新たな取組では補い切れなかった。
	×	一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、一部の常連客しか来ない状態である。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが12月に停止になり、当地は緊急事態宣言の対象地域ではないが、宣言発出後は自粛の動きが加速し、キャンセルが続出した。僅かな客しかいない状況であり、来客数の動きから景気は悪くなっている。
	×	観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・12月にGo Toキャンペーンが停止となって年末年始の予約が半減し、今度は1月になって緊急事態宣言が発出され、それ以降2～3月の予約が20%程度まで落ち込み、多大な影響を受けている。新型コロナウイルス第1波のときは大宴会場を締め、食堂も1店舗のみの営業としたが、今回はそれを上回り、日を定めてポイント的に3～4日間宿泊をやめるに至っている。
	×	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・Go Toキャンペーン停止、時短要請、緊急事態宣言を受け、宿泊、レストラン、宴会ともほぼ売上はない状態である。
	×	都市型ホテル（営業担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で宴会が壊滅的な状況に加えて、緊急事態宣言が発出されてからはレストランも休業状態が続いている。当面は手の施しようがない。
	×	旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・Go Toキャンペーン事業停止によって、全く受注がない状態である。
	×	旅行代理店（経営者）	それ以外	・今年に入って、ターミナル駅前の繁華街中心部では飲食店の休廃業が目立って増えている。その上、緊急事態宣言によって飲食店の営業は時短となって夜8時以降の入出がめっきりと減り、飲食店以外のタクシー、バス、電車等の移動サービスの利用者も減っている。
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・一部地域に緊急事態宣言が出され、Go To Travelキャンペーンが全国的に一時停止されたので、旅行の仕事がパタッと止まってしまった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーン全国停止の延長、緊急事態宣言、新型コロナウイルスの感染者の増加により、協力金はもらえなくても営業していること自体が悪のような感じである。新規予約の見通しが立たない。Go To Travelキャンペーン再開は難しいというニュースばかりで客も事業者も困惑している。年末年始や1月の旅行を楽しみにして中止になった客に罪はなく、Go To Travelキャンペーンはこのまま中止でも、何らかのサポートをしてほしい。紙の地域共通クーポンの在庫はたくさんあるので利用方法を考えてほしい。土産店などがかなり効果はあると聞いている。
	×	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・Go Toキャンペーンの影響で旅行自粛ムードが緩和され、この状態が数か月続くものと期待していたが、期待をことごとく裏切られる展開となった。
	×	旅行代理店（営業担当）	それ以外	・旅行業を含む観光業界は、新型コロナウイルス第3波による緊急事態宣言とGo To Travelキャンペーンの全国停止により既存・新規の申込みも含めて9割以上取消しとなり、前年4月の状態に逆戻りした。来客数もほぼゼロ、販売量も9割減と深刻である。営業でも対面営業ができず、現在は旅行業以外の内職を行っている状況である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響である。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・1月は、特に正月三が日など例年神社仏閣の初詣客が非常に多いが、今年は例年の半分以下、露天商も出ない状況であった。夜の街は相変わらず飲食店への時短営業要請で人出はなく、今月からの緊急事態宣言、それに拍車を掛けて当市でも、救急車も病院が思うようには見つからないといった医療崩壊のようなニュースがあり、大変である。
	×	レジャーランド（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第3波とGo Toキャンペーンの一斉停止により来場者が急減している。例年実施している冬季イベントの中止や短い冬休みも影響した。さらに、2度目の緊急事態宣言で更に来客数が減少した。
	×	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・インバウンドがなくなり、緊急事態宣言で客の動きが鈍くなっている。
	×	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・緊急事態宣言中でありほとんど集客はない。団体客も3月まで全てキャンセルが続いている。
	×	観光名所（案内係）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる自粛要請が出てから、人通りがとても少なくなった。これは飲食店やその他全てに影響していると考えられる。
	×	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きが悪い。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年と比べて半分以下の来客数になっている。新型コロナウイルスの影響で、遠方の客は電車に乗りたくない等の理由で来店しない客が多い。
	×	美容室（経営者）	それ以外	・前年からの新型コロナウイルスの騒ぎで、客も美容室どころではない、家から出たくない、ということから店はとても暇になった。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響に尽きる。
	×	理容室（経営者）	お客様の様子	・客は仕事にも手が付かないくらいで、外出も控えている。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、客の動きが悪くなり売行きが悪い。
	×	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・アパートの入居率が下がりつつあるようで、退去後のリフォーム工事も高額になってきている。退去してすぐには工事をせず、退去した部屋の入居が決まったら工事を進めるといったオーナーも出てきた。
企業動向関連		*	*	*
(東海)		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が発出され、影響の及ぶ業種も多くあるが、自動車関連や農産物関連の受注量、販売量が順調で、相対的には景気はやや良い状況を保っている。
		化学工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関係の需要は9割回復している。電材向け薬液の需要は引き続き好調である。
		窯業・土石製品製造業（社員）	取引先の様子	・同業他社はどこも忙しく、早めに注文しないと納期が間に合わないため、どこも先行して注文を出していて、忙しさに拍車を掛けている。電子部品関係の素材に関わる取引先は、どこもフル生産になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気の良い業界と悪い業界が二分している。工作機械は持ち直し気味で、繊維業界は小売に引きずられて下がり気味である。車両関係は下がり気味である。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・大手自動車メーカーの中国向けが好調であると聞いており、大手自動車メーカー向けの部品製造会社はどれも好調である。新型コロナウイルス発生以前の状況に戻ってきた。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年どおり1月中旬から客の動きが活発になる時期で、新型コロナウイルス禍のなかではあるが、今年も1月中旬から来場客が増えた。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・前月は、新型コロナウイルスでマイナスになった分が回復しただけで景気が上向きとはいえないと回答したが、今月に入って、それが少しプラスに変わりつつあると感じている。緊急事態宣言でまた消費が低迷している状況であるが、それを差し引いても伸びが続く、景気は上向きになりつつあるのではないかと考えている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月同様、案件の引き合いは活発である。価格は低水準を維持している。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年の年末以来、大変多忙な状態が続いている。他社からの発注も少しずつ出てきている。競合先においては仕事が少なく、どうやら世の中はまだら状態と考える。
		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が出されているエリアもあり、全国的に停滞感が漂うなか、受注が思うようには上がっていない。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・緊急事態宣言で経済が停滞しているなか、景況感はやや悪いという印象しか浮かばない。行く先々で人が少なく、購買者が少ないことは明らかである。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は例年比20%ほど落ちたままである。先行きの不安も多く、今後は客の廃業や倒産などのおそれや影響も考慮しないといけない状況である。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中国、韓国での自動車向け設備投資は活発になってきたが、主力である北米市場での動きが鈍い。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・対外的な数字には余り影響が出ていないが、予算は縮小傾向になってきた。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客先の受注量から、全体的にはやや悪いという感じがある。一部、自動車関係や工作機械関係の会社については前年比プラスであるが、全体的には販売量、売上高共に横ばい状態である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・在宅勤務や家庭内での動画視聴サービスの需要増加に伴い、通信インフラ増強の要望は相変わらず多く、年末における受注残高は前年同期と比較して17%増加となっている。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・航空業界は、大手航空機メーカーのプロジェクトが駄目になったことと新型コロナウイルスの影響による落ち込みから回復する気配が全くない。現在自分は自動車部門に応援にいらしているが、そちらは景気が良い様子である。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・緊急事態宣言中で、外出を控えている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費財、生産財共に物量は前年よりも5～10%下がっているが、ここ数か月安定しており利益を出しやすい状態が続いている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2019年度は後半の10月から受注量が1割ほど減った。2020年度は、前半こそ新型コロナウイルスの影響で落ち込んだものの、夏頃からは前年度の減った状態にまで戻ってきた。荷主の話の聞いていると、3月まではこのままでいきそうである。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・国際航空貨物は、旅客便の減便により旅客便で運んでいた貨物があふれ、その減便分の航空貨物が貨物専用便の増便につながっている。この傾向は継続すると見込まれる。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・飲食関連、宿泊関連の事業者を中心に業績が厳しい状況が続いている。特に資金繰りが厳しい事業者は、廃業となる傾向がある。業績改善の兆しは見られない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年同様に晴れの日が多いが、新型コロナウイルスの影響により出費を抑える傾向は継続しており、売上は前年同期を大きく下回っている。
		行政書士	受注量や販売量	・身の回りの物流業者が、荷が少ないとやっている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・飲食店は夜の客が減っている。水泳競技会の運営会社では、競技会が中止になるケースが多く、雇用調整助成金の申請が続いている。毎日整形外科ヘリパビリのため通院していた人が、緊急を要しないということで通院をやめたままである。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・緊急事態宣言下の割には、派遣切りは余り発生していない。
		金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・仕事の引き合いの減少も気になるところだが、鉄製品の急激な値上げや品不足で安定的な生産に不安を感じ、収益的にも圧迫要因になりかけている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	それ以外	・在宅勤務の広がりで関連ビジネスは落ち込みもなく売上を維持している。一方、部材の入手が難しくなっている製品もあり、今後需要に応えられるかは不透明である。自社以外では、飲食やサービス業等でかなりのダメージがあることを肌で感じる。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・民間向けの仕事については、受注がキャンセルや延期になったりするとよく聞く。公共の仕事は3月までの契約なので、今の分は作業状況等で中止になる場合を除けば仕事は履行してもらえる。来年度4月以降の工事契約等になってくると、各自治体や営業担当者からは下向きと聞くため、景気は下向き傾向ではないかと業者同士では話している。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・街行く人の数が少ない。店が閉まっているから少ないのか、人が少ないから店が閉まるのか、もはや分からないレベルである。夜の人出だけでなく、休日の百貨店やふだん予約で一杯のレストランも閉古鳥が鳴いている。私1人が外食に外出しても焼け石に水で、どうにかしたい気持ちも萎える。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・自分の関係する光回線受注の仕事でも減少傾向が続いている。テレワークができない業種はまだまだ試験のときが続いている。倒産件数も増加傾向にあり、新型コロナウイルス禍の影響は、ポディーブローのように、ダメージがじんわりと企業、家庭に効いてきている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・一概にはいえないが、新型コロナウイルスの影響で、飲食店を中心に時間短縮等いろいろ不都合なことが起こっており、助成金等の支援を受けても、高い自己ができないということから皆不安を持っており、経済的にも余り芳しくない状況である。一方、自動車産業等は忙しくなっている部分もあったため、全体としての景気は、やや悪くなっている。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が受けられるようだが、具体的なことはまだ分からず、客先の企業でも様子を見ている。
		公認会計士	それ以外	・客先の中堅中小企業の業績が新型コロナウイルスの影響等で厳しい。中堅中小企業の資金繰りは、新型コロナウイルス対策の給付金や融資で一時しのぎをしているが、返済原資である今後の収益の見通しが立たない。そもそも、低生産性や後継者不在等の根本問題の解決ができていない。
	×	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言発出後、更に受注量が減った。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの第3波のため、客先業界全体も厳しくなってきた。取引先も設備投資をほとんどしないということになり、2月分等のキャンセルがたくさん入り、非常に難しい状況である。
	×	通信業（総務担当）	それ以外	・緊急事態宣言下にあり人の動きが制限されている。景気は確実に悪くなっている。2月以降の新型コロナウイルスのワクチン接種で感染者数が劇的に減少することに期待している。
	×	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込チラシの受注量が減っている。Go To Travelキャンペーンが一時停止となり、旅行関係のダイレクトメールもなくなった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連 (東海)		-	-	-
		人材派遣会社 (経営企画)	周辺企業の様子	・開発委託の依頼がやや増加傾向にある。
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・主要客である自動車メーカーとの請負取引は、基本的に予算削減の動きが継続しているが、ごく一部の取引部署では3月や4月からの請負取引の予算増加が決まるなど、3か月前よりも景気が上向きに感じられる。
		アウトソーシング 企業(エリア 担当)	雇用形態の様子	・当地の自動車産業全般において雇用者数増加の動きがあり、年度末目標達成を見据えた動きと考える。
		民間職業紹介機 関(支社長)	求人数の動き	・採用に前向きになってきている会社が増えてきた。決して今は買手市場ではない。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響でいまだ何も変わらず、ホテル業界は非常に悪い。
		新聞社[求人広 告](営業担 当)	採用者数の動き	・景気は改善の気配がなく、停滞したままで前月と変わらずという印象を受ける。採用企画を通じての企業の採用者数は、依然低調なままである。
		職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・緊急事態宣言の発出以降、飲食店については下向きの傾向にある。製造業のなかには、上向きのところもあれば下向きのところもあり、一概に判断できない。
		職業安定所(次 長)	求人数の動き	・新規求人数が伸びていない。
		職業安定所(次 長)	求人数の動き	・有効求人数の前年同月比を3か月前と比較すると、僅かに改善傾向は見られるものの、依然大幅な減少が続いている。
		民間職業紹介機 関(営業担当)	採用者数の動き	・徐々に新型コロナウイルス禍での採用を成功させる道筋に求人側も順応しているが、いまだに環境面からオンライン面接などができない会社等も多数あるため、商戦期ではあるが前年比では減退している。
		人材派遣業(営 業担当)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス禍による消費低迷が継続している。中堅以上の飲食店は、国の補助金も大きな支援には程遠いと感じている。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人数は、3か月前には底打ち感があり上昇トレンドの見てきた業種があったが、緊急事態宣言により再度厳しい状況になっている。
		人材派遣会社 (企画統括)	求人数の動き	・求人数、求職者数共に前年比で大幅に減少している。
		職業安定所(職 員)	それ以外	・1月に入り、3月末に向けての廃業、人員整理などの相談が出てきている。
		職業安定所(次 長)	求人数の動き	・11月の新規求人数は、前年同月比マイナス24.9%、前月比マイナス17%と依然として高い数字でのマイナス傾向が続いている。紹介件数は、前年同月比マイナス13%、前月比マイナス14.8%である。特に中高年者の紹介件数が前年同月比マイナス21.2%となっており、新規求人数の減少に伴って紹介件数も減少している状況である。
		その他雇用[広 告代理店](求 人広告担当)	周辺企業の様子	・取引先には新型コロナウイルスで業績が悪くなった会社と業績の良かった会社があるが、業績の悪くなった会社の方が多い。そのため、勤めている会社の業績はやや悪くなっている。
	×	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言により、企業側が業績を見通せなくなり人材の新規採用を見送っている。
	×	新聞社[求人広 告](営業担 当)	求人数の動き	・新型コロナウイルス禍での求人活動は制約が多く、非対面、非接触での採用活動はまだまだ難しい点が多いように見受けられる。

7. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)		-	-	-
		一般小売店[書 籍](従業員)	来客数の動き	・来客数が僅かに増えている。
		家電量販店(本 部)	単価の動き	・大雪の影響を心配したが、エアコンや洗濯機などの大物家電が好調に推移している。全体では若干上向きである。ただし、来客数は減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・当月初めは降雪のせいで客の動きがなかったが、少しずつ来場者が増え始めて、販売が活気付いてきている。3か月前と比べれば、販売量が増え始めている。
		通信会社(営業 担当)	来客数の動き	・大雪の影響で来客数が大幅に減少している。また、例年であれば学生向けの新規契約が増える時期であるが、既にスマートフォンを持っている人が増えており、例年と比べて新規契約が少ない。
		美容室(経営 者)	それ以外	・今月の前半は大雪による交通障害や除雪の遅れがあり、売上は落ち込んだ。中旬以降は天候が回復し、新型コロナウイルスの感染者数の状況が改善する方向にあるとの報道もあり、気持ちが多少明るくなってきている。
		一般小売店[事務 用品](店 員)	お客様の様子	・年度末に向け官公庁案件は動きが出てきたが、民間案件は変わらず低迷したままである。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・巣籠り需要があるようで、販売量が増えている。大容量パック商品の動きが良く、単価がアップしている。
		コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・客単価が変わらない。
		コンビニ(店 長)	来客数の動き	・売上は前年比の2割減少で推移している。売上が2割減少すると、営業利益で3割強の減少となる。個人経営であればフランチャイズの固定費は掛からず、自身の収入のみが減少し、理論上赤字にはならないが、社員を抱えている同業者や契約上家賃等が発生する加盟者は赤字になる。当社の場合は社員を多数かかえ、家賃の支払もあり、固定費が前年と同様に掛かっている。利益が3割減少となると、事業自体の継続が難しくなっている。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・当地では新型コロナウイルスに加え、1月の大雪の影響で大打撃を受けており、売上は大幅に悪化している。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・引き続き受注は順調に伸びているが、半導体の不足により自動車の生産に遅れが生じており、売上に結び付いていないものがある。
		自動車備品販売 店(役員)	販売量の動き	・例年初売りの告知販促は行っていなかったが、今年は会員向けに実施している。しかし、大きな集客にはつながらず、福袋は必要とみられる商品に偏った傾向である。降雪に伴い、緊急用品の問合せは多かったが、災害のため仕方なく購入する客がほとんどである。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーンの休止と緊急事態宣言の発出により、宿泊、宴会、レストランの全部門が厳しい。
		通信会社(役 員)	販売量の動き	・大雪の影響で一時的にセールス活動できない期間があったが、放送、通信共に前年同期並みの契約数を確保できている。
		住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・平均請負価格や契約後の追加工事価格の伸びが鈍い。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・感染拡大が衰えない新型コロナウイルス、Go To 商店街キャンペーンの中止、近年まれにみる豪雪で、耐えている状況である。どこまで耐えられるのか、飲食はもとより衣料品関係も全く先がみえない状況である。
		百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛の動きから、初売り期間の売上は前年比で40%減少、7~14日は大雪の影響で売上は前年比で55%減少と散々な前半だったが、後半は盛り返し、月全体の売上は前年比で23%減少の見込みである。
		百貨店(販売促 進担当)	販売量の動き	・上旬は年末年始の帰省客が激減し、初売りに影響した。アパレルのクリアランスセールを中心に大きくマイナスである。連休期間中は大雪で交通が混乱し、商品によっては入荷が困難なものがあり、販売員が通勤不可能になった結果、時短営業を余儀なくされている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・全国の新型コロナウイルス感染者数が増加している。当県でもクラスターの発生など、毎日感染者が発生しているため、来客数が減少している。また、街の再開による周辺ビルの解体などで更に来客数が減少している。加えて中旬の大雪の影響で、営業時間の短縮や交通機関の麻ひにより状況が悪化した。しかし、その後は反動からやや改善している。緊急事態宣言は出ているものの、食品催事の開催時には多くの客が来店し、入場規制をするまでに増加している。県外に出掛けられない代わりに、食には金を使う傾向である。しかし、他への買い回りは少なく、衣料品などは苦戦している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・し好品などの不要な買物を控えている様子である。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・特売商品のみ購入者が増加しているように見える。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる外出自粛の影響が再度出ている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・大雪の影響で来客数が減っている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・豪雪により、交通渋滞や除雪、出社できない従業員等、通常どおりの営業ができる状況ではない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・1月は大雪のため、売上が約1週間ほど何もなかった。その分減益している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、新年会が全て中止になっている。感染がまだまだ収まらない状況であり、夜の街にも足を運ばなくなっている。昼間も極力外出を避けているようである。
		通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・外出自粛が続いているので、来客数が減っている。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第3波の影響で、身近に感染が迫ってきている感じがする。外出制限等の対象が違う業界でも、客は自分事として自粛を再開している。この雰囲気により、他の人も同様に自粛の行動をとっている。また、今月は年始の大雪の影響で短縮営業や、4～5日休業せざるを得ない日があった。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今月は、仕事始めからすぐに大雪に見舞われ、イベントを計画していたが、来場者はなかった。約1週間ふだんどおりに動けなかったため契約が進まない。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・毎年、新年の住宅展示会は来場者が多いが、新型コロナウイルス禍の状況で来場者の動きは鈍いと感じている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに加えて大雪の影響まで重なった。ふだんの生活もままならず、1週間は雪かきが仕事になってしまった。客は食料品のみ購入になり、それ以外の業種の売上はさっぱりである。金を使おうという雰囲気でもなく、当然財布のひもは固い。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・開店休業とは正にこのことである。年末から誰も歩いていない状態が続いている。売上は前年同月比の20%にも満たない。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスと、当地では前年末から相次ぐ大雪で、人の動きが全く止まってしまっている。前年の3月か4月のようなものである。本当に閑散としている。
	×	スーパー（店舗管理）	それ以外	・豪雪のため駐車場の確保が困難である。加えて自転車での来店も減少したため、必然的に来客数が減少している。また、新型コロナウイルス禍で内食需要の高まりに対し日配品の需給バランスが乱れ、厳しい状態が続いている。
	×	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第3波が年始の繁忙日を直撃している。三が日の来客数が大幅に前年割れしている。さらに、大雪の二重苦で、中旬までの状況が壊滅的である。
	×	コンビニ（営業）	来客数の動き	・豪雪の影響が大きく、来客数が大きく減少している。
	×	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染者の増加に加え、35年ぶりの大雪で来客数が激減している。
	×	衣料品専門店（店舗運営）	販売量の動き	・セール商品でも慎重に品定めをし、まとめ買いをせず単品で購入する客が目立っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	任関連専門店 (役員)	来客数の動き	・大雪の影響で1月前半は休業を余儀なくされ、まともに営業できていない。営業しても客がほとんど来ない日が続いている。初売りは暦の関係で、それほど大きく盛り上がっていない。
	×	その他小売 [ショッピング センター](統 括)	販売量の動き	・年末の東京都においての新型コロナウイルス感染者数急増による外出自粛の影響や、県内で感染者数が増加し、県の判断指標の段階が上がったことによる飲食店の利用自粛や外出自粛などの呼び掛けもあり、1月は来客数が大幅に減少している。また、消費者の行動変化により、販売量も来客数とともに大幅に低下している。
	×	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・年末にGo To Travelキャンペーンが停止し、3連休は大雪である。その後は緊急事態宣言で、飲食店は悪であるというような風潮になり、来客数が例年に対して30%ほどの状態が続いている。
	×	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止により、一挙に客足が減っている。それに加え、連休時の豪雪により少ない予約もキャンセルになっている。ひどい状態である。
	×	一般レストラン (統括)	来客数の動き	・1月7日の1都3県への緊急事態宣言後、急激に当社店舗の来客数はもちろん、他社の来客数や北陸市場の状況など、全てにおいて消費者が動いていない状況である。特に新型コロナウイルスに関しては、消費者心理が報道に左右されることが多く、首都圏の感染者数が減らない状況が続いているため、まだしばらくこの悪い状況が続くとみている。
	×	スナック(経営 者)	来客数の動き	・1月18日から月末まで営業時間の短縮、若しくは休業の要請があり、夜9時までの営業となったため、当店では曜日により時短と休業で対応している。月の前半は大雪で厳しい状態となり、悪かった前年1月の4割の売上となっている。協力金で命がつながっている状態である。
	×	観光型旅館(経 営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言により、1月の売上は前年比の約20%まで落ち込んでいる。
	×	観光型旅館(ス タッフ)	それ以外	・12月は前年比で総売上が94%、宿泊人数が86%、宿泊単価が117%となり、ほぼ前年並みの売上を確保したが、Go To Travelキャンペーンが一時停止し、その後は緊急事態宣言の発出でキャンセルが増加している。
	×	旅行代理店(支 店長)	販売量の動き	・Go Toキャンペーン一時停止による予約取消しがある。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・当地では外出自粛と飲食店への営業時間短縮の要請などにより、夜の客の動きが非常に悪い。
	×	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・11都府県での緊急事態宣言発出の影響と、Go To Travelキャンペーン一時停止の再延長により、前年同期比で見ると9割近く減少しており、ほとんどが休業日という状況になっている。
	×	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・首都圏の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、来場者数が落ち続けている。商談の遅れも目立ってきている。
企業 動向 関連 (北陸)		*	*	*
		精密機械器具製 造業(役員)	受注量や販売量 の動き	・12~1月の販売実績は回復状況にあり、製造の受注量は、現状のキャパシティに対して多い状態が続いている。
		化学工業(総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・受注量が変わらずに推移している。
		プラスチック製 品製造業(企画 担当)	受注量や販売量 の動き	・都市部を中心とした新型コロナウイルスの感染再拡大や、緊急事態宣言発出などの影響は大きく、受注、販売共に厳しい状況が続いている。
		通信業(営業)	受注量や販売量 の動き	・今年度第1四半期と比較して、8月頃から受注量が上向きになり、補助金の恩恵もあって、第2~3四半期は前年並みに推移している。そのため現在もほとんど変化がなく、順調なレベルで推移している。
		不動産業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・不動産業界では、半分程度が少し良く、あとの半分はまだ動きが悪いという話である。また、個人客の動きが少し鈍いことから、変わらないとみている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		税理士（所長）	取引先の様子	・以前の良いときに比べると客の売上高は平均で6～7割程度にとどまっているところが非常に多い。小売関係は厳しい状態で、観光関係は前と変わらず絶望的な数字である。製造業は受注が低迷している。設備投資では設置などのために海外渡航ができないため、機械の輸出が止まっている状態が数か月続いており、心配である。
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・年が明けても家庭消費向けの市販用は引き続き好調だが、2度目の緊急事態宣言の影響か、外食向けを中心に業務用が大幅に前年割れで推移している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で悪いなが、日本市場は安定した受注があるが、欧米市場は非常に厳しい状況が継続している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・工事の受注がやや減少してきている。
		司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルス関連の助成金申請のための依頼は継続しており、依頼者から事業が困難であるとの話を聞くことが多い。
	×	輸送業（役員）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス禍に加え、一過性ではあるが豪雪による運行の妨げがある。当社は医薬品の輸送を手掛けているため、影響は少ない方かもしれないが、製造関係の輸送を手掛けている会社は、新型コロナウイルスの影響が大きいと聞く。
	×	金融業（融資担当）	取引先の様子	・年末年始の取引先の受注や売上は悪化している。季節需要を期待していた取引先にとって、かなりの打撃となっている。前年融資した取引先からの資金繰りや、追加融資の相談も出始めている。
雇用関連		-	-	-
(北陸)		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・企業からの人材を求める動きが鈍い上に、求職者の動きも鈍くなってきている。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人案件に対する求職者数が微増だと感じる。ただし、現在の契約が終了や終了見込みであると推測すれば、現状維持、あるいは悪化しているのかもしれない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・県内でも新型コロナウイルスの新規感染者が一定数出続けていることに加え、大雪の影響を受けて精神的にも物理的にも外出自粛の傾向に拍車がかかった。自社も含めて、多くの企業で物流や業務に一定程度支障が出たものとみている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・年度当初より求人数の減少幅は若干持ち直しているものの、いまだ厳しい状況は変わらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新しい求人が少ない。新型コロナウイルス禍となつてから、企業の求人は低調である。しかし、将来の人材として新入社員への採用意欲は強い。新型コロナウイルスの影響で個々に面接することが難しく、合同企業説明会等は盛況である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人募集を出す会社が少ない。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・当地は対象区域ではないが、緊急事態宣言後、企業活動や人の消費活動が委縮しているように感じると、流通や自動車販売に携わる人から聞いている。
		×		

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		スーパー（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が年明けから急増するとともに、外食需要が完全に家庭での内食にシフトしている。来店頻度の減少による来客数の減少は続いているが、大容量の商品が売れており、単価が上昇している。また、例年1月は売上が落ちる酒類も、需要が大きく伸びている。
(近畿)		スーパー（店長）	販売量の動き	・2度目の緊急事態宣言の発出以降、1度目に比べると緩やかではあるが、自宅で食事をする人が増えている。1人当たりの買上金額が上昇し、来客数も増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・緊急事態宣言の再発出により、前年の4月に販売量が伸びた、内食対応の商品が再び伸びている。日持ちのする備蓄商品も販売量が伸びており、客単価の上昇要因となっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・緊急事態宣言のなか、20時までの外出であれば大丈夫と考えている客が多く、家電製品がよく売れている。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	販売量の動き	・新型コロナウイルスなどの症状の把握に、パルスオキシメーターが有効といった報道があり、注文が殺到した。また、同時にマスクなどの売上も伸びている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・ブロードバンド回線の需要は、継続して伸びている。高齢者世帯や若年層の単身世帯など、今まで余り利用していなかった層の利用が拡大傾向にある。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は1万235円で、3か月前の9965円よりも上がっている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・住宅販売業界では、新築マンションは一部の富裕層の動きが活発化し、高額物件への購入に動くケースが目立ち始めた。資産バブルの影響が出始めていると感じる。新築戸建についても、ライフスタイルの変化が進み、パワーカップルといわれるダブルインカム層の動きが顕在化しており、おおむね市場は好調な状況にある。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で、近隣の商業施設でも年明けから完全に閉店する店が増えている。そのような状況下で、長く地域密着で続けてきた影響もあるのか、固定客が心配して店に顔を出してくれている。電池交換やバンド交換であっても、顔を出して売上に協力してくれることに、小さな景気の良さを感じる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発令で、来客数が更に減少した。例年、1月が年間で最も売上の増える月であるが、前年比で70%にとどまるなど、非常に厳しい状況である。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響による失業や、家から出てはいけないという思い込みが強過ぎて、うつ病になる人が増えている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・密の状態を避けるため、初売り福袋の当日販売を取りやめた結果、今月の売上は前年比で30%の減少、来客数は40%の減少と落ち込んでいる。緊急事態宣言の発令により、当店ではレストラン街だけではなく、一般の商品売場も1時間の時短を実施しているため、売上は更に落ち込む。
		百貨店（販売推進担当）	お客様の様子	・店内の密集状態の回避策として行った、福袋の販売縮小や、セール品の年末での前倒し販売により、年始の売上は大きく落ち込んだ。ただし、緊急事態宣言が発出された中旬以降は、新型コロナウイルスにも慣れてきているのか、9～11月とさほど変わらない様子である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・緊急事態宣言の発令で来客数は減っているが、食品は客単価の上昇で、売上は横ばいである。食品は単籠り消費で伸びているほか、衣料品や余暇のための予算が食品に回っているようである。衣料品や化粧品、雑貨はインターネット通販へのシフトが更に顕著となっている。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・果物がよく売れている。高くても売れている物もあるほか、週末は相変わらずまとめ買いをする人が多いと感じる。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・仕入れ、売上共に増えているが、大きくは変わっていない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・年末商戦は、単籠り需要もあって高額商品が動くなど、堅調に推移した。足元も緊急事態宣言の発令を受けて、内食需要に支えられている。
		スーパー（販売促進担当）	お客様の様子	・食品スーパーでは、来客数は減少しているものの、まとめ買いによる単価の上昇で売上は上昇するという、新型コロナウイルス禍での傾向が続いている。売上としては悪くないが、社会情勢を鑑みて、景気が上向いてくるとは考えにくい。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・当社に限っていえば、ここ数か月は横ばいの景気であるが、客のなかには飲食業に限らず、かなり景気が悪くなっているという話が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店員)	来客数の動き	・来客数はいつもと変わらず、外出の自粛による影響はないと感じられる。
		家電量販店(店員)	単価の動き	・在宅率が上がったことで、エアコンや空気清浄機、加湿機といった環境対策商品の需要が伸び、好調である。住宅リフォームも少数ではあるが、以前よりも付加価値の高いタイプの需要が高くなっている。
		家電量販店(店員)	来客数の動き	・寒い時期になって新型コロナウイルスの感染者数も増え、来客数は減少傾向にある。以前のような、特別定額給付金によるエアコンや空気清浄機、パソコンなどの特需もみられない。
		家電量販店(人事担当)	来客数の動き	・来客数は前年よりも少ないが、平均単価の上昇でカバーしている。外出の機会が減っているせいか、家の中での生活を充実させるために、高機能の製品が売れている。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言も出たため、なかなか来客数や販売台数が目標に届かない。
		乗用車販売店(販売担当)	販売量の動き	・実際の販売量自体は変わっていない。むしろ、車を購入したくても、新型コロナウイルスの影響で入荷がない状況にあるため、売れていない。
		その他専門店[宝石](経営者)	お客様の様子	・依然として株価は高く、金の価格も高いが、新型コロナウイルスによる景気の悪化が広がっていることが懸念される。
		その他専門店[医薬品](経営者)	お客様の様子	・飲食業を中心に、ほとんどの業種は厳しい状況にある。一方、新型コロナウイルスの感染者数増加に伴い、緊急事態宣言が再び発出され、マスクなどの衛生用品や除菌関連商品のほか、巣籠り需要によるラーメンなどの食品の動きは引き続き良い。さらに、1月に入って厳しい寒さが続いているため、カイロや入浴剤の売上は上向きである。
		その他専門店[宝飾品](販売担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、外出の自粛が求められた感染第1波の際は、催事の中止や延期によって販売機会が失われた。今回は感染予防策を講じた上で開店しているが、催事では集客が更に減っており、売上どころではない。
		通信会社(経営者)	来客数の動き	・今後も官製不況が続く。
		通信会社(社員)	来客数の動き	・来客は完全予約制となっているため、いきなり客が来ることもない。前年に比べると来客数はかなり減っており、販売も落ちている。
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・取引先からの相談内容に、新型コロナウイルスによるデジタル対応への変化という投資案件が増えている。一方、新型コロナウイルスの影響で売上は伸び悩んでいるという声も多く、業種によって明暗が分かれている。従来と体制を変える必要があるが、デジタル対応をすれば成果が上がるのかも分からず、不透明であるのが正直なところである。
		観光名所(企画担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況を示す、大阪モデルの赤信号の点灯で客がまず減少し、緊急事態宣言の発令でほぼ来場しなくなっている。
		住宅販売会社(経営者)	競争相手の様子	・建売業者やハウスメーカーによる販売は好調と聞いている。
		住宅販売会社(従業員)	競争相手の様子	・分譲、賃貸のマンション開発用地の取得は競合が厳しく、取り合いになっており、土地価格は上昇傾向にある。
		住宅販売会社(総務担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、テレワークやWebでの商談に慣れたことにより、契約量は微減にとどまっている。
		一般小売店[花](店長)	それ以外	・緊急事態宣言や新型コロナウイルスの影響による先行き不安が、悪化の原因となっている。
		百貨店(企画担当)	来客数の動き	・当店の来客数の前年比は、10月が60%減少、11月が55%減少、12月が55%減少であった。1月に入り、第2週に60%減少へ悪化した後、緊急事態宣言の発出された13日以降は、65%減少と更に悪化している。来客数の減少に伴って売上も減少するなど、業況は悪化している。
		百貨店(企画担当)	来客数の動き	・正月商戦の来客数は、前年の3分の2程度であった。正月明け以降はやや上向いてきたものの、当地域に緊急事態宣言が発出された1月14日以降は、来客数が減少し、前年の80%を超えることはない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・例年とは異なり、密集を避けるために、年明けのクリアランスセールや福袋の販売は行っていない。売上拡大につながる起爆剤がないまま、緊急事態宣言の発出に至ったことで、客の来店意欲が高まらない状況にある。
		百貨店（外商担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出による影響で、来客数の若干の減少が見受けられる。
		百貨店（サービス担当）	単価の動き	・今月は2回目の緊急事態宣言が発令され、来客数は前年比で30%ほど減少しているが、買い回り率は前年よりも18%上昇しており、来店客の購入率は高まっている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・正月商戦が全く盛り上がりせず、食品しか売れない状況が続いている。アパレル関連の取引先も商品を作るに作れず、商品が変わらないため、購買に結び付かないという負のスパイラルが生まれている。アパレル企業の体力が、どんどんなくなっているように感じる。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・当地区でも緊急事態宣言が発令され、営業時間が短縮となったほか、店舗内外での様々な催しが中止、延期となり、売上は低迷している。一部の高額時計やブランド宝飾品の受注はあるものの、婦人服、紳士服は依然として低調である。
		百貨店（商品担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第3波が年始から急拡大し、緊急事態宣言が出されたことで、年末に少し盛り返した来客数が再び急降下している。一部の特選洋品や高級時計、防寒洋品雑貨は好調であるが、バレンタインデー関連の催事が始まっている食品部門では、これまでの善戦から一転し、全体の来客数の減少により厳しい状況になっている。
		百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・初売り時の混雑解消を目的に、Webでの福袋販売の強化やセール日程の変更に取り組みなど、自助努力で入館数を減少させていたが、緊急事態宣言の発出で入館数が激減している。当地域に発出された日より、首都圏での発出で外出を自粛する傾向が強まっており、7日以降はほぼペースが変わらない。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・今月は正月商戦がかなり苦戦し、福袋、クリアランスセール共に低調である。気温の低下による影響はあるものの、ファッション関連の売上は前月よりも更に厳しい推移となっている。緊急事態宣言による影響だけではなく、月を通して来客数が悪化している。特に、夕方以降は滞在時間も短くなっている。
		百貨店（特選品担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、午前中と18時以降の来客数が大きく減少している。月全体でも来客数は前年の約40%となっている。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発令により、来客数は前年比で半減している。特に、中間層のミセスによる購買が極端に弱く、服飾雑貨や食品も苦戦している。価格も更に低下し、客単価も厳しい状況で、生活防衛意識がより一層高まっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・正月まではハレの日での購入がみられたが、正月明けから一気に通常の動きとなり、消費者の財布のひもが固くなったように感じる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発令されて以降、衣料品や生活関連売場の来客数が明らかに減り、特に夕方からの客が大幅に減っている。食品は、飲食店の大半が20時までの営業時間となっているため、売上は好調に推移している。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる、巣籠り需要が落ち着いてきている。
		スーパー（社員）	単価の動き	・前年の初めから続く新型コロナウイルスの影響により、1年にわたって食品部門では多くの店舗で売上が増加してきた。増加がほぼ一巡する時期になり、これまで大きく伸びた客単価が、やや伸び悩む店舗が増えている。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言の発令や在宅勤務など、外出が制限される生活により、消費の範囲もかなり狭められている。前回の宣言時のように、在宅ワークの環境を整えるような商品購入や、在宅時間を楽しむための商材購入も、一段落したように感じる。たとえ街で人が出歩いているとしても、消費につながる部分は非常に限られる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令後、通勤客が減少し、日中の来客数がかなり減っている。また、飲食店への営業時間の短縮要請もあって、20時を過ぎると周辺に人がいなくなり、来客数が激減している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が発令され、テレワークが増えているほか、夕方から夜の来客が減少傾向にある。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあり、来客数は少し減っていると感じるが、コンビニは買物だけでなく、支払や発送などでの来店もあるため、店がガラガラになることは少ない。ただし、買物単価だけを見ると、少し下がっているように感じる。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の先がみえないなか、客の消費意欲が低下し、販売量が減少しているように感じる。
		家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の影響が出ている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で客の所得が減少しており、飲食関連では閉店する店も出てきている。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響もあって入出が少なく、買い回りを自粛している人が多い。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・今年に入って、緊急事態宣言の発出後は来客数が減り、販売量も減少している。
		乗用車販売店（営業企画）	お客様の様子	・自然な来店は皆無であり、紹介などでしのいでいる状況である。
		その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出の自粛で、必要最低限の購入しかみられない。感染第3波により、新型コロナウイルス特需はあるものの、値段を安く設定した商品しか売れないなど、デフレ傾向となっている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の再発令により、人や物の流れが停滞し、ガソリンの販売量が減少している。
		その他専門店 [スポーツ用品]（経理担当）	販売量の動き	・大阪での緊急事態宣言発令の結果、外出自粛の効果は薄いものの、消費は低迷気味である。
		その他小売 [インターネット通販]（企画担当）	お客様の様子	・2度目の緊急事態宣言の発令で、来客数が大幅に減少している。なかなかショッピングを楽しむ状況にはならない。
		その他飲食 [自動販売機（飲料）]（管理担当）	販売量の動き	・ホテル関係がどんどん休業している。
		都市型ホテル （管理担当）	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止、大阪府での緊急事態宣言の発出と、来客数が減少する要因が続き、売上が落ちたまま改善しない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・年末年始の繁忙期の営業収入は、外出自粛の影響により、前年比で60%以上の減少となっている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出による営業の時短要請で、悪化している。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言後は、屋外レジャーでも来客数にブレーキが掛かっている。
		美容室（店員）	お客様の様子	・客単価は変わらないが、客の様子は悪い印象であり、特に飲食関係では先がみえないという話が目立つ。
		住宅販売会社 （経営者）	販売量の動き	・住宅購入に関しても、雇用形態や、休業などの就業状況の影響で、住宅ローンの借入れが難しい客が増えている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介]（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・1月の来場者数は、特に緊急事態宣言後は前年比でかなり減少している。
	×	商店街（代表者）	販売量の動き	・緊急事態宣言以後、入出、売上共に半減している。
	×	一般小売店〔花〕（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の影響で、時短営業や休業となる取引先が多く、売上が大きく減少している。
	×	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出に伴い、飲食店からは2月7日まで休業するとの連絡が多い。また、稼働中の店舗からの商品発注量も減少している。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売上は3か月前よりも20%ダウンし、前年比では30%ダウンしている。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で来客数、販売数共に減っていたが、緊急事態宣言後は更に減っている。ただし、感染者数を減らすためには仕方がないという思いもある。
	×	一般小売店〔野菜〕（店長）	販売量の動き	・今年に入っても、新型コロナウイルスの影響が続いており、以前に輪を掛けて悪くなっている。当店の取引先の飲食関係からも、注文がほとんどない状態である。売上が前年の50%を下回れば、政府から20万円が支給されるという話もあるが、それでは対応しきれない。
	×	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は、年間で一番売上が増える年明け商戦であったが、福袋の減少やクリアランスセール分散化で厳しかった上に、中旬以降は緊急事態宣言の発令による来客数の減少もあり、売上目標比、前年比共に大幅なマイナスとなる見込みである。客は外出を控えるだけでなく、不要不急の買物も控えている。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・1月14日の大阪府での緊急事態宣言以降、来客数が更に減少している。当店では、1月26日までで前年比15.9%減少、都心店舗は52.7%減少であった。都心部への外出は、昨春の緊急事態宣言と同様に大きく減少している。今後も新型コロナウイルスの感染収束が見通せず、緊急事態宣言が延長されれば、消費の回復は更に難しくなると感じる。
	×	百貨店（服飾品担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令に伴い、1月は来客数が10～11月と比べて10～20%減少した。特に、年配層の来店が都心型店舗で減っている。また、来客数に売上が比例する商品では、売上が激減しており、ハンカチや靴下、冬物商材などのアイテムが数か月前と比べて売上が落ちてきている。前年は1月末にアジアの旧正月に伴う外国人客の来店も多かったため、その反動に苦しんでいる。そのなかで、知名度の高い商材の販売は好調に推移し、時計や高級ブランドなどの商材は、買う物を決めた上で来店する人が多くみられる。
	×	百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・来客数の前年比は、10月が10.0%減少、11月が12.5%減少、12月が12.7%減少で、10～12月は13.5%減少であった。今月は1月25日現在で23.2%減少と、3か月前に比べて約10ポイント以上ダウンしている。新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が再発令され、状況は悪化している。
	×	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・11月前半までは、新型コロナウイルスの感染者数もやや減少し、来客数も前年比で20%台の減少にまで持ち直していた。ただし、1月には緊急事態宣言が京都でも発令され、来客数は30～40%台の減少と悪化し、売上也減少している。
	×	百貨店（宣伝担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言後、1月14日から来客数が激減している。さらに、客のマインドも更に節約志向が強まり、価格にシビアになっており、カードのポイントアップや優待まで待つという人が増えている。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・1月7日に緊急事態宣言が出た後、20時～24時の来客数は、前週からは20%減少、前年からは60%減少している。売上については、前年比で35%減少している。
	×	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出され、飲食店の営業自粛が始まったため、売上が減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・店を開けていても、客が全く入ってこない。新しい服を着て出かける場所がなく、緊急事態宣言で外出も自粛されているため、服は必要ないと判断されている。このままでは、婦人服店は廃業する道しか残されていない。
	×	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・関東で緊急事態宣言が発出されて以降、来客数が激減した。一方、兵庫県が対象地域に指定されて以降は、大きな変化はない。
	×	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・前年末までは何とかしのいで、横ばいで推移していたが、年が明けて緊急事態宣言が発令され、街中の客足の減少に比例するように、店の来客数が激減している。
	×	家電量販店(企画担当)	来客数の動き	・年末年始商戦を終えた後の、来客数の落ち込みが激しい。新生活需要の時期にはまだ早く、クリアランスセールを行っているが、集客につなげていない。
	×	住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・通常であれば、年末に落ち着いていた問合せや新規客が、年が明ければ増え始めるが、今年はその兆候がない。
	×	住関連専門店 (店員)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、先のみえない怖さがあるのか、購買意欲の低下がよく分かる。
	×	その他専門店 [食品](経営者)	販売量の動き	・外食店との取引を中心とした食品の卸売会社であるため、大阪での緊急事態宣言が、大幅に売上を落とす要因となっている。
	×	その他小売[インターネット通販](経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言の発令で、商店の販売意欲が低下しているほか、近隣の飲食店は休業している。ますます商店街では景気の回復見込みが立たない状態である。
	×	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・年末までは予約も多かったが、年始からの時短営業や、緊急事態宣言による影響が目立ち始め、予約が激減している。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・大阪市による営業の時短要請と、緊急事態宣言によるダメージは非常に大きい。昼の外食を控えるべきといった話もあるが、座席を減らした上に、午前5時～11時までの営業では、協力金があっても経営の存続は本当に難しい。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が出て以降、商店街の人通りに変化はなかったが、近隣で新型コロナウイルスの感染者が出てからは全く人がいなくなった。夜も飲食店は8時に閉店して暗くなるため、余計に人通りが少なくなっている。
	×	一般レストラン (企画)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染第3波による緊急事態宣言の発令で、更に悪化傾向となっている。売上の前年比は、12月と比べて10%程度減少している。
	×	観光型ホテル (経営者)	それ以外	・12月のGo To Travelキャンペーンの一時停止と、1月の緊急事態宣言の発出により、ほぼ全ての予約がキャンセルとなったため、1月5日～2月7日は全面休業している。2月8日以降については、今後の状況をみて判断する予定である。
	×	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令や、Go To Travelキャンペーンの一時停止の影響で、週末のみ営業を行っている。平日は休業するなど、何とか会社を存続させるために必死である。
	×	観光型旅館(経営者)	それ以外	・外出の自粛などで、需要の最盛期であるにもかかわらず予約はガラガラで、手のつけようがない。雇用を守れるかどうか不安である。
	×	観光型旅館(団体役員)	来客数の動き	・予約状況は前年末から引き続き芳しくなく、一時休館している施設もある。緊急事態宣言が解除されていないため、このままでは一時休館する施設が増えそうである。
	×	都市型ホテル (フロント)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令により、稼働率、単価共に伸びていない。
	×	都市型ホテル (管理担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発令後は、各営業部門でキャンセルが相次ぎ、比較的好調であったレストランも急激に悪化し始めている。
	×	都市型ホテル (客室担当)	それ以外	・政府による緊急事態宣言の発令を受け、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、臨時休業を行っている。予約済の客には、近隣のグループホテルを代わりに案内している。今後の状況次第では、休業期間を延長する場合もある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	都市型ホテル (総務担当)	来客数の動き	・11月下旬から、大阪市内がGo To Travelキャンペーンの対象外となったほか、1月14日から大阪府に緊急事態宣言が発出されたことなどで、1月の宿泊稼働率は20%台で推移しているほか、宴会のキャンセルも多く発生している。さらに、レストランも20時までの営業時間短縮や休業により、売上を大きく落としている。
	×	都市型ホテル (販売促進担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、今月初旬に関東、翌週に関西に緊急事態宣言が出され、1月の宿泊稼働率は11%と、12月の17%に比べて大きく下がった。レストランのディナーは営業休止、ランチも来客数は前月比で約30%減っている。大阪市内のホテルの休館が相次いでいる影響で、多少は宿泊客が流れてきているものの、市内全体の需供を考えれば、宿泊人数はかなり減っている。
	×	旅行代理店(支店長)	販売量の動き	・2度目の緊急事態宣言が発出され、旅行需要を中心に、消費は壊滅的な状況である。3月の予約は何とか残っているものの、緊急事態宣言が延期されればキャンセルになると予想され、その他の需要ではとても販売量が追いつかない。今や時間との戦いという様相を呈している。
	×	旅行代理店(役員)	それ以外	・Go To Travelキャンペーンの一時停止、緊急事態宣言の発令により、1月の実績はほぼゼロとなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令以降、外出の自粛もあり、ホテルの来客数が極端に減っている。駅周辺ではタクシーがあふれている状況が、かなりの時間にわたって見受けられる。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍のなかで、インバウンドの回復期待はまだまだ小さい。国内需要も回転が滞っているが、景気のコト入れもない状況である。
	×	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令後は、想像以上に来場者が減少している。
	×	観光名所(経理担当)	来客数の動き	・今月初旬から来客数が減少しているが、都市部での緊急事態宣言以降、更に少なくなっている。
	×	その他レジャー施設[複合商業施設](職員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染第3波の影響が顕在化している。緊急事態宣言が出ていない地域施設でも、相対的にまだ影響は小さいものの、来客数や滞留時間、客単価などの指標は軒並み悪化している。12月に年始の需要を先取りしたため、初売りも低迷している。
	×	その他レジャー施設[イベントホール](職員)	来客数の動き	・大阪に緊急事態宣言が発令された後は、決まっていたイベントが次々に中止、延期となり、開催までこぎ着けても無観客であるなど、本来のイベントが開催できない状況が続いている。今後の開催見込みも不透明である。
	×	美容室(店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令以降、キャンセルが相次いでいる。特に年配客のキャンセルが増えている。前回の緊急事態宣言時は、様々な給付金があったが、今回は生殺しの状態である。
	×	その他住宅[住宅設備](営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が続いており、大阪では緊急事態宣言が出されたため、点検キャンセルの依頼が出てきた。飲食業界だけが救済されているイメージが大きく、その不公平感が話題となっている。
企業 動向 関連 (近畿)		*	*	*
		石油製品・石炭製品製造業(生産管理)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で自転車に乗ることが増えたのが、高級機種の部品がよく出ている。最近では米国や中国からの需要も増えている。
		金属製品製造業(経営者)	取引先の様子	・前年の秋から自動車関連を中心にV字回復しており、従来どおりの生産量に戻っている。
		金属製品製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・自動車関連の出荷は前年並みとなったが、建築、住宅関連は前年比で10%ほど減少している。
		輸送用機械器具製造業(役員)	取引先の様子	・新規搬送コンベアに対する、見積りなどの引き合いが増え、仕様書の具体性も高まっている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・一部の取引先は、新型コロナウイルスの影響で忙しいが、その他の取引先からは増産の情報がない。また、減産の要因として、部品が入ってこないという話を聞くことがある。
		化学工業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・前年の10月以降、自動車関連を中心に出荷量が前年並みに戻っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月はやや良かったが、今月は納期の短い仕事から長い仕事へのシフトが進んでいる。受注はできているが、他社の入荷状況にあわせて、生産期間を長く取っているようである。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この1年間は売上が激減したままである。引き合いは少しみられるようになったものの、受注にはつながらない状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ビジネスに不可欠な客との情報交換や交流が、驚くほど窮屈になる一方である。当社は新型コロナウイルスに有効な製品の素材をもっているが、それによって会社が潤うか、新型コロナウイルスに負けるか、ぎりぎりのせめぎ合いが続いている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・リーマンショック後よりも、製品の動きがない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注が横ばい状態である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規案件の引き合いは変わらないため、更なる営業努力が必要だと感じる。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・取引先にも好不調の差がある。特に、新型コロナウイルスによる影響が大きく、好決算の企業とそうでない企業に分かれている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・Web媒体、紙媒体共に、広告売上が前年を下回っている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・Go To Travelキャンペーンの効果で、11月～12月下旬までは売上も一旦回復したが、12月下旬から今月下旬にかけては、2回目の緊急事態宣言の発出もあって悪化した。サラリーマンの帰宅がふだんよりも早くなり、特に夕方以降の売上が激減している。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・通常商品は変わらず動いているほか、新型コロナウイルス関連の引き合いは多いが、当社では取り扱っていないため、受注にはつなげていない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言により、自粛ムードが更に強まった。他府県への出張を取りやめている状態で、取引先に訪問できていない。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の製品は家庭用と業務用がほぼ半々であるが、家庭用は前年よりも少し良く、業務用はほぼ半減となっている。業務用はいまだに徐々に減っている状況である。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、11月中旬以降は需要が急激に落ち込み、現状でも悪化したままである。当地タオルの最需要期である年末需要も盛り上がりせず、年を越しても非常に厳しい状況である。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・当社はガラスびん容器を製造、販売している。一部の地域で緊急事態宣言が発出されている影響もあり、受注量及び販売量が減少しているため、景気の動向は下向きである。
		一般機械器具製造業（設計担当）	取引先の様子	・業務量が徐々に減っているように感じる。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・例年1～2月は仕事量が少ない時期であるが、今年と同業者に聞いても、一様に少ないという反応である。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・家具の配達量は、ほぼ例年どおりである。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末年始の稼働日数の減少もあるが、新型コロナウイルス禍のなか、受注が減少している。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・政府の無策ぶりが歯がゆい。本来の日本のポテンシャルが発揮できていない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先との会話のなかで、以前よりも受注が回復しているといった話が全くない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	競争相手の様子	・他紙の販売代理店の雇用関係が、著しく悪化している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の発令で、観光や宿泊関連の広告がストップしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント	取引先の様子	・当社の取引先である駅前のお店街でも、撤退する飲食店が増えてきている。大家は家賃をどこまで下げるかが判断できず、積極的に賃貸条件を緩和しようとしていないため、空き店舗が増えている。
	×	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言後は、飲食店の休業や時短営業が増え、飲料水の動きがかなり鈍い。
	×	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言後、催事の延期や来客数の減少で受注が減少している。
	×	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注量や販売量の動き	・減少していた受注量が、緊急事態宣言の発令で更に減少している。
	×	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・2回目の緊急事態宣言の発令以降、飲食店が閉まっており、アパレルなどでの時短営業も進んでいるため、家賃の値下げ依頼がきている。その結果として賃料の低下が進み、景気も悪くなる。
	×	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・企業を対象に人材の育成や販売戦略の立案を行っているが、非常に悪く、先行きも見通せない。将来に備えた戦略の立案や、人材の育成に必死に取り組んでいるものの、受注はほとんどない。ごく少量の受注に全力投球しているが、忙しい頃と比べると受注は1割にも満たない。
	×	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・歳末商戦では、年末年始を家で過ごす動きが確定してから、自宅で使うグッズの購入が増えている。特に実用品を中心に、年末に向けて販売が増えていたが、緊急事態宣言の発令とともに消費マインドが冷え、販売が落ち込む傾向となっている。
	×	その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	取引先の様子	・取引先各社の予算について、削減方向にあることが明確になりつつある。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染収束の兆しが見えないため、状況は不透明である。
雇用関連		-	-	-
(近畿)		人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・年度末の駆け込み需要が多く、一時的に受注が増えている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルス関連の求人増に加え、通常の派遣求人も少し戻りつつある。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人数については、11～12月には回復傾向がみられたものの、1月に入って3か月前の水準に逆戻りした感がある。新型コロナウイルス感染者数の増加についての過熱報道や、緊急事態宣言の影響が出ている。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・2度目の緊急事態宣言の発令で、休業補償や派遣契約の終了などに追われると予想したが、その影響は少ない。休業補償の話も1度目は全く対応が異なり、通常出勤となる会社も多く、補償が発生する件数が減っている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言は発出されたものの、前回ほどの規制ではないため、一部業界を除いて景気にはそれほど影響が出ていないように感じる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人倍率が9～12月は2倍台となった。新型コロナウイルスによる先行き不安から、求職登録が減り、新規求人数も伸び悩んでいる。全体としては、新規求職者が減っているため、求人倍率が上がっている状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の近畿の有効求人倍率は1.01倍と、前月比で0.02ポイント低下し、全国の10ブロック中で9番目の水準に下落した。都市部での感染拡大で飲食業への影響が大きく、新規求人数では宿泊・飲食サービスの減少幅が34.3%減となっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・新卒採用市場では、21年卒採用については新型コロナウイルスの影響で採用減少の傾向があったが、22年卒採用は減少傾向ではあるものの、3か月前との比較では変わらない。むしろ、22年卒採用を見越した冬のインターンシップは増加傾向で、オンラインセミナー形式での実施も多い。企業側は、オンラインありきで動いていると感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・来月からの確定申告など、年度末を迎えるにもかかわらず、派遣業界は全く忙しくない。新型コロナウイルスの影響がいろいろな分野に広がっている。3月末の派遣契約の見直しが出てくる時期となっているが、各企業は慎重であり、直前まで検討した上で結論を出す予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・大阪の中心部の商店街などでも、飲食店に限らず、閉店の動きが増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の推移をみると、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出を受けて、関西企業からの引き合いや出稿が鈍くなっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・Go To Travelキャンペーンの一時停止と緊急事態宣言の発令により、景気はかなり落ち込んでいる。緊急事態宣言の対象県ではないが、影響はかなり受けている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の新規求人数は前年比で19.3%減少と、大幅な悪化となった。2けたの減少率は前年の2月以降、11か月連続であり、減少自体は2年前の11月から14か月連続となっている。この減少傾向は、新型コロナウイルスの感染収束が見通せないことが主因である。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・企業の業績発表では上方修正もみられるが、前回の緊急事態宣言時に比べると、通勤での鉄道利用者が余り減少していない。結果として期限が延長され、経済活動が更に悪化することが懸念される。
	x	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、デジタル対応で追い風が吹いている企業を除き、ほぼ全業種で求人数は激減している。特に飲食や旅行、宿泊関連の減少は著しい。新型コロナウイルスの感染者数はやや減少傾向がみられるものの、依然高止まりしている。今後は緊急事態宣言が解除されるか、その見通しが立つまでは回復しない。
	x	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・22年卒の就職活動が始まりつつあるが、企業の動向としては、早く決めてしまおうとする傾向がみられるため、採用活動も早めに終了しそうである。

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)		-	-	-
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス慣れをしたのか、客の動きが元に戻っている。
		スーパー（営業システム担当）	販売量の動き	・節分の恵方巻の予約が好調で、低価格帯ばかりでなく、高価格帯の予約も多くなっている。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染拡大によるGo To Travelキャンペーンの一時停止や一部地域の緊急事態宣言発令で、客単価が上昇し、既存店売上も増加している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・1月の販売台数は前年比120%と徐々に良くなっている。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年の9割程度まで回復している。特にサービスの来客数が平日、休日共に増加している。時間帯別では夕方からの来客数が多く、店舗がにぎやかになっている。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言及びGo To Travelキャンペーン停止の影響で、年末以降、客の状況は大きく一変し、宿泊やレストランで多数のキャンセルが発生し、新規の予約受注も滞っている。レストランは余儀なく営業縮小することになり、夜の単価を取れる時間帯がかなり苦戦している。また、周辺の商業施設等も閑散としている。
		住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・戸建ての販売数が伸びてきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街への来客数は相変わらず少ない。客の入店を制限しているため、売上に影響が出始めている。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・帰省の自粛の影響で、盆や年末商戦は大幅な落ち込みとなった。ただ、食品スーパーとして巣籠り需要の影響は甚大で、昨年3月以降、来客数や客単価は堅調に推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大や大雪の影響で売上は低調である。特にGo To Travelキャンペーンの一時停止の影響で観光部門は大変厳しい状況になっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・12月にクリアランスセールを前倒したこともあり、商材が不足し、客の動きも悪い。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・高額の宝石や美術品は売れているが、売上全体は変わらない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前から来客数は前年比95%くらいで推移している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客の来店頻度が減り、特定の曜日に集中する傾向がある。また、時間帯別では、客が午前中に集中し、夕方以降の来客数が伸び悩む傾向がある。新型コロナウイルス禍で必要な商品の在庫が半年前と比べ潤沢にあり、まとめ買いがなくなってきている。食料品は横ばいであるが、衣料品の不振は続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが1年以上続いているが、新型コロナウイルスの影響で、客の買上点数が増加し、買上単価も上昇しているため、売上は前年を上回っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べ、来客数はほとんど変化がないが、売上は若干増加している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・売上は3か月前とほぼ変わらず、前年と比べ、約1割の減少となっている。感染拡大地域への緊急事態宣言の発令やGo To Travelキャンペーンの一時停止もあり、来客数は前月より5%落ち込んでいるが、客単価が5%上昇したため、売上は前月から変化していない。客が来店回数を減らし、買物に来たときに買いだめする傾向が出ている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	来客数、売上共に前年並みである。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・来客数は減少しているものの、販売量が伸びているため、売上は比較的好調である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で客の動きが鈍くなってきている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・1店当たりのパンの販売数量が前年と比べ減少している。
		家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・来客数は変化していないが、買上点数が減少し、買上単価が低下している。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍ではあるが、来客数は増加している。ただ、客からは景気が悪いという声を聞くため、景気は良くはなっていない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響をさほど受けていない。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・初売り等のフェアを実施しているが、来客数は前年を上回っていない。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・月の前半は良かったが、後半はさっぱりである。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・不要不急が徹底されているのか厳しい状況が続いている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・3か月前から傾向は変わらず、雑貨、インテリア等住居関連は比較的順調だが、飲食関連が厳しい。Go Toキャンペーン開始以降、Go Toキャンペーン食事券の利用率は高くなっているが、飲食の底上げには至らず、館全体の状況は3か月前と変わらない。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、旅行募集も中止となり、なかなかいい方向に向かわない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・新年会もなく、夜も静かで、売上も3～4割くらい減少している。
		通信会社（経理担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、リモート等が増え、インターネットの申込みがあるため、景気は変わらない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が続き、全体的に低調な状態で推移している。
		放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・料金の延滞が減少し、延滞金の1か月以内の回収率も上昇している。単月で見れば前月より好転はしているが、年末ボーナス時期の影響もある。
		ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発令されて以降、コンペの予約キャンセルが増加し、予約状況が低迷している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・売上にはほとんど変化がない。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍の自粛ムードで引き合いが減少している。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・住宅設計を始めとして、客からの問合せが減っている。特にリフォームは、客が新型コロナウイルスの影響で家の中に入ってほしくないことや、先行きが見通せない状況で融資を受けることに対して不安を持っていることから、厳しくなっている。
		商店街（理事）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で客が外出しなくなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・1月に入り、一気に客の来店回数が減ったため、来客数や販売額が減少している。
		商店街（代表者）	単価の動き	・客が来ても、購入を迷って結局は買わないという厳しい状況が続いている。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・今月に入り売上がかなり減少している。寒波が来たためでもあるが、商店街の人通りがめっきり少なくなっている。Go Toキャンペーン関係の商店街の活動も自粛している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が地方でも大きく出ている。年明けより県内や隣県で新型コロナウイルスの感染者数が増加し、ミセスやシルバー層の来客数が減少している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・約1年続く新型コロナウイルスの影響で、来客数が少なく、商品手配も例年より少なくなっている。また、来店しても購買につながらないケースが散見される。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの大型クラスターが発生し、客の不要不急の外出に対する意識が一段と高まっている。百貨店の主要客には高齢者が多く、婦人服を中心に厳しい状況が加速している。
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスによる外出自粛やセレモニー、成人式等の中止もあり、衣料品の売上減少が止まらない。また、年末年始の雪や新型コロナウイルスの影響もあり、初売り時の来客数が大幅に減少するなど悪循環が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で、1回当たりの買上点数は増加傾向だが、客の来店回数が減少し、来客数が減少したため、売上が落ち込んでいる。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響も鑑み、今年は年始の休みを1日増やしたが、来客数は前年比128%、売上は前年比122%と、比較的順調に推移している。ただ、衣料品を中心に来客数の伸びは鈍化してきている。
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス禍で来客数が前年を下回り、売上も厳しい状況になっている。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で夕方、夜間、週末の来客数が明らかに減少している。
		コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止、飲食店の時短、外出機会の減少などにより、来客数が大きな影響を受けている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、お茶関係の行事やいろいろな催物が中止になり、客が着物を着る機会がなくなっている。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・客が必要最小限の物しか買わなくなっており、ついでに物を買う動きがほとんどない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・客単価の上昇で、売上は前年並みを維持しているが、来客数は前年を下回っている。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・寒かったことで暖房器具が売れているが、来客数は前年の9割程度で、売上も減少している。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・来店を自粛する客が明らかに増えている。会社としても感染予防を徹底しているため、閉塞感がより強くなっている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、自粛ムードが出始め、一般消費者が買い渋りしている。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で景気はやや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔土産物〕（経営者）	来客数の動き	・Go Toキャンペーンの一時停止で来客数が落ち込み、売上も悪化している。以前は飲食店関係の野菜や魚の仕入れが多かったが、それもかなり減っている。
		その他専門店 〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で全ての動きが鈍い。
		一般レストラン （経営者）	お客様の様子	・年末年始の天候不順と新型コロナウイルスに端を発し、悪い流れが続いている。特にディナータイムの落ち込みはひどく、来客数の確保に苦労している。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・年始の1～3日までは来客数が帰省や外出の自粛等で大幅に減少し、売上は前年の50%台となり、今月の売上に影響を与えている。4日以降は職場関係の新年会の飲み会での利用がないものの、一般客の利用はさほど落ち込んでいない。4日以降のランチタイムの売上は前年比110%、ディナータイムの売上は夜9時以降のアルコールを伴う利用が激減し、前年比70%となっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が徐々に増加しており、特に夜の乗車率がかなり悪くなっている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が発令されて以降、その対象地域外であっても、人の往来が減り、動きが鈍くなっている。商品の問合せや引き合いは鈍い。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で客の購入が減少している。
		テーマパーク （業務担当）	来客数の動き	・イルミネーションイベントが終了し、閑散期であることに加え、来園者の多い市が新型コロナウイルス感染拡大防止対策で外出自粛を要請中であることから、来園者がより少なくなっている。
		テーマパーク （管理担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で景気は悪くなっている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・来店予約がキャンセルになったり、日延べしても次の予定が定まらない状況である。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・前年末からの新型コロナウイルスの感染者数の増加に加え、首都圏の緊急事態宣言もあり、来客数が減少している。
		住宅販売会社 （営業所長）	来客数の動き	・緊急事態宣言中で来客数が減少しており、契約も減少傾向にある。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で景気は悪くなっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が増加し、景気は飲食店を中心にかなり悪くなってきている。
	×	一般小売店〔眼鏡〕 （経営者）	来客数の動き	・とにかく人が動かなくなっていて、客が実店舗での物品購入回数をできる限り減らそうとしている。
	×	一般小売店〔洋裁附属品〕 （経営者）	来客数の動き	・最近寒くなっているため人出がほとんどない。
	×	百貨店（外商担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発令されて以降、高齢者を中心に来客数が減少している。限られた富裕層の購入は大きくは落ち込んでいないが、全体をカバーするには至っていない。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、店の前の道路の車の通行量が減少し、来客数も3割程度減少している。
	×	衣料品専門店 （代表）	来客数の動き	・年末に飲食店への時短要請が出された頃から来客数が激減し、時短要請期間の延長に伴い自粛モードも継続している。
	×	その他小売 〔ショッピングセンター〕 （管理担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数の増加に伴い、来客数が急激に落ち込んでいる。自粛要請などによる店舗の営業時間の変更もあり、通常の来店を促すことができないようになってきている。客も危機感を高めており、余分な買物をしなくなっている。
	×	高級レストラン （事業戦略担当）	販売量の動き	・Go Toキャンペーンの一時停止以降、需要がなくなっている。
	×	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・人の動きが極端に悪くなっていて客が来ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・10～11月はGo Toキャンペーン関連でやや上向いていたが、年末より続いている時短営業の影響が非常に大きく、来客数は前年の4割程度となっている。これから忙しくなるというタイミングでラストオーダーになるので、夜の営業は実質ほとんどない状態である。また、リモートワークが増加しているため、ランチ営業も前年の8割程度と昼夜共に厳しい状況である。
	×	スナック(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、飲食業界は最悪の状態となっている。先日、飲食関係組合合同で、市長に給付金等の陳情に行っており、今後、知事にも事業復興対策について合同で申入れする予定である。
	×	その他飲食 [サービスエリア内レストラン] (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で景気は悪くなっている。
	×	観光型ホテル (副支配人)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止による宿泊のキャンセルと新規予約の減少で、施設の利用者が激減している。また、一般の利用者も外出の制限により減少している。
	×	観光型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止で、予約が全くなくなってきている。
	×	都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響が大きく、来客数が大幅に落ち込んでいる。レストランも多くの店舗で休業をしているので悪循環が続いている。
	×	都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令やGo To Travelキャンペーンの一時停止に伴い、ビジネス客や観光客のキャンセルが続出し、稼働率が低下している。
	×	旅行代理店(支店長)	販売量の動き	・緊急事態宣言の発令やGo To Travelキャンペーンの一時停止を受け、旅行需要は停滞しており、旅行事業での収益がない状況である。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの拡大で、都市部を対象に緊急事態宣言が発令され、人々の移動が抑えられたため、売上が上がる要素が全くない。地元においても感染者数が徐々に増加しており、街中の人出もなくなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、夕方まではまずまずであるが、夜が厳しい状況である。
	×	通信会社(広報担当)	お客様の様子	・少しずつ客の資金に余裕がなくなっている。
	×	観光名所(館長)	来客数の動き	・大都市を対象とする緊急事態宣言の発令を受け、観光客の動きが止まっている。
	×	美容室(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数の増加や緊急事態宣言の再発令の影響で、イベントや成人式が中止となり、打撃を受けている。
	×	美容室(経営者)	お客様の様子	・客が無駄な外出を控え、身だしなみを気にする機会が減少しているため、来店間隔が長くなっている。
企業 動向 関連 (中国)		*	*	*
		繊維工業(監査担当)	受注量や販売量の動き	・前年4～6月に中止されていた行事が、ここに来て再開され、関連商品の受注が活発になり、ほぼ全国で前売りの売上は前期実績を上回っている。
		窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向け受注、海外からの受注が回復し、生産量も新型コロナウイルス発生以前の水準に近づいている。
		鉄鋼業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注は明らかに回復傾向にあり、景気は良くなってきている。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・年末年始に帰省できない子供に対して実家から食材などの荷物を送る個人市場が想定以上に拡大している。
		不動産業(総務担当)	それ以外	・賃貸物件の需要時期でもあるため、来客数は増加している。
		会計事務所(経営者)	受注量や販売量の動き	・対面型セミナーやコンサルティング業務の受注が回復傾向にある。ウィズコロナが浸透しつつある。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・家庭向けの需要は順調に推移しているが、業務用や土産関係は減少しており、全体では前年と変わらない。
		食料品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・生産量はほとんど変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・11都府県に新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発令されているが、全体として変化を余り感じない。前年4月頃と比べると、緊急事態宣言下でもイベント等の縮小もなく、経済を回す方を優先しており、危機意識への温度差を感じる。
		鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・年末年始にかけて、荷動きが活発になっておらず、客の動きも特に上向きになっていない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・電子、電池材料関係の受注が堅調である。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・主要客からの受注量は微減の状況である。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・予定案件を淡々とこなしており、1年先までは通常の完工をたたける。この期間でのこれ以上の受注は技術職員のやり繰りもあり困難である。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・客の受注量に大きな変化はない。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、地元完成車メーカーの世界販売が低迷し、生産の前年割れが続いている。このため、地元部品メーカーの受注は伸び悩み、多くは黒字確保ができていないが、一部の二次メーカーでは赤字すれすれとなっている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で受注量や販売量の減少が続いている。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・8～12月まで景気は回復基調にあったが、1月に入り、新型コロナウイルスが拡大したことで、景気はやや悪くなっている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工作機械業界からの受注が減少し、週2日を休業としているが、それでも余剰工数が発生するため、休業日をもう1日増やしている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で既存の受注案件以降の新規案件が減少している。また、緊急事態宣言もあり、営業活動が困難になっている。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・前年からの予定案件がまた先延ばしになっている。
		輸送業（総務・人事担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の発令で受注に影響が出ている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・1月の受注量は例年と比べ20%程度減少している。
	×	農林水産業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスによる自粛のため、料理屋が機能しておらず、高価なものが動かない。量販店も動きが余り良くなく、下火になってきている。
	×	輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず新規商談の動きは鈍く、手持ち工事量の上積みは少なく、受注残の減少が続く。
	×	通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの急激な感染拡大で、取引先と商談する機会が激減、外出や出張が原則禁止され、一気に不況に陥っている。
	×	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の発令で物の動きが鈍くなっており、売上が影響を受け始めている。
雇用 関連 (中国)		-	-	-
		人材派遣会社（経営戦略担当）	採用者数の動き	・製造業を中心に採用者数が回復してきている。
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・3か月前と比べて、求職に動きが出てきている。若年層が転職などを控えている一方で、今までよりも高い年齢層からの応募が増加傾向にある。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	周辺企業の様子	・新卒者の採用に積極的な企業が若干増加傾向にある。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新規求人数は前年から26.3%の減少、有効求人数も前年から21.5%の減少と、いずれも大幅な減少となっており、新型コロナウイルスの影響による厳しい雇用情勢が続いている。直近3か月の新規求人数は前年から21.6%の減少、産業別でも建設業など一部の業種を除いて減少している。12月の有効求人倍率は1.59倍、12月末時点の新規学卒対象の求人状況は、高卒で件数が前年から15.6%の減少、求人数が前年から25.6%の減少となり、大卒等で件数が前年から23.9%の減少、求人数が前年から25.1%の減少となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・企業の採用意欲は戻ってきているが、選考は厳しく、時間を要している。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響が大きく、求人数は低水準で推移している。春に向けた求人が一時的に増加しているが、実際、人材不足感はそれ程でもなく、企業は新型コロナウイルス禍で優秀な人材を獲得することを期待している。
		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの再拡大で飲食関係が壊滅的な状況になっている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・緊急事態宣言の発令で先行き不透明感がまん延し、求人活動の見送りや様子見をする企業が増加している。参加を予定していた新卒学生向けの合同説明会をキャンセルする企業も出てきている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	周辺企業の様子	・新卒採用を数名から若干名に減らす企業が出てきている。中途採用もその企業に必要な資格を取得しており、かつ3年以上の経験者なら採用するなど厳しくなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・有効求人倍率は全国でもトップレベルであるが、低下傾向が続き、業種によって二極化が進展している。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数は、卸売業や小売業が前年から6割減少したこともあり、全体でも前年から2割減少している。
		職業安定所（雇用関連担当）	周辺企業の様子	・人員整理が前年の2倍になっており、求人数も前年を下回っている。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	周辺企業の様子	・ショッピングモールに入っているテナントの撤退が目立っている。
		その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響で、宴会等の自粛が続いているため、飲食業が厳しい状況になっている。
	×	人材派遣会社（支社長）	求職者数の動き	・前年の7割前後で推移していた求職者数が12月は前年の5割程度にまで落ち込んでいる。求人数は底打ち感があるが、8万人近くいるといわれる新型コロナウイルス失業もあいまって、有期という働き方が敬遠されている。

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)		スーパー（店長）	単価の動き	・巣籠り需要があり、1人当たりの買上単価が上昇している。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・休日にコミックや文芸書をまとめ買いする客が増えた。
		スーパー（財務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発令で、外食から内食への需要の転換が再度加速しており、内食用の商品の売上が増加している。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・エアコンや空気清浄機等の空調関連商品は依然として好調に推移しており、全体的に来客数も戻ってきている。
		競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、経済全体では悪化傾向にあるものの、景況感の良しあしは業界により分かれている。旅行業界や外食産業、レジャー産業等が自粛、時短営業等で打撃を受けている反面、競艇業においてはこれらの反動でネットや電話投票等の購入が増加している。また、イベント等が中止されたことにより経費が削減され、増益傾向にある。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、内食需要は依然として高い状態であり、まとめ買い等による買上数量の増加が売上高増加に貢献している。一方、来客数については前年の後半以降に低下傾向に推移している。
		コンビニ（商品担当）	お客様の様子	・前回の感染拡大時のような買占めは起きておらず、マスクやトイレトペーパーなどの衛生用品も通常の売行きである。しかし、レジ袋の有料化が新型コロナウイルスの影響かは定かではないが、客単価は低い状態である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数がかなり減少している。今後、景気は良くなっていくと思うが、もう少しこの厳しい状況が続くかもしれないと考えている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・単身者向け商品の需要が見受けられ始めたが、例年より少なく全体の底上げになっていない状況である。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・売上が少し減少しかけていたが、新春イベントの実施により、好調であった3か月ほど前の水準の売上高は確保できた。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みをカバーしてきた販売量が前年並みに落ち着いてきた。
		旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、Go To Travelキャンペーンが一時停止しており、客の来店が全くなっている。また、ネットでの予約もほとんどない状況である。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・年明け以降、緊急事態宣言の再発令に伴い、当地域でも週を追うごとに通行量が減少している。また、月末には株価が大幅な下落に転じており、年末年始の好調な消費の下支えとなっていた富裕層の高級品購買に黄信号がともることになった。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・年明けから売上が30%程度減少し、一向に回復の兆しがない。
		百貨店（販売促進）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発令により、外出自粛が顕著にみられる。
		百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・12月は来客数が前年比78%と回復基調であったが、1月に入り前年比63%と減少傾向にある。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・県から自粛要請が出て以降、来客数が減少しており、特に18時以降は激減している。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数の前年割れが拡大している。新型コロナウイルス禍による緊急事態宣言の再発令や、県内の状況が悪化したことが来客数に影響を及ぼしている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・12月頃までは、経営状況が悪いなりにもそれなりの水準で推移していたが、緊急事態宣言の再発令以降は、急速に落ち込み、今までとは全く違った動きとなってきたことから、少し厳しい状態である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注状況は前年並みで推移しているが、新型コロナウイルスの感染再拡大で先行きは不透明である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・客の店舗での滞在時間はかなり短く、すぐ店を出る傾向にある。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当地域では自治体による時短要請は終了したが、客足は戻っていない状況である。ワクチン等の有効な手段が一般化しない限り、客足は遠のくばかりだと思ふ。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べると、客の乗車率は70%下落している。12月以降、県による新型コロナウイルス感染拡大に対する警戒レベルは下がったが、同時に外出や移動の自粛、飲食店等への時短要請もあった。現在は、いつも飲みに出てきている人しか客がいない状況である。
		通信会社（営業部長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発令以降、来客数が前年度の7～8割程度に減少している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店のサイクルが伸びている。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・年始早々に緊急事態宣言が地域限定で再発令され、一段と来街者数が減少した。当地域は対象ではなかったが、その後に自治体による時短営業の協力要請が発表され、その要請を受け入れて営業をしているため、更に客の利用状況が悪化している。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・新型コロナウイルスの終息状況はもちろんだが、駅前核店舗の再生にめどが立っていない上、県市行政の街づくりにおける構想や方向性が時代に全く合っていないため、かなりの年月で空白の時代が続くと考えている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第3波や国の緊急事態宣言の影響もあり、特に夕方以降、人出が全くなく、第1波の5月頃のような大変ひどい状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・スナックや居酒屋は休むと協力金が支給されるため休業している店舗が多いが、花屋や魚屋、酒屋などには1円も支給されない。人通りもなく、売上や保証もない状態で、どこかの店が閉店してもおかしくない最悪の状況である。新型コロナウイルスの感染者が確認された店には保証があり、真面目に働いている人には保証がない現在の政策に怒りを覚える。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・政府の緊急事態宣言再発令以降、来客数が激減している。近隣でクラスターが発生したこともあり、本当にひどい状況である。
	×	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上高は前年比60%程度で推移している。全国的な感染拡大と都市部での緊急事態宣言により、大幅に客足が鈍化しており非常に厳しい状況である。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、外出自粛の傾向が更に強くなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・恐れていた第3波が現実となったことに加え、今回は飲食店が規制のターゲットとなったことにより、来客数が激減した。1度目の緊急事態宣言発令時より売上が落ち込むおそれがある。
	×	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーン事業の一時停止や緊急事態宣言により、ほぼ休業状態である。
	×	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止の影響で、宿泊客数が大幅に減少した。これに加え、自治体による飲食店への時短要請により、全く客が動かないという状態が続いている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、客がかなり減少している。特に夜は飲みに出る人が減っているため、稼ぎ時である22時以降の運賃2割増しの時間帯も全く客がおらず、当社では出勤日数を月20日から14日に減少させている。昼間に通院を控える傾向もみられるため、全体的に厳しい状況である。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年1～2月は余り客が動かないが、新型コロナウイルスの影響で更に悪化している。
企業動向関連 (四国)		通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・都市部のスポンサーを中心に全体としてのCMの投下量は増加している。緊急事態宣言の影響が不安視されたが、業種によって増減がある。当地域を拠点とするスポンサーの広告料は減少している。
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが、受注量が上向きに推移している。大手ハウスメーカーの契約棟数も回復傾向にあるので、今後に期待している。
		電気機械器具製造業（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス禍のなか、再生可能エネルギーや環境関連については仕事の受注に関する話が非常に多くなった。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・前月同様、新型コロナウイルスのワクチンを保管する保冷庫の需要が大きく伸びており、一過性の特需に近いものであるが、一部の事業者で受注量や販売量が改善している。
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・一部の客は新型コロナウイルスの影響を受けて出荷数量の減少が続いているが、全体的には回復傾向にあり、特に海運関係の客は前年同時期の出荷数量を上回っている。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、受注量、販売量共に悪い状態が続いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業関連の仕事が繁忙期に入り、業務の進捗とともに、売上が上がっていくという例年どおりの構図が今年度も継続している。加えて、納期の平準化や仕事量自体の増加により、当業界では景況感が良い状態が続いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き官民とも受注ができない状況である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の状況が最低であるため、これより下がることはない。
		税理士事務所	取引先の様子	・取引先の売上などの状況を考慮しても、最近は特に変動がみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現段階ではほぼ前年並みの売上が確保できているが、今月初旬の緊急事態宣言の再発令以降、状況が厳しくなっている。これまで前年以上の受注があった地方の小売店でも、注文が急減したところも多い。一方、当社のオンラインサイトでの売上加え、ネット販売に重点を置き始めた小売店からの受注は好調で、何とか前年並みの業績を維持している。当社は都市部でも小売店を運営しているが、平日は人通りがなく、売上も日販で数千円のこともある。今後、経営を継続するかどうかの検討も含め、各事業の見直しを必要があると考えている。
		化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・前年の秋頃から受注量は増加傾向にあったが、年末頃から状況が悪化してきた。新型コロナウイルスの影響も大きく、先行きは不透明である。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・11～1月の間においては、新型コロナウイルスの第3波の到来と緊急事態宣言再発令の影響を受け、消費者の行動や移動の自粛が再び強化されたことが、取扱物量の減少に直結した。例外であったのは、取扱物量が低迷するなか12月後半に物量が前年並みで推移したことであり、これは東日本を中心に猛威を振るった寒波による物流麻痺と、年末年始の帰省を控えた巣籠り需要の増加が影響したのではないかと考えている。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの第3波の影響により、飲食業や宿泊業を中心に打撃を受けている。
	×	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の価格は、例年の70～80%程度で推移している。特に、業務需要は緊急事態宣言の再発令もあり厳しい状況である。例年なら恵方巻の需要で値上がりするきゅうりも、月末にやっと価格が上昇したものの勢いはなく、5キロ当たり500～800円程度の安値となっている。
	×	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあって、海外工場の時短勤務や海外での商談が長引く等の影響が見受けられる。
雇用関連		-	-	-
(四国)		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ景気が戻ってきていない。観光業や飲食業はもちろん、それに付随したその他の産業も厳しい状況である。
		民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人の動きに余り変化がなく、景気が上向いているとはいえない状況である。特にホテルを中心とした宿泊業や観光業と、美容業の求人については、例年と比較して激減したままである。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今後の求人状況がどうなるか不透明であり、現在の大学3年生が就職活動をする際の情勢を危惧している。
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・派遣スタッフの採用を必要最低限に抑える傾向がみられる。
		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染拡大防止による飲食業への時短要請に伴い、店舗を取り巻く卸業者や夜間の公共交通機関等が大きな影響を受けている。協力金支給により営業機会を見極めている店舗は良いが、店舗の規模によっては廃業や職員の解雇の決断を余儀なくされるという現実がある。先行き不透明で景気回復はまだ見込めない状況である。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・一部派遣の需要は回復しつつあるが、サービス業関係の需要が全くない状況である。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・以前は求人数の多い業種もあったが、ここ数か月で業種を問わず求人数が減少している。
		職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響が様々な産業に出ており、事業所閉鎖や事業縮小等による人員整理を実施する事業所の発生が、4月以降継続している。1月になって、緊急事態宣言が再発令され、都市部から当地域への人の移動が激減することによる影響が、緊急事態宣言解除まで続くと思われる。
	×	-	-	-

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
----	---------	-------	-------	----------------

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		-	-	-
		一般小売店〔生花〕(経営者)	販売量の動き	・例年1月の花の売上は落ち込むが、当店では開店祝いの進物用需要が多く、悪くはない状況である。
		スーパー(経理担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルス慣れしていた3か月前よりも、多少消費行動に変化がある。現在緊急事態宣言が発出され、前回の緊急事態宣言時よりも事態は大幅に悪化しているが、買い占めや買いだめによる影響は大きくない。
		家電量販店(店員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍であるが、家電の売上は落ちず、むしろ前年と比較しても若干上昇している。
		家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響により、空気清浄器関連や映像商品が売上をけん引し、寒波の到来で暖房商品も順調に推移している。血中酸素濃度計等の新しい需要も生まれている。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・光回線の提供エリア拡大により、販売量が増えている。
		住宅販売会社(従業員)	単価の動き	・マンション分譲で、前年暮れに当市近郊2か所で分譲を開始したが、販売が計画以上に好調で推移していることから、3か月前と比較すると良くなっている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・初売りでは、3密防止のため集客抑制を行ったことで、開店前の行列がなく、例年にはない初商いとなった。上旬は周辺商店街や当店への来客数は回復せず、購買来客数が落ち込んだ。中旬以降も新型コロナウイルスの警戒で高齢者を中心に集客力が低下し、来客数減少や滞留時間短縮が続いている。催事の季節イベントであるバレンタインも午前中に集中し、全店で午後の買物客減少傾向が一段と強まっている。一方、店頭での自家需要商品の紳士・婦人衣料雑貨や寝具、家電製品、また、し好性の高い舶来雑貨や時計、美術工芸品等は堅調である。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染対策としての生活スタイルは、家中中心が続いており、これにより、食を中心とした消費上昇で食品関連も好調に推移している。一方、旅行や出張等の外出減少により、アパレルを中心とした関連消費の減少が拡大している。
		スーパー(総務担当)	単価の動き	・新型コロナウイルス禍の新しい生活様式がある程度根付いているなかで、2度目の緊急事態宣言が発出され、消費者は買物の回数を減らしたり、1回当たりの購入額を増やす傾向が依然として続いている。
		コンビニ(エリア担当・店長)	単価の動き	・夜8時以降は、外食できないこともあり、弁当やおにぎり、サンドイッチ等の食料を購入する客が増加しているが、一方、早朝の出勤前の客が減少している。全体的には前年と変わらない来客数と売上に落ち着いている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染防止のために、不要不急の外出を控え、来街者、来店客共にほとんどいない。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・家電業界は、引き続き新型コロナウイルス特需で好調を維持している。
		家電量販店(広報・IR担当)	販売量の動き	・テレビや冷蔵庫、洗濯機等の主要商品が好調で、特に、新型コロナウイルスの影響で調理家電や暖房器具等は、巣籠り需要により好調に推移している。加えて、パソコン需要は、前年のOSサポート終了による駆け込み需要もあり、落ち込んでいるものの、プリンター等のパソコン関連商品は、テレワーク需要もあり好調に推移している。
		乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・新車販売台数が順調に伸びている。メーカーの新型車攻勢が寄与している。
		住関連専門店(経営者)	それ以外	・巣籠り需要も一段落し、都市部でのキャンペーンは外出自粛により厳しくなっている。
	その他専門店〔コーヒー豆〕(経営者)	お客様の様子	・前月との比較では、来客数は若干少なくなっているが、巣籠り需要の影響で、コーヒーの消費量が増加し、客の購入単価が上昇している。	
	その他専門店〔書籍〕(副店長)	販売量の動き	・12月以前は若干上向き傾向だったが、悪天候と緊急事態宣言により客足が鈍り、3か月前と同じ状況である。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕(統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格はやや上げの状況である。年始からの来客数及び1月連休時の来客数共に前年並みであり、販売数量は若干減少しているが、1月全体では前年並みを予想している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・客が増加しても、どこで新型コロナウイルスに感染するかが分からないため不安である。
		設計事務所（所長）	それ以外	・3か月前から悪くなっており、上向きの要素がなく、変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売は、ほぼ横ばい状態である。今後もグリーン住宅ポイントと住宅ローン減税の延長で現在の状況は続く。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・前月は、来客数及び売上共に前年度並みまで回復する兆しが見えていたが、今月に入り緊急事態宣言が発出したことで状況が一変している。特に、高齢者が多い地方の商店街では、近隣で新型コロナウイルス感染の情報が報道されると、外出を家族から止められ生鮮食料品以外の購入には関心がなくなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスのまん延で、客は外出を自粛し、来街者数や来客数が減少し、売上も落ち込んでいる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街では、飲食店への納品が多いため、当地でも時短営業の要請が出たことで納品が大幅に減少し、また、一般の客も近隣のスーパーマーケットやコンビニエンスストアで買物を済ませるために、最悪な状態が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で、通行量も前年比70%前後になり、また、来客数は前年比50%ほどに減少しており、客が本当に少ない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者は、今月に入り更に増え、売上は減少し続けており、商店街を歩く人の姿も日々減少している。自宅用のお茶の購入はみられるが、贈答用の注文はほとんどない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響が強く、来店者も減少し、飲食テナントは壊滅状態である。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・2020年10月は、前年が消費税上げの反動で落ち込んでいたこともあり、前年を上回る実績であった。それとの比較では、2021年1月は2回目の緊急事態宣言発出の影響もあり、客足が大きく鈍り苦戦している。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・全国的に緊急事態宣言の発出を受け、客は基本的に外出を控えており買物に慎重である。この状況が、更に継続していくことが考えられる。
		スーパー（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる社会影響が大きい
		スーパー（統括者）	来客数の動き	・既存の来店客の買上点数増加による客単価増は続いており、年末年始の繁忙期に強みも目立つ営業実績であった。今後は、新しい客の取り込みが課題である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、来客数が大幅に減少している。客単価は、前年より100円以上アップし、売上も前年の伸びを確保している。ただ、天候等で来客数が下がった場合は、売上大幅減の原因になっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出により、20時以降の集客が減少している。ただ、17～19時の帰宅時需要は増加している。
		乗用車販売店（従業員）	それ以外	・販売促進イベントが、中止になっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・商品の単価も上がり、来客数も減少している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・前回の緊急事態宣言以降、徐々に売上も回復し、10～12月は、Go To Travelキャンペーンと人気漫画の映画効果で前年実績を超過する水準まで回復していたが、12月末のGo To Travelキャンペーン停止と東京感染者1300人超の報道から一気に状況が悪化している。1月は特に隣県でも緊急事態宣言が発出され、一気に売上状況は厳しくなっている。
		観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・シティホテルを運営しているが、客室稼働率は20%以下に低迷し、観光目的の客は皆無に近い。出張がやむを得ないビジネス客がほとんどである。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言やGo To Travelキャンペーン停止の影響に加え、積雪や天候不順が続き、結果的に来場者が少なくなっている。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出に伴い、閉鎖になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響もあり、年末と比較すると景気が悪くなっている。緊急事態宣言が解除されると徐々に回復すると予想している。
		美容室（店長）	来客数の動き	・高齢客が多いため、新型コロナウイルス対策として、来店回数が減少している。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・派遣先から週休3日を含め臨時休業や派遣契約の打ち切り等の検討を求められるようになっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・前年末から今月に掛けての新型コロナウイルス第3波の感染拡大により、サービスのキャンセルが徐々に増加しつつあり、売上減少の要因となっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大のあおりを受け、サービス業関係及び観光業界は深刻な打撃を受け続けている。回復の見通しがみえない状況である。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・緊急事態宣言を受け、テレワークを導入している。集客のイベントが開催できず、危惧している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、客足が一気に遠のいている。街には活気がなく、全体の経済も冷え込んでおり、飲食店だけがクローズアップされているが、飲食店だけでなく幅広い業界の助成金や給付金を望んでいる。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・年が明けてから、商店街だけでなく、近隣のショッピングセンターでも極端に人の流れが悪くなっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・2度目の緊急事態宣言が発出され、来街来客数が大幅に減少している。街のなかには、人がいない状況になり、そのため、販売量も少なくなり、全体として飲食業以外でも厳しい状態である。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者、来客数が激減して、景気はどん底である。
	×	一般小売店〔青果〕（店長）	競争相手の様子	・近隣の居酒屋や食堂に納品しているが、前年の30～50%で低迷しており、厳しい状況になっている。
	×	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・前回の緊急事態宣言時では、個人の販売量が大幅に増えていたが、今回の状況は、飲食店向けや個人向け共に販売量が大幅に落ちている。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・緊急事態宣言発出後、注文が極端に減っている。特に、居酒屋の注文が激減し、小売の魚屋は非常に苦労している。仲卸としても魚屋からの注文が減り、売上が全然上がらない。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	販売量の動き	・当県独自の緊急事態宣言により、飲食店が時短営業になり、調味料や食材の売上が激減し、当社の事業に直接影響している。いずれ宣言が解除され通常の状態に戻っても、影響は長期間に及ぶことが予想される。
	×	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第3波が影響し、緊急事態宣言による行動制限もあり、来客数が減少傾向にある。
	×	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月は、前年からの感染拡大の影響で、緊急事態宣言が発出されたため、入店が大幅にマイナスになり、このことがダイレクトに売上に響いている。特に初商は、百貨店の売上では大きいですが、例年の半分程度に終わっている。加えて、大雪により非常に厳しい状況が続いた後の緊急事態宣言となり、深刻な状況である。
	×	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全店の売上合計は、10月97.8%であるが、1月は大雪の影響での全店休業があったり、また、一部の店舗ではクラスターが発生、加えて当市では緊急事態宣言の発出を受けたため、1月の見通しは62%となっており、落ち込んでいる。
	×	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍の再拡大が、来客数減少に大きく影響している。食品部門は、家中需要の継続で堅調であるが、それでも以前ほどの伸び率ではない。衣料品部門では、特に外出自粛によるファッション系の不振で、更に厳しい状況である。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され自粛となっているが、その影響で来客数が減少しており、前年比マイナス20%になっている。飲食店では時短営業になり、夜帯20時前後の売上は上昇するが、深夜と昼帯の来客数減により1日のトータルではマイナスである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言で多大な影響を受けている。新型コロナウイルス禍になる前から来客数減少の傾向はあったが、ますます拡大が止まらない。客単価は、上昇しているが、来客数減少を補えるほどの売上を確保できていない。中でも、オフィス立地では壊滅的で、存続も危ぶまれている。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出及び近隣からの新型コロナウイルス感染者発生により、在宅ワークの増加及び飲食店の時短営業等の影響で、大幅に来客数が減少している。
	×	コンビニ（店長）	それ以外	・新型コロナウイルス禍の影響で、営業時間短縮に対応できない。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの話題の影響で、外出回数も減少し、おしゃれをすることも少なくなり、客の動きが悪い。
	×	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・初売りから来客数はかなり少なかった上に、緊急事態宣言が出てからは、更に激減している。
	×	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当地では、独自の緊急事態宣言が発出されたため、来街者数が極端に減少し、その結果、当店への来客数が激減している状況である。
	×	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・10月は、新型コロナウイルス禍に少し慣れた傾向もあり、客の回遊があったが、1月は、正月明けから来店がなく、行動も慎重になっている状態で、非常に厳しい月である。
	×	家電量販店（店長）	お客様の様子	・県独自の緊急事態宣言や近隣のクラスター発生の影響で来客数が激減し、来客数は70%程度となっている。
	×	乗用車販売店（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で悪くなっている。
	×	住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・Webに掲載しているセール情報のレビュー数も急激に落ち込んでおり、当店に足を運ぼうとする客が減少していることが分かる。また、近隣の商店街でも人通りは減っており、かつ歩する人も日用品を買って、足早に帰路についている状態で、緊急事態宣言の影響が明らかに出ています。
	×	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されてから、来客数が激減している。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染が徐々に拡大したため、Go To Travelキャンペーン停止になり、また来店客がさっぱりなく、店を閉める状況になっている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・1月は2度目の緊急事態宣言が発出され、県内の客が全く来店しなくなっている。また、感染者も多く出ているため、動きも全くない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・Go Toキャンペーンの一時停止に加え、緊急事態宣言の発出及びキャンペーン再開延期により、全く正常な運営ができていない。支援金や給付金についても、小規模店舗とそうでない店舗が同額であり、違和感を抱いている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、年末から年明けに掛け来客数が激減し、さらに、緊急事態宣言が発出され、飲食業は壊滅状態である。
	×	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・飲食店と取引をしているが、緊急事態宣言後、業績が悪化している。また、ボーナスも減少しており、個人の景気も悪化している。
	×	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの一時停止と緊急事態宣言を受けて、客の動きがかなり悪くなっている。
	×	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、Go Toキャンペーンが停止になり予約が激減し、閉館状態が続いている。キャンセルの理由として、新型コロナウイルス感染対策としてではなく、Go To Travelキャンペーンが停止になったことが上げられている。現在、当地区では感染者数がゼロであり安全だという認識ではあるが、非常に影響を受けている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・Go To Travelキャンペーン停止の影響で、稼働率が上がらない。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、施設は時短営業を余儀なくされた上に、新規の予約も極めて低調で、まともに影響を受けている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・再度の緊急事態宣言の影響で、特に夜の人出がないためタクシー利用がなく、当社では夜間の営業を中止している。昼間は通勤に利用する程度で、例年の半分ほどである。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、客の来店が全くない。
企業 動向 関連 (九州)		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月以降に主要取引先からの受注が増えるため、良くなっていく。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・通常の受注関係も若干上昇しており、また、特にふるさと納税が前年と比較して3割上がっており、内容的には良くなっている。
		金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・新たな案件の引き合い数は、増加している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月になり、引き合いや見積案件が少し増え受注につながっている。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注価格や販売価格の動き	・前年比では、依然売上が減少しているが、1～3月は見込みどおりで、4月以降は見込み案件が増加傾向にある。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・健康食品やプロテインの受注量が伸びている。飲料に機能性成分を付加した健康食品や本格的な成分構成の高価なプロテインの受注量が伸びている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響を懸念していたが、現在のところは比較的安定した受注がある。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・下期の農業需要が低調である。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の機構が変わったために経営陣も入れ替わり、そのため、新しい経営陣とのコンタクトが薄くなり、従来のような状況を取り戻せず苦労している。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・下期に入っているが、継続して高い生産台数を維持している。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、将来の見通しが不透明である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大で、飲食業界は時短営業や休業を余儀なくされており、消費者の外出自粛の動きもあいまって、売上は激減している。食材や関連商材を扱う周辺業界にも深刻な影響が出ており、また、成人式の中止や延期で美容院や写真店も苦戦状態である。
		広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・前月までは、新型コロナウイルス禍への対応が落ち着き、ビジネス環境も上向き始めると考えていたが、第3波によってその勢いも失速している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の動きに、大きな変化が見られない。
		経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・同業者の新年の集まりで情報交換をしたが、特に新しい動きは見当たらない。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年1月は、厳しい月であるが、今年は、例年に増して一層厳しくなっている。特に、都心の緊急事態宣言発出後の外食、居酒屋等の注文のキャンセルが多く、1月の売上は、相場対10%が達成できない微妙なところである。前年も新型コロナウイルスの影響で厳しい1年であったが、今月の不振は、始めて味わう厳しい状態である。鳥インフルエンザの影響で、原料となる鶏の入荷のバランスが崩れ、一番の需要期に売れない鶏を入荷したことで、多くの在庫を強いられるところである。加えて、輸出も止まり経営的に深刻な状態である。
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・飲食業界への支給金額6万円の算定基準は分からないが、十分な金額ではないにしても、支援金や給付金があるようだが、工場にはない。取引先からの発注がより慎重になるため、受注が少なくなり、今後が懸念される状態である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・公共発注者の平準化の取組が強化されており、発注の予定はあるが、まだ入札時期が発表されずに困っている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・海上コンテナ不足で海上運賃の値上がり等が発生している。コンテナ不足は、当面続くとみられ、海外からの輸入品が日本に届かず、商品が流通しない結果になっている。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言発令の影響により、外食向け商品の動きが鈍っている。その他の貨物も少なからず影響を受けている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店やスーパーマーケット等の売上は、緩やかながら持ち直しの動きが見られるが、住宅販売は伸び悩んでいる。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、企業の求人が減少し、労働需給・雇用者所得共に弱い動きとなっており、厳しい状態が続いている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業や飲食業では、緊急事態宣言発出により休業若しくは時短営業を実施しており、収入がほぼない状態が続いている。また、人の動向も制限され、業種全体的に停滞感が見受けられ、やや悪くなっている。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、来期以降の投資動向がみえない企業が多い。
	×	鉄鋼業（役員）	それ以外	・電炉製品の原料となる鉄スクラップ価格が、急騰している。
	×	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響と年末の前倒し受注により、今月の受注は減少している。
	×	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・価格相場はやや好調に見えるが、新型コロナウイルスの影響で、生産ライン縮小の動きも止まらず、生産状況は低迷している。
	×	金融業（調査担当）	取引先の様子	・前年12月から新型コロナウイルス第3波の影響で、個人消費や企業生産活動に影を差している。半導体や脱炭素や医療関連産業等一部では回復の兆候が見られるものの、サービス業を中心として、新型コロナウイルス収束を見越していた企業の資金繰りにも悪影響が出始めていることから、3か月前と比較すると景気は悪化している。
	×	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で新聞広告や販売共に厳しい。
	×	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・飲食店の売上悪化で、関係取引先の売上前期比が50%ダウンしている。
	×	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・年末から正月に掛けて、どうにか成り立っているが、Go Toキャンペーンが停止になり、特に今月は緊急事態宣言も発出されたこともあり、当地区では人の姿が一気に消えている状態で、地方によっては情報にとっても敏感な状況である。全ての業種ではないが、周りを見渡すと厳しい状況である。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染対策に、市町村の補正予算が充てられているため、建設や調査等コンサルタント業務の予算がかなり減少している。また、当県が緊急事態宣言区域に指定されているため、近隣の県や市町村からの指名がストップされ、移動制限もあり県内の業務会議等が中止され、今後の受注が難しい状況である。
雇用関連	-	-	-	-
(九州)		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・新型コロナウイルス禍が直接的な要因と考えられるが、当市ではサービス業が中心のため、人の動きが少なくなり売上が低迷しており、求人意欲も低下している。現在は、新型コロナウイルス禍でも比較的影響を受けていないビルメンテナンス業界などに支えられている状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は夏以降徐々に増加傾向にあるが、業種に偏りがあり、一部の小売業では解雇も出ており、業種間で景気の濃淡がある。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・今月は、2021年卒業への求人も余り届いておらず、今年度中の就職活動を諦めた学生が出てきている。2022年卒業のインターンシップ案内もあるが、例年と比較し実施件数が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・直近3か月は、求人数は連月上昇していたが、緊急事態宣言を受け、求人数が停滞している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣登録の希望者が約6割ほど減少しており、求人に対する問合せも減っている。以前は人気のあった扶養内の事務等も希望者がなく、苦戦している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・当県にも独自の緊急事態宣言が発出されており、人出も消費活動も抑えられていると感じる。秋から年末に掛けての状況と比較しても、景気の活気さは鈍い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・前年末までは、Go Toキャンペーン等の恩恵もあり、飲食店含め経済活動も活発になり、ホテルや飲食関係者から安どの声が聞かれていた。一方で、非正規雇用の解雇は多く、求人の募集は増えていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の前年比の減少幅は小さくなっているものの、依然として下回っている。さらに、新型コロナウイルスが感染拡大しており、事業所から雇用調整助成金の相談が増加している。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス禍で求人数は減っており、その状態が続いている。さらに、新型コロナウイルス第3波により緊急事態宣言が発出されたこともあり、対面式のセミナーは減少し、Webセミナーが増えている。全体では景気が悪い印象だが、IT系企業はしっかり採用をしている。
	×	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言発出により披露宴の延期や中止が増加している。前年11月には若干盛り返していただけて大変痛い状況である。
	×	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・企業からの派遣の新規問合せ数が減少しており、紹介予定派遣の案件等は、全く動きがない状態が続いている。求職や登録者の数も伸び悩んでおり、企業、就業中スタッフ共に様子をうかがっている。
	×	新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言後、Go To Travelキャンペーンの年末年始の停止等により、低調であった旅行やホテル関係の広告が完全にストップしている。流通関係の企業でも、キャンセルが出たケースもある。広告の総量をもて、10～11月と比較して明らかに減少傾向である。

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (沖縄)		-	-	-
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・自粛で外食に行けなくなったため、冷凍食品やレトルト食品の売上が上昇している。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新料金プランの発表が追い風となり、来客数、販売量共に増えている。特に他社からの乗換えが増えている。契約者数の伸びも好調である。
		スーパー（販売企画）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍による来客数減少が続いている。客単価はアップしているが来客数減少をカバーできていないため、売上はやや厳しい状況である。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・携帯電話の販売では良くなる要素が見当たらない。
		住宅販売会社（代表取締役）	販売量の動き	・建築契約に関しては、一定の受注金額を維持している。
		一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で、感染者数が減らない。ワクチン接種の開始も遅れているため先行きが不安である。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍の影響で少人数での年始需要のなか、中食、内食、酒類は伸長している。ムーチーも好調に推移するも、全般的に来客数減少が継続し苦戦する。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・12月末からの首都圏での新型コロナウイルス感染者増加傾向を受けた年明けの緊急事態宣言発出による行動自粛要請に伴い、沖縄県への来県者激減等、取り巻く環境は悪化する状態である。観光客の減少と県独自の緊急事態宣言の発出により来店客が激減、特に夜は目立って減少している状況である。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・県独自の緊急事態宣言が出て入店も減っているために、流れから入店する客はいない。また自粛ムードや、経済が低迷していることからぜいたくな買物をしていない空気になっているとみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されて、来客数はもちろん、賃貸住宅の契約数も減っている。
	x	商店街（代表者）	来客数の動き	・現在の新型コロナウイルス感染の状況で、商店街の飲食店、衣料品店の個店はほとんどが大変危機的状況にある。
	x	百貨店（店舗企画）	来客数の動き	・年末から全国の新型コロナウイルス感染者数が増大し、今月に入ってからの沖縄県独自の緊急事態宣言発出により集客が激減し、期待していたGo To Travelキャンペーンも一時停止となっているため、前年8月の緊急事態宣言時に逆戻りとなっている。
	x	コンビニ（副店長）	来客数の動き	・政府と各県による独自の緊急事態宣言発出により、売上や来客数にも影響が出ており、大変厳しい状況である。この先の政府の動きや感染状況も不透明な部分が多く、売上への影響が継続するのではと危惧する。
	x	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言に基づく自粛要請で、営業時間が午後10時までだったのが午後8時までとなり、入客は前年比90%減少となったため、夜は全店休業にしている。昼間のランチ営業、弁当、オードブル、宅配委託とやっているが、固定費の構造が違うため、利益を出すには程遠い状況である。
	x	観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・年末年始のGo To Travelキャンペーン一時停止、緊急事態宣言及びGo To Travelキャンペーン一時停止の延長により、大幅に宿泊予約及び来客数が減少している。新年会などの宴会も自粛となり、前年60件ほどあったものが、実施されたのは0件となっている。
	x	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの前年10月の販売室数が前年比12%増加とプラスなのに対して、1月の販売室数は前年比84%減少とマイナスに転じている。
	x	旅行代理店（マネージャー）	それ以外	・Go To Travelキャンペーンのストップ、緊急事態宣言の延長で、キャンセルばかりとなり、新規予約はほとんどない。かなり厳しい状況になってきている。
	x	観光名所（職員）	来客数の動き	・Go Toキャンペーンで回復傾向が出ていたが、国の緊急事態宣言が出てから悪化している。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-	-
		-	-	-
		輸送業（経営企画室）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍における景気の水準が変わりなく継続しているとみられる。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・沖縄県の緊急事態宣言が発出され、一旦回復の兆しが見えた観光及び業務筋関連への売上が一気に悪化したように見受けられる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事向けは共に前年比で減少、特に民間は新型コロナウイルスの影響で予定工事の中止、保留の影響が出ている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・対面型で打合せを進める注文住宅がずっと止まったままである。リフォームは、引き合い件数が減少している。
	x	会計事務所（所長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響は観光業、飲食業だけではなく、関連する周辺業界へも波及しつつある。
雇用 関連 (沖縄)		-	-	-
		-	-	-
		人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言を受け、極めて厳しくなっている業種、企業と、逆に変わらない、あるいは需要の増している業種、企業の差が大きくなっている。派遣の需要はさほど変わらない。
		求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・3か月前の10月と比較すると求人数は微増している。ただし、1月19日に発出した沖縄県独自の緊急事態宣言により、企業の採用活動停止などがみられ、1月下旬に向けて求人数は減少傾向になっている。また前月12月から1月に掛けて求人数は大きく増加する予測であったが、微増したものの予測よりは下回る結果となっている。
		人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・求人案件が減少している。
	学校〔大学〕（就職支援担当）	求人数の動き	・年明け頃から新卒求人数が減っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	職業安定所（職員）	求人数の動き	・1月に入り民間企業からの求人が減少している。1日に受理する求人の職種も、人手不足である医療、介護、保育がおよそ7割を占め、また、ある程度の賃金額の求人は、有資格者求人であり、労働移動の難しさを感じられる。
	×	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年同月に比べ激減している。企業が採用を見送る、又は採用人数を減らす傾向にある。